

第五師團監督部長	第五師團各官衙各所ニ係ル收入、經費
第六師團監督部長	第六師團各官衙各所ニ係ル收入、經費
屯田兵監督部長	屯田兵各官衙屯田兵隊ニ係ル收入、經費
千住製鐵所長	千住製鐵所普通會計ニ係ル收入、經費

○陸軍第十一號

陸軍々人軍屬ニシテ日本郵船株式會社船舶へ乗込ノ者賃金減額ノ儀別紙甲號ノ通命令書ヲ下付シ其乗込手續ハ乙號ノ通定ム

陸軍大臣 伯爵西郷從道代理

陸軍次官 兒玉源太郎

明治二十八年二月二十七日

(別紙甲號)

陸軍々人軍屬汽船乗込命令書

日本郵船株式會社

第一條

一 陸軍々人軍屬ニシテ陸軍省ヨリ付與スル乘船證券ヲ携持スル者ハ日本郵船株式會社汽船々室上中下ノ等級ニ應シ其賃金定價ノ二割ヲ減却シ乘船スルコトヲ得セシムヘシ

但乘船證券ハ陸軍省ニ於テ之ヲ製シ豫メ雛形ヲ會社ヘ回致シ又該會社ノ乘船賃他ノ海運者ト競争等ノ事故ニ因テ現金定價ノ半迄下ルトキハ割引ヲ止ムヘシ

第二條

一 陸軍省ニ於テ付與スル所ノ乘船證券軍人ハ上長官以上上等室准士官以上中等室下士以下下等室軍屬ハ高等官五等以上上等室同六等以下中等室判任官以下下等室ヲ以テ定規トス然レトモ其證

券面ヨリ上等ノ室ヲ望ムトキハ本人ヨリ常人同額ノ賃金ヲ拂フモノトス

但本行ノ如ク上中下船室ノ別ヲ定ムト雖モ先客アリテ該室充滿シ或ハ各室ノ設ケナキ船ニ在リテハ證券面上等ヲ中等中等ヲ下等ノ室ニ充ツルハ時宜ニ因ルヘシ又既ニ船客滿員シ乗船ナシ難キ場合ニ於テ之ヲ辭ムハ會社ノ權ニアルヘシ

第三條

一 乘船證券ハ一名一葉宛ヲ付與ス

但此證券ヲ授クヘキ者一時數名渡航スルトキハ上中下等ノ各室ニ乗ルヘキ人員ノ證券ヲ其上級ノ者一名ニ付與スルコトアルヘシト雖モ此場合ニ於テハ其人ノ名ヲ記シタル證明書ヲ添付スヘシ

第四條

一 乘船證券ヲ以テ乗込ムヘキハ其賃金ヲ各自辨出スルモノニ止リ其他行軍或ハ官ノ賄ヲ受ケ渡航スル者或ハ陸軍省ヨリ運輸スル荷物ノ如キハ其社所定ノ賃金ヲ減却スルコトナシト雖モ右無減ノ賃金ヲ拂フヘキ乗船人荷物モ其社船舶ノ便船アル時ハ都テ其社ニ委託スヘシ

第五條

一 無賃攜帶スルヲ得ル手荷物ノ定限ハ尋常船客ト同様タルヘシ其限外ノ分ハ定價ノ運賃ヲ拂フモノトス

第六條

一 此命令書ハ今明治二十八年三月ヨリ同二十九年二月マテ一箇年間其效力ヲ有シ該年限滿期ニ至ルトキハ更ニ若干ノ年限ヲ定メ命令書ヲ下付スルコトアルヘシ

右命令ノ條款堅ク遵守スヘシ

明治二十八年二月

陸軍省

追テ此命令書ヲ下付スルニ付テハ乘込手續別紙ノ通相定候條其旨心得ヘシ
(別紙乙號)

日本郵船株式會社所有汽船乘込手續

第一條

一陸軍々入軍屬ニシテ減價ヲ以テ日本郵船株式會社所有船ニ搭シ各地方ニ渡航セント欲スル者ハ別紙雛形ノ如キ乘船證券ヲ以テ證左ト爲スヘシ

第二條

一此證券ハ陸軍省經理局ニ於テ之ヲ製シ各師團及屯田兵監督部並東京府下官廳軍吏等ノ許ニ各若干葉ヲ送付シ各監督部ニ於テハ管下各隊並官廳軍吏監督或ハ軍吏不在ノ地ニ設置ノノ許ニ各若干葉ヲ配賦シ置クヘシ

第三條

一乘船證券ヲ請求セントスル者ハ各監督部各官廳各隊ニ就キ之ヲ受領シ而シテ船室等級ノ賃金十分ノ二ヲ減シ乘船切符ヲ買收スルヲ得ヘシ尤該證券ハ乘船切符ト引換ニ之ヲ會社ニ渡スモノトス

第四條

一各監督部各官廳各隊等ニアリテハ乘船證券ヲ請求スル者アルトキハ監督部長(各課長及部員ノ内)(軍吏)監督或ハ軍吏不在ノ地ニ設置ノ官廳ニ在テハ證券ニ船室等級ノ區別所管官姓名等ヲ朱書ノ如ク填書シ署名捺印及割印ヲ爲シ本人ニ付與スヘシ

但乘船ノ證券ハ一名一葉宛ヲ交付シ又渡航往復スル者或ハ巡回各地ニ涉リ汽船乗換ヲ要スル等ノ者ハ豫メ其乘船ノ度數ヲ量リ證券幾葉ヲ付與シ置クヘシ尤殘餘ヲ生スルトキハ追テ還付

セシム可シ

第五條

一水火盜難等ノ爲メ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルトキハ當該近傍陸軍ノ廳或ハ屯在兵ニ屬スル軍吏ニ請ヒ又朝鮮國ニ在リテハ日本領事館ニ就キ請求スヘシ

但證券ヲ遺失スルトキハ其券面番號ヲ速ニ其付與ノ廳及會社ヘ通告スヘシ

第六條

一乘船證券ヲ請求シ切符買收ノ後事故アリテ乘船セサルカ又ハ乘船ノ地ヲ改替スルトキハ彙ニ買收スル所ノ社店ニ就キ事由ヲ陳述シ賃金及ヒ乘船證券ヲ取戻シ而シテ再ヒ之ヲ用フル事ヲ得ヘシ

第七條

一陸軍新兵入營ノ時大隊區司令部所在地他ノ地ニ召集シヨリ入營地迄ノ間ハ第一條ニ依リ賃金ヲ減却シ乘船スルコトヲ得ヘシ

(別紙乘船證券雛形略ス)

陸軍第十二號

海外へ派遣ノ陸軍電信工夫ニハ自今別紙ノ被服ヲ支給ス

陸軍大臣伯耆西郷從道代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年二月二十七日

(別紙) 陸軍電信工夫被服給與員數表

品目	品	質	員數	給與區分
制服				別紙圖例ニ依ル

帽	黑絨 前章及頭紐 黒革 圓形内ニ電ノ字ヲ置ク圓徑ハ一寸トス	一箇	初度一箇ヲ給ス
單	紺木綿 襟章白染抜 袖口及肩當 淺黄木綿	一箇	長膝下ヲ距ル約一寸ニ止
外	紺絨 背章 紺絨縫付	一箇	
腹	表紺木綿	一箇	
股	裏淺黄木綿	一箇	初度一箇ヲ給ス
襠	種 紺小絨	一箇	
足	袋 紺木綿	二箇	初度二箇ヲ給シ爾後實際 破損ニ從ヒ之ヲ給ス

(制服圖例略ス)

○海軍省達第八號

海軍豫備役後備役卒進級條例第一條ニ左ノ一項ヲ追加シ第二項ヲ第三項トス

明治二十八年二月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

二 海軍五等卒ノ各教育規則ヲ卒業シタルトキ

〔參照〕

海軍省達第七十一號海軍豫備役後備役卒進級條例(明治二十七年十二月十一日抄録)
第一條 戰時若クハ事變ノ際召集シタル豫備役後備役卒ハ左ノ場合ニ於テ海軍卒進級條例ニ依リ進級セシムルコトヲ得

○陸達第十三號

戰時各部團隊人員員數報告方昨二十七年十月陸達第二百二十八號ヲ以テ相達候處尙左ノ事項ハ日々

二ノ中死刑並ニ奏任官以上ノ裁判宣告及收禁釋放ヲ除ク外毎月末留守官衙ヨリニ野戰師團ノ師成地
四五ノ中下士以下人員馬匹員數ハ別紙表式ニ依リ毎月末及月末留守官衙ヨリニ在ル者ハ師團ヨ
リ報告スヘシ但從軍者ニ生セシ事項ニシテ通報ヲ受ケタルトキ亦同シ

明治二十八年二月二十八日

陸軍大臣伯爵西郷從道代理

陸軍次官兒玉源太郎

一所屬准士官以上及文官兵籍並名簿ニ登記ヲ要スヘキ人事ノ異動
中ノ死亡報告ハ別ニ定ムル處ニ依ル

二 所屬軍人軍屬裁判宣告及奏任官以上ノ收禁釋放

三 准士官以上並文官奏任以上任官請書

四 補充隊等ヨリ野戰各部隊ニ補缺セシ准士官以上八名下士以下人員馬匹員數

五 傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ戰地ヨリ送還セラレタル准士官以上八名下士以下人員但陸軍省ヨリ
配屬シタル下士判任文官並雇員ハ八名

六 傷痍疾病者ニシテ陸軍病院ヲ退キタル准士官以上並陸軍省ヨリ配屬シタル下士判任文官及雇員人
名

七 休暇ヲ與ヘ歸郷療養ヲ命シタル准士官以上及下士以下八名

(内ハ朱書)

明治二十八年 步兵第何聯隊補充大隊人員増減表 第何師團長姓名印

三月一日 調年

區分	階級	將校特務曹長見習士官		兵卒衛生部軍吏部諸工		計
		上士	下士	古兵新兵士官下士	看驗士官下士	
二月	日現在員					

考備	附錄	報月										
		中員在現		一月		前		前		前		
		隊	在	不	何	免	死	野	何	何	戰	
		計	逃	入	役	役	亡	戰	々	々	地	配
			亡	病	「一	符	「一	上	「一	在	送	限
				院	進	號	士	ニ	下	テ	送	二
					級	ヲ	官	於	士	ハ	送	月
					ハ	附	候	テ	上	ハ	送	一
					本	シ	補	新	ハ	此	送	日
					表	其	生	兵	式	式	送	調
					式	別	及	一	ハ	ハ	送	限
					ニ	記	一	年	官	官	送	二
					於	シ	志	志	名	名	送	月
					テ	其	願	願	ハ	ハ	送	全
					區	旨	兵	兵	ハ	ハ	送	月
					畫	ヲ	ノ	ノ	ハ	ハ	送	ヲ
					ヲ	備	字	字	ハ	ハ	送	以
					異	考	ヲ	朱	ハ	ハ	送	テ
					ニ	ニ	第	朱	ハ	ハ	送	前
					ス	紀	二	番	ハ	ハ	送	一
					ル	ス	期	ヲ	ハ	ハ	送	期
					進	ヘ	ノ	以	ハ	ハ	送	ト
					級	シ	教	テ	ハ	ハ	送	シ
					ニ	ハ	育	附	ハ	ハ	送	調
					限	其	ヲ	記	ハ	ハ	送	査
					リ	階	卒	ス	ハ	ハ	送	ス
					記	級	ラ	ハ	ハ	ハ	送	ハ
					ス	ニ	サ	ハ	ハ	ハ	送	シ
					ヘ	應	ル	ハ	ハ	ハ	送	シ
					シ	シ	モ	ハ	ハ	ハ	送	シ
						相	ノ	ハ	ハ	ハ	送	シ
						當	ヲ	ハ	ハ	ハ	送	シ
						ノ	云	ハ	ハ	ハ	送	シ
						區	フ	ハ	ハ	ハ	送	シ
						畫		ハ	ハ	ハ	送	シ
						ニ		ハ	ハ	ハ	送	シ
						適		ハ	ハ	ハ	送	シ
						宜		ハ	ハ	ハ	送	シ
						ノ		ハ	ハ	ハ	送	シ

報月									
何々		何々部		歩兵第		何隊		所屬	
病	傷	病	傷	病	傷	病	傷	區	階
								別	級
								官	將
								官	佐
								官	尉
								兵	科
								士	輸
								卒	輸
								督	監
								官	上
								官	士
								官	下
								士	下
								手	看
								醫	隊
								官	士
								士	下
								長	職
								工	職
								官	高
								官	任
								任	判
								履	人
								夫	人
								計	

明治二十八年 戰地還送患者人員表

第何師團長姓名印

人 事 課 「軍事費」屯田兵費、中隊給及諸給、(各兵科各部ノ休職者、停職者、東宮武官) 備一既約備外國人諸給、死傷手当、賠償及訴訟費、備外國人諸給ノ項ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ要スル局 考一課ノ擔任トス

○陸軍第十五號

明治二十七年ニ於テ決定シタル工兵監護候補名簿ハ尙ホ一箇年間之ヲ採用ス

明治二十八年三月四日

陸軍大臣伯爵西郷從道代理
陸軍次官兒玉源太郎

○海軍省達第十號(關)

○海軍省達第十一號(關)

○海軍省達第十二號

橫須賀鎮守府造船部ニ於テ製造ノ乙號巡洋艦ヲ須磨ト命名セラル

明治二十八年三月九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第十三號

左ノ事項ニ係ル物品ノ調辨及出納等ニ屬スル取扱方ハ本年四月一日ヨリ各其經理規程ニ據ラス通常物品ノ規程ニ據リ取扱フヘシ

明治二十八年三月十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

一 海軍糧食條例第一條中在監人ノ糧食品

一 海軍被服條例第七條中監獄ニ在ル患者ニ貸與ノ被服物品及第八條ニ依リ貸與ノ被服物品

一 同第九條第一項ニ依リ貸與ノ被服物品

○海軍省達第十四號

臨時軍事費整理規程中左ノ通改正ス

明治二十八年三月十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

第二條第一、第一項中「臨時増員文官」トアルヲ「臨時増員若クハ他ノ官衙ヨリ一時附屬セシメラル」タル文官及陸軍軍人ニ改ム

同條第十六ニ左ノ但書ヲ加フ

但既ニ常設シタル望樓ニ關スル經費ハ當事件ノ爲メ臨時必要ノ外明治二十八年四月一日ヨリ經常費ノ支辨トス

別表臨時軍事費科目中俸給及諸給ノ目細別欄内臨時増員文官俸給ノ次ニ陸軍軍人俸給ノ六字ヲ加ヘ兵器製造場假設費ノ目ノ次ニ燈臺位置測量費ノ一目ヲ加フ

○海軍省達第十五號

通常物品出納命令官會計官吏ヲ左ノ通改正ス

明治二十八年三月十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

本	省	建	築	用	器	具	物	品	出	納	命	令	官	會	計	官	吏
本省、軍令部、技術會議、衛生會議、東京軍法會議	本	軍港要港防禦材料、艦船留用物品、防火用物品及所屬船艇留用物品	知	港	事	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員	×知港事廳屬員
	本	造船材料、艦船附屬物品及艦船取外物品	造	船	部	長	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員	×造船部屬員
	本	吳鎮守府造船支部造船材料、艦船附屬物品及艦船取外物品	吳	鎮	守	府	造	船	支	部	長	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管
	本	吳鎮守府造船支部器具機械、工場需用品、艦用器具、及患者需用物品	吳	鎮	守	府	造	船	支	部	長	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管	×造船材料倉庫主管
	本	兵器保管運搬用物品	武	庫	主	管	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員	×武庫屬員

一欄ヲ加フ
明治二十八年三月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

類	包	器	材	手
日	給	八	拾	錢

○海軍省達第二十號

明治二十七年五月達第六十八號書式第一書式乃至第四書式中軍人恩給法ノ下「第何條ニ據リ」ヲニ據リ相當ノニ改メ第二書式中退職及免除ノ五字ヲ削除ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十八年三月二十一日

○陸軍第十七號

屯田兵服役細則第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理
陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年三月二十三日

第八條 下士ニシテ准士官以上ニ任用セラレ其他服役ノ資格ヲ變更シタルトキハ其嗣子又ハ相續人ヲシテ屯田兵役ヲ相續セシム可シ但屯田兵役相續ノ爲メ特ニ戸主トナスヲ要セス

其嗣子又ハ相續人幼弱ナルトキハ前條ノ例ニ依ル

○陸軍第十八號

今同ノ事件ニ付召集中ノ豫備後備下士及下士適任證書ヲ所持スル者ニシテ滿期後引續キ服役センコトヲ豫メ願出ル者アルトキハ所屬部隊長ニ於テ之ヲ許可シ其旨大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ通報ス可シ

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理
陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年三月二十三日

○海軍省達第二十一號

海軍監獄看守任用規則第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十八年三月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

但看守ニ任用スルハ滿三年以上服役スヘキ者タルヘシ

〔参照〕

海軍省達第五十九號海軍監獄看守任用規則(明治二十六年五月二十日抄録)

○海軍省達第二十二號

海軍省達第二十二號

海軍省達第二十二號

海軍省達第二十二號

海軍大臣伯爵西郷從道

規程及書式中ニ「艦團隊校廳」トアルヲ「艦團隊」第二局長トアルヲ「經理局長」鎮守府司令長官及司令長官トアルヲ「鎮守府監督部長(倉庫)トアルヲ「艦營需品庫」會計監督部トアルヲ「鎮守府監督部」ト改ム

第一條中「機關學校及大學校兵學校鎮守府知港事所屬ノ船舶」ヲ削除ス

第二條第七條第十條第十二條第十五條第十九條第五十四條ヲ削除ス

第九條ヲ左ノ通改ム

第九條 艦團隊ニ於テハ需品ノ主管者及分擔者ヲ左ノ如ク定ム但相當ノ主管者及分擔者アラサルトキハ艦團隊長ニ於テ之ヲ定メ其職氏名ヲ所屬鎮守府監督部長ニ通報スヘシ

主管者 砲術長

分擔者 掌砲長

明治二十八年三月 陸軍省第二十二號 第二十二號

水雷長 掌水雷長
航海長 掌帆長
機關長 船匠師
主計長 機關師
先任主帳

第二十二條中「臨ミ需品制限表外ノ物品」トアルヲ「於テ主管別豫算外若クハ制限外ノ需品」ト改ム
第二十六條中「司令長官ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ」トアルヲ「適宜處分スヘシ」ト改ム
第四十二條中「校廳」ヲ削除ス
第四十四條中「届出テ」トアルヲ「報告シ」ト改ム
第四十五條第四十八條中「届出ヘシ」トアルヲ「報告スヘシ」ト改ム

〔参照〕

海軍省第五十一號需品經理規程(明治二十四年三月二十三日抄録)

第一條 需品トハ艦隊機關學校及大學校兵學校鎮守府知港事所屬ノ船舶ニ供給スル物品ヲ總稱ス
第二條 需品定額表中航海長主管ニ屬スル測量用品及消耗品ハ鎮守府測器主管ヨリ供給シ圖書ハ鎮守府文庫ヨリ供給シ其他ノ需品ハ艦隊需品倉庫ヨリ供給ス
第七條 需品ノ供給ハ各鎮守府ニ需品制限表ヲ備置キ該表ニ於テ定ムル所ノ定限ヲ以テ最上限トス
第九條 艦隊機關學校ニ於テハ需品ノ主管者及分擔者ヲ置キ需品出納ノ事ヲ取扱ハシムヘシ
大學校兵學校機關學校ニ於テハ校長ニ於テ主管者及分擔者ヲ定メ知港事所ニ在テハ副知港事ヲ主管者トシ知港事ニ於テ其分擔者ヲ定ムヘシ但校長知港事ニ於テ主管者分擔者ヲ定メタルトキハ其職氏名ヲ需品供給所屬鎮守府司令長官ニ報告ス可シ
艦隊ニ在テハ主管者及分擔者ヲ定ムルコト左ノ如シ
主管者 分擔者
砲術長 掌砲長
水雷長 掌水雷長

航海長 掌帆長
機關長 機關師
主計長 先任主帳

主管者分擔者ノ需品取扱ニ關スル簿記整理ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
第十條 艦隊機關學校ニ於テ需品ノ主管者若クハ分擔者不在者ハ其他ノ事故ニ因リ事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ該長ニ於テ他人ニ其代理ヲ命スルコトヲ得但代理ヲ命シタルトキハ供給所屬鎮守府司令長官ニ代理者ノ職氏名ヲ通報スヘシ
第十二條 大學校所屬船舶ノ需品ハ横須賀鎮守府ヨリ供給シ兵學校所屬船舶ノ需品ハ吳鎮守府ヨリ供給スルモノトス
第十五條 鎮守府司令長官需品豫算ノ專ニ付第二局長ヨリ照會ヲ受クルコトアルトキハ要求ノ期日マテニ詳細ノ回答ヲ爲ス可シ
第十九條 鎮守府司令長官ハ主計部長ヲシテ需品須要ノ緩急ヲ計量セシメ配賦セラレタル豫算ヲ以テ需品ヲ購買準備供給セシムヘシ
第二十二條 鎮守府司令長官非常急遽ノ場合ニ臨ミ需品制限表外ノ物品供給ヲ必要ト認メタルトキハ臨時處分シ後チ其事由ヲ具シ大臣ニ報告スヘシ
第二十六條 兵備品出納命令官第二十條第二十一條ノ需品供給ノ要求ヲ受クルトキハ豫算ノ現況供給ノ要否ヲ調査シ司令長官ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ
第四十二條 航海ノ役務ニ服セサル艦船及團隊校艦ニ於テハ主管別豫算ノ三分ノ一以上ノ需品ヲ一時ニ要求スルコトヲ得ス
第四十四條 艦隊機關學校ニ於テ消耗品ノ損敗シ又ハ定額品ノ毀損シタルモノアルヲ認メタルトキハ其事由ヲ詳記シ鎮守府司令長官ニ届出テ其物品ハ倉庫ニ還納スヘシ
第四十五條 艦隊機關學校ニ於テ需品ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ本管鎮守府司令長官ニ届出ヘシ
第四十六條 艦船航海中ニ在テ消耗品ノ自然腐敗シ衛生上ニ害アリ格闘シ難キト認ルモノアルトキハ艦船長隨機ノ處分ヲ爲シ本管鎮守府司令長官ニ届出ヘシ
第五十四條 第二局長ハ需品決算書及需品供給統計表ヲ作り當該年度需品經濟ノ結果ヲ大臣ニ具申シ及鎮守府司令長官艦隊司令長官艦隊機關學校校長ヘ統計表ヲ配付スヘシ

○海軍省第二十二號
艦隊機關學校需品出納整理規程ヲ艦隊需品出納整理規程ト改メ該規程中左ノ通改正ス

但本達ハ本年四月一日ヨリ施行ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十八年三月二十四日
規程及書式中「艦隊校廳」トアルヲ「艦隊」司令長官トアルヲ「監督部長」要請トアルヲ「要求」ト改ム

○海軍省達第二十四號(關)

○海軍省達第二十五號(關)

○海軍省達第二十六號

海軍糧食條例第七條ニ依リ支給スル金額ハ明治二十八年度間左ノ通定ム

明治二十八年三月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

食	料		別	金額
	内	外		
食	内	外	國	八
夜	内	外	國	五
犯	内	外	國	二
罪	内	外	國	一
者	内	外	國	一
食	内	外	國	六
料	内	外	國	一
備	内	外	國	六
考	内	外	國	一

清國朝鮮國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國ノ額ニ依ル

〔參照〕

勅令第十四號海軍糧食條例(明治二十三年二月十三日官報)抄錄
第七條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ食料ノ度數ニ應ジ現金ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得
一 艦船營内ニ於テ准士官以上各別ニ炊爨スルトキ

- 二 生徒ニ外泊ヲ命シタルトキ
- 三 生徒下士卒從儀則並朝夫ニ休暇ヲ命シタルトキ
- 四 糧食ヲ配給スルコトヲ得ザルトキ

○陸達第十九號

今般勅令第十九號ヲ以テ監督部及軍吏部士官補充ノ件制定セラレ候ニ付其監督部士官ニ係ル特選手續左ノ通定ム

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年三月二十六日

各兵科大尉又ハ一等軍吏ニシテ監督任務ニ適當ト認ムル者ハ經理局長若クハ野戰監督長官必要ニ應ジ任官ノコトヲ具申又ハ移牒ス

○海軍省達第二十七號

海軍軍人俸給加俸支給細則第十條ヲ左ノ通改正ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十八年三月二十六日

第十條 准士官以上候補生及下士卒死亡シタルトキ俸給ハ其ノ月末日マテ加俸ハ其ノ當日マテ之ヲ支給ス

〔參照〕

海軍省達第四十五號海軍軍人俸給加俸支給細則(明治二十七年三月三十一日)抄錄
第十條 准士官以上候補生及下士卒死亡シタルトキハ其ノ當日マテ俸給及加俸ヲ支給ス

○海軍省達第二十八號(關)

○海軍省達第二十九號

水路部處務細則中左ノ通改正ス

海軍大臣伯爵西郷從道

第十六條第六項ヲ削ル
第十八條ヲ左ノ通改ム

第十八條 印刷掛ハ左ノ事ヲ掌ル

- 一 銅版印刷
 - 二 石版印刷
 - 三 亞鉛版印刷
 - 四 鍍版
 - 五 表裝
 - 六 水路告示ニ因テ起ル水路誌改補ノ記事等印刷
 - 七 圖書原版ノ保存
- 第二十一條第三項中「製圖及彫刻掛」ヲ「製圖彫刻及印刷掛」ト改ム
第二十三條ヲ左ノ通改ム
第二十三條 製圖彫刻及印刷掛ノ各先任技手ハ各掛ノ長トナリ科僚ノ命ヲ受ケテ掛中ノ庶務ヲ取扱ハシム

〔參照〕

- 海軍省達第四號水路部處務細則(明治二十七年一月二十三日)抄録
- 第十六條 製圖掛ハ左ノ事ヲ掌ル
- 一條例第十二條第一項
- 二 淨寫
- 三 補寫
- 四 編寫
- 五 寫真
- 六 銅版石版ノ保存
- 第十八條 印刷掛ハ左ノ事ヲ掌ル

一 銅版印刷
二 石版印刷
三 鍍版
四 表裝
五 水路告示ニ因テ起ル水路誌改補ノ記事等印刷
第二十一條 科僚ハ左ノ事ヲ掌ル
三 製圖及彫刻掛ヲ指揮シテ其事業ニ服セシムル事
第二十三條 製圖掛ノ先任技手ハ該掛ノ長トナリ科僚ノ命ヲ受ケ彫刻掛及印刷掛ヲ兼掌ス

○海軍省達第三十號
龍田定員職別表中職名ノ欄機關長ヲ「機關長兼水營主務」ト改ム
明治二十八年三月二十七日
海軍大臣伯爵西鄉從道

○陸軍第二十號
屯田兵給與令細則中左ノ通改正ス

明治二十八年三月三十日

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理
陸軍次官兒玉源太郎

- 第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
中隊ニ在テ前二項ノ積立金ハ豫備役滿期ノ際所屬大隊ノ當該費目ノ積立金ニ移スヘシ
- 第三條中「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改メ「加俸」ノ下割註ヲ削リ「特別俸」ノ下ニ「隊附特別加俸」ノ六字ヲ加フ
- 第四條中「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改ム
- 第五條第二項削除
- 第九條 扶助年限滿期ノ現役下士兵卒勤務ニ服シタルトキハ其日數ニ應シ俸給ヲ給ス但守衛勤務營倉番兵及日直等ハ勤務翌日ニ涉ルモ一日分ノ外給セス

前項勤務演習ニ係ルモノハ演習費ニ屬ス

第十條 豫備後備ノ准士官以上下士兵卒ノ者ヲ除キ召集シタルトキノ俸給ハ到着ノ後部隊編入當日ヨリ解散前日マテ給シ部隊ニ編入セサルモノハ到着當日ヨリ解散當日マテ給ス但守衛勤務營倉番兵及日直等ハ勤務翌日ニ涉ルモノ一日分ノ外給セス

前項召集演習ニ係ルモノハ演習費ニ屬ス

第十二條 削除

第十四條 本令第十一條ノ隊附特別加俸ノ支給區分左ノ如シ

- 一 甲額 雨龍 兵村設置ノ日ヨリ
- 二 乙額 上川 根室 厚岸 雨龍 兵村設置ノ日ヨリ
- 三 丙額 瀧川 沼貝 室蘭 雨龍 兵村設置ノ日ヨリ
- 四 丁額 篠路 新琴似 雨龍 兵村設置ノ日ヨリ

第十九條中「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改ム

第二十二條第一項中「士官以上及下士兵卒」ヲ「准士官以上及外宿加俸ヲ受クル下士」ニ改メ第二項中第九條及第十條ニ當ル者ヲ「外宿加俸ヲ受ケサル下士兵卒勤務若クハ召集中給料ヲ受クル者」ニ改ム

第二十三條第一項中「士官以上及下士兵卒禁錮拘留收禁」ヲ「准士官以上及外宿加俸ヲ受クル下士監獄ニ拘禁」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム

外宿加俸ヲ受ケサル下士兵卒勤務若クハ召集中給料ヲ受クル者監獄ニ拘禁中ハ俸給ヲ給セス但收禁留置中ハ半額ヲ減ス

第二十五條中「留置收禁拘留禁錮」ヲ「監獄ニ拘禁留置」ニ改ム

第二十六條但書中「留置收禁」ヲ「監獄ニ拘禁留置」ニ改ム

第二十八條中「職務増俸」モ亦同シ「八」字ヲ削リ「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改ム

第二十九條中「士官以上」ヲ「准士官以上」ニ改ム

第四章ノ下「食料」ヲ「糧食」ニ改ム

第三十九條 本令第十八條第二項第二項ノ場合ニアリテハ現食數ニ應シ第三表ノ定額内ヲ以テ實費ヲ仕拂フヘシ但時宜ニ依リ其定額ヲ本人ニ支給スルコトヲ得

第四十條 本令第十八條第三項第四項ノ場合ニアリテハ日數ニ應シ第三表ノ食料ヲ給ス但守衛勤務營倉番兵及日直等ハ勤務翌日ニ涉ルモノ一日分ノ外給セス

第四十一條 本令第三表ノ糧食及夜食料ハ左ノ各項ニ依リ支給ス

一 准士官以上下士兵卒軍馬丁野外演習中自炊ヲ爲ストキハ現食數ニ應シ糧食定額内ヲ以テ實費ヲ仕拂フヘシ

二 准士官以上下士兵卒軍馬丁露營若クハ夜間作業ヲ爲ストキ又ハ夜中行軍四時間以上ニ及フトキハ其人員ニ應シ夜食料定額内ヲ以テ實費ヲ仕拂フヘシ

三 下士兵卒及軍馬丁軍官以上ノ相不寢番ヲ爲ストキハ其定額ヲ本人ニ支給ス

第四十三條第二項中「支拂」ノ下ニ「殘金アルトキハ」之ヲ本人ニ付與シ十五字ヲ加フ

第四十四條第一項中「甲表」ノ下ニ「屯田兵科ニアサルトキハ」之ヲ本人ニ付與シ十五字ヲ加フ

後備役下士兵卒召集中ノ被服ハ其季節ニ應シ貯藏品ヲ以テ之ヲ給シ其被服保續料ハ該定額ヲ現人員ノ召集日數ヨリニ應シ該隊ニ交付ス各隊ハ之ヲ以テ該被服一切ノ費用ニ充ツヘシ

本令第二十二條及第二十四條ノ被服地質ハ陸軍被服廠ヨリ之ヲ交付ス

第四十五條中「兵卒」ノ「二」字ヲ削ル

第四十九條中「及靴下」ノ四字ヲ削リ「返還ヲ」ニ改ム

第五十條 屯田兵出身ノ下士上等兵ニ日勤ノ職務ヲ命シタルトキ其被服ハ從前ノ給與品ヲ以テ應用セシメ尙本令第六表ニ依リ増給ヲ要スルモノハ之ヲ加給シ若クハ給與年月ニ照シテ之ヲ給スヘシ其職務ヲ離レ若クハ死亡シタルトキハ在職中増給ノ被服 襪靴下ヲ除クニ限リ之ヲ還納セシムヘシ

第五十一條第二項中品中日常著用ノ大小被服ヲ除クノ外ハ該隊被服庫ニ格納シ「ハ常ニ該隊被服庫ニ格納セシメ」勤務其他所要ノ際之ヲ著裝ニ改メ第二項ヲ削ル

第五十二條 各師團諸隊及官衙ヨリ轉任ノ者アルトキハ該部隊ニ於テ攜帶セシ被服品中製式ノ異ナルモノハ之ヲ改修或ハ交換シ尙營内居住ノ下士ヨリ轉シタル者ニハ被服代金ノ甲額ヲ給シテ大小被服ヲ調辨セシメ攜帶ノ夏衣袴ハ其部隊ニ還納セシメ又營外居住ノ下士ヨリ轉シタル者ニハ從前給與ノ年月ヲ逐日被服代金ノ乙額ヲ給スヘシ

轉任直ニ屯田兵出身下士トナリタル者ノ被服ハ更ニ本令第六表ニ依リ之ヲ給シ攜帶ノ被服ハ該部隊ニ還納セシメ外宿加俸ヲ受クル者ヨリ屯田兵出身下士トナリタル者モ亦之ニ準ス

第五十六條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項中「外宿加俸ヲ受クル下士」ノ下「兵卒」ノ二字ヲ削ル但補給スル被服ハ現存品ヲ加ヘ初度給與ノ員數ニ充タヌヲ以テ度トス

第五十七條中「兵卒」ノ二字ヲ削ル

第五十九條中「返還ヲ」ニ改ム
第六十條第一項中「返還ヲ」ニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム
外宿加俸ヲ受クル下士ニシテ現役ヲ離レ又ハ死亡シタルトキハ被服代金ヲ以テ調辨ノ大被服及

現品給與ノ被服ニ限リ其所持定數ヲ還納セシムヘシ
第六十一條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項中「返還ヲ」ニ改ム

屯田兵出身ノ下士兵卒後備役ニ入ルトキハ其所持ノ被服悉皆還納セシムヘシ
第六十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

後備役下士兵卒召集中死亡ノ者モ前項ニ準ス
第六十三條中「被服修理料被服手入具永續料」ハ其定員ニ各ヲ「被服補修料」ハ定員ニ其ニ改ム

第六十四條 本令第二十二條第二項第三項第四項ノ定額ニ殘餘アルトキハ之ヲ被服積立金トナシ
第二十三條ノ定額ニ殘餘アルトキハ之ヲ被服補修料積立金トナシ第二十四條ノ定額ニ殘餘アルトキハ之ヲ被服永續料積立金トナスヘシ

第六十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第二項中前項馬飼料及飼養料ヲ「前二項ノ馬飼料及飼養料自馬飼養手當」ニ改ム

自馬飼養手當ハ兵候兵ヲ命シタル當日ヨリ現役滿期ノ當日迄給ス但現役免除ノ者ハ前日迄之ヲ給ス死亡ノ者ハ前日限リ之ヲ止ム

第六十七條ニ左ノ二項ヲ加フ
本令第二十七條ノ馬糧ハ現飼數ニ應シ定額内ヲ以テ飼養スヘシ但端飼養計算法ハ朝飼麥二升秣五百匁藁百匁トシ夕飼ハ麥二升秣一貫匁藁七百匁トス

前項ノ馬糧ハ大麥干草藁ヲ給スルモノト雖モ時宜ニ依リ代用品ヲ以テ飼養スルコトヲ得此場合ニ於テハ時價ヲ以テ各品定量ニ乘シ得タル所ノ金額ヲ超過スヘカラス

第七十七條ニ左ノ一項ヲ加フ
本令第三十三條ノ各地燧爐焚方期限ハ辛表ニ依ルト雖モ其定額以内ヲ以テ期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第八十一條第二項中「兵卒」ノ二字ヲ削ル

第八十六條但書中「士官以上及外宿加俸ヲ受クル下士以下」ニ在テハ「宿舍料ヲ除クノ外」ノ二十字

ヲ削ル

第八十八條但書中「宿舍料ヲ除クノ外」ノ八字ヲ削ル

第九十一條中第三十二表ノ下ニ「若クハ庚表」ノ五字ヲ加フ

第九十一條中「己表」ヲ「丁表」ニ改ム

第九十二條削除

第九十五條中「毎月末日」ヲ「毎月二十五日」ニ改ム

第九十九條ニ左ノ二項ヲ加フ

行軍演習途中若クハ召集中ニ於テ死亡シ家族ニ於テ埋葬スルヲ得サル場合ニ在テハ定額ヲ以テ

支辨シ「殘金アルトキハ」之ヲ家族ニ下付ス

豫備役後備役下士兵卒召集解散ノ際疾病ノ爲メ入病院中死亡スルモノハ定額ヲ自途トシ實費支

辨スヘシ

甲表ヲ別表ノ如ク改ム

乙表被服手入具ノ區畫中「屬具袋」ヲ「磨板麻袋」ニ改ム

丙表ヲ別表ノ如ク改ム

丁表ヲ別表ノ如ク加フ

戊表ニ左ノ一項ヲ加フ

一 特務曹長ハ准士官ノ額ニ依ル

己表中「士官以上奏任官」ヲ「准士官以上奏任官」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

一 特務曹長ハ准士官ノ額ニ依ル

庚表ニ左ノ一項ヲ加フ

一 特務曹長ハ准士官ノ額ニ依ル

辛表ヲ別表ノ如ク加フ

附則
本細則中隊附特別加俸ノ條項ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行シ移殖地在職手當ノ條項ハ同年三月二十一日限リ廢止ス
(別冊)

甲表

分區		品目	名	稱	調製	順序
大	破	第一種帽	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	初度一箇ヲ調製シ爾後滿九年毎ニ一箇ヲ調製スルモノトス		
		第二種帽	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	初度一箇ヲ調製シ爾後滿二年毎ニ一箇ヲ調製スルモノトス		
		第一種衣袴	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	初度一組ヲ調製シ第二年度及第三年度ニ至リ尙一組ヲ調製スルモノトス		
		日 覆	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	初度二箇ヲ調製シ爾後滿四十二箇月毎ニ二箇ヲ調製スルモノトス		
		夏衣袴	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	初度二組ヲ調製シ第三年度ニ至リ尙一組ヲ調製スルモノトス		
		外 鞋	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹	從前ノ給與品ニ繼續シ滿四年毎ニ一箇ヲ調製スルモノトス		
		下 襪	各兵特務曹長			
		襪 布	步騎砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹			
		白 下著	各兵特務曹長			
		冬襪袴袴下	各兵特務曹長			
小	夏襪袴袴下	各兵特務曹長				
		各兵特務曹長				
		各兵特務曹長				
革製手袋	各兵特務曹長					
	各兵特務曹長					

小被服ハ各自適宜ニ調製セシムト雖モ第一二年目ニ於テ所持定數ニ充實スルモノト

被服		分區	
組靴	各兵特務曹長 歩砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹 鞍銃木鐵蹄鐵工長下長	第一種帽	特務曹長一屯田兵出身 外宿加務ヲ受ケル下士
革製脚絆	騎砲兵特務曹長	前立	一箇
麻製脚絆	歩砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹 鞍銃木鐵蹄鐵工長下長	第二種帽	三箇
靴下	各兵特務曹長 歩砲工兵曹長軍曹火工曹長軍曹 鞍銃木鐵蹄鐵工長下長	正衣袴	一組
拍車	騎砲兵特務曹長	軍衣袴	三組
		第一種袴	四組

一大被服中第一種帽前立日履及外袴ハ供用期限ヲ經過スルモ該所管ニ於テ尙供用ニ堪ユルト認ムルトキハ其調製ヲ延期セシムルモ妨ケナシ

被服		分區	
第一種衣袴	四組	第二種衣袴	二組
軍衣袴	三組	外	一箇
正衣袴	一組	雨	一箇
前立	一箇	夏	三組
第一種帽	一箇	日	二箇
第二種帽	三箇	肩	一組
前立	一箇	被服手入具	一組
正衣袴	一組	飯盒	一箇
軍衣袴	三組	飯骨柳網袋	一箇
第一種袴	四組	水筒	一箇
		厚毛布	一箇

被服		分區	
下襟	二箇	靴下	三組
白下著	二箇	拍車	一組
冬襪袴下	三組	作業衣袴	一組
夏襪袴下	三組	背蓋	一箇
手套	二組	被服手入具	一組
短靴	三組	飯盒	一箇
絨製脚絆	二組	飯骨柳網袋	一箇
革製脚絆	二組	水筒	一箇
麻製脚絆	三組	厚毛布	一箇

一日勤下士上等兵ニ在リテハ外宿加務ヲ受クル下士ノ所持定數ニ準ス

丁表	
名	稱
下士以下判任官參	日額
兵	卒
一厘員月額拾貳圓以上八下士ニ拾貳圓未満ハ兵卒ニ準ス	拾五錢

辛 表

英方期限	從四月三十一日	至四月三十一日	從五月十一日	至五月十一日
地 名	江 室 札	別 雨	龍 川 厚	別 岸 室
	閣 上	知 根		

〔參照〕

陸軍第二十號也田兵給與令細則(明治二十三年十一月二十八日)抄録

第一條 本令第四條ノ定額仕拂殘金ハ各費目毎ニ其積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ
前項ノ定額支辨ニ係ル諸品ノ廢物賣却代並損壞遺失等ノ補償金モ亦該費目ニ編入スヘシ

第三條 此細則ニ於テ俸給ト稱スルトキハ士官以上俸給下士兵卒給料見習士官手當金其他總テノ加俸ヲ除クテ包含シ士官以上俸給ト稱スルトキハ職務俸特別俸上級ノ職務心得動加給俸ヲ包含シ下士兵卒ノ給料ト稱スルトキハ諸加俸ヲ包含ス

第四條 士官以上ノ俸給ハ年額ヲ十二分シ毎月二十五日之ヲ給ス

第五條 下士兵卒ノ給料及ヒ見習士官ノ手當金ハ其月額ヲ毎月二十五日之ヲ給ス
職務俸ハ其給料ヲ給スルノ日ニ別ニ給ス

第九條 豫備後備下士兵卒及ヒ扶助年限満期ノ現役下士兵卒公務ニ服シタルトキハ其日數ニ應シ俸給ヲ給ス
第十條 豫備後備士官以上及ヒ下士兵卒並扶助年限満期ノ現役下士兵卒召集中ノ俸給ハ到著ノ後部隊編入當日ヨリ解散前日マテ給ス

第十二條 薪ニ外宿加俸ヲ受ル兵卒トナリタル者ハ兵卒ヲ命シタル日ヨリ給料ヲ給ス

第十四條 職務俸ハ其職務ニ就キタル日ヨリ給シ免セラレタルトキハ其命ヲ受ケタル前日マテ給ス
請願休暇留置收禁謹慎及ヒ拘留以上ノ處刑中ハ給スルコトナシ
傷疾疾病及ヒ其他事故ニ依リ缺勤中代理ヲ命スルトキハ其當日ヨリ増俸ハ代理者ニ給ス缺員ニ當リ代理ヲ置クトキモ亦同シ

第十九條 士官以上及ヒ下士兵卒請願休暇時日數三十日間ハ俸給ヲ減セスト雖モ其後ハ日割ヲ以テ半額ヲ減ス

第二十二條 士官以上及ヒ下士兵卒傷疾疾病ニ罹リ引籠ル日數百八十日ヲ超過スルトキハ其日ヨリ日割ヲ以テ俸給半額ヲ減ス但一等症ノ者ハ此限ニアラス

第九條及ヒ第十條ニ當ル者傷疾疾病ニ罹リ病院病室ニ入り又ハ轉地療養スルモノハ二等症ハ給料全額ヲ給シ其他ハ半額ヲ減ス

第二十三條 士官以上及ヒ下士兵卒禁錮拘留收禁留置中ハ俸給半額ヲ減ス但休職停職ノ者ハ此限ニアラス

第九條及ヒ第十條ニ依リ給料ヲ受ル者禁錮拘留中ハ俸給ヲ給セス但收禁留置中ハ半額ヲ減給ス(下略)

第二十五條 判任以上ノ軍屬留置收禁拘留禁錮中ハ第二十三條ニ據リ職役ヲ離レ又ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者ハ前條ニ準ス

第二十六條 判任以上ノ軍屬廢官退官又ハ死亡シ其月ノ俸給全額ヲ給スヘキ者ニシテ前條ニ當ルトキ俸給ヲ減却スルハ其當日マテトス但留置收禁中ノ者無罪若クハ免訴トナリ又ハ死亡スルトキハ不給額ヲ追給ス

第二十八條 俸給日割計算ノ法ハ左ノ例ニ依ル職務増俸モ亦同シ

一 士官以上ハ其年額ヲ十二分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メ支給額ヲ得但一箇月内俸給ヲ異ニスル爲メ日割計算ヲ爲ス場合ニ在テモ各俸給毎ニ本文ノ例ニ依ル(下略)

第二十九條 病罰其他ノ事故ニ依リ俸給ノ内幾分ヲ減スル計算ノ法ハ左ノ例ニ依ル

一 士官以上ハ年額ヲ十二分シ尙其月ノ現日數ヲ以テ除シ其下之ニ減スヘキ分數ヲ乘除シ其下又之ニ減スヘキ日數ヲ乘シ月額ヨリ扣除シテ支給額ヲ得(下略)

第三十九條 本令第十八條第一項ノ場合ニ於テハ日數ニ應シ第三表ノ食料ヲ給ス但守衛勤務警倉番兵及ヒ日直等ハ勤務翌日ニ涉ルモノ日分ノ外給セス

扶助年限満期後仍ホ現役ニ在ル者召集中若クハ公務ニ服シタルトキモ亦同シ

第四十條 本令第十八條第二項第三項ノ場合ニアリテハ現食數ニ應シ第三表ノ定額内ヲ以テ實費ヲ仕拂フヘシ但時宜ニ依リ其定額ヲ本人ニ支給スルコトヲ得

第四十一條 本令第三表ノ夜食料ハ左ノ各項ニ依リ支給ス

一 士官以上下士兵卒軍屬馬丁演習中露營又ハ夜中行軍四時間以上ニ及フトキハ人員ニ應シ其定額内ヲ以テ實費ヲ仕拂フヘシ

二 下士兵卒及ヒ軍屬士官以上ノ不寢番ヲ爲ストキハ其定額ヲ本人ニ支給ス

第四十三條第二項 各隊ニ於テ豫備士官ニ給與スヘキ服裝品調製ニ係ル費用ハ定額ヲ目途トシテ支辨スヘシ

第四十四條 本令第二十二條ノ被服代金ハ給與スヘキ當該月ノ一日ニ現在スル者ニ之ヲ給ス其調製順序ハ甲表ノ如シ但其

第百二條 本令第三十六條ノ大隊管轄地ヲ旅行スル者ノ旅費ハ庚表ノ金額乙額ハヲ給ス
 第百五條 本令第三十九條ノ勤務手當及第百四十條ノ移殖地在職手當ハ毎月末日ハ日ニ當ルキ之ヲ給ス但免官死亡其他
 事故アルトキハ其際ニ給スルモノトス
 第百九條 埋葬料ハ其親族ニ下付シ埋葬一切ノ費ニ充テシム

○陸軍第二十一號

日清兩國間交戰中憲兵下士上等兵補充細則陸軍各兵科上等兵補充條例及明治十八年達乙第百三十號達陸軍諸兵卒進級取扱ニ定ムル年限ハ必要ニ應シ左ノ通短縮シ補充若クハ進級セシムルコトヲ得

陸軍大臣伯露山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年三月三十日

- 一 憲兵上等兵ノ補充ハ各兵科現役及豫備後備役ノ兵卒ニシテ一箇年以上現役ニ服シタル者
- 一 各兵科上等兵ノ補充ハ兵卒ニシテ六箇月以上現役ニ服シタル者
- 一 一等卒ヲ命スルハ入營後六箇月以上實役ニ服シタル者

○陸軍第二十二號

明治二十四年陸軍第七十八號裝蹄及別毛器械定數表別冊ノ通改正ス (別冊略ス)
 但諸學校教導團及軍馬育成所ニ在テハ裝蹄及別毛料餘裕ヲ以テ漸次改正スヘシ

陸軍大臣伯露山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年三月三十日

○海軍省達第三十一號

海軍監獄看守被服料支給細則左ノ通定ム

海軍大臣伯露西鄉從道

明治二十八年三月三十一日

海軍監獄看守被服料支給細則

- 第一條 給與令第二條ノ被服保續料ハ其ノ年額ヲ二分シ毎年三月及九月ノ末日(當日休暇ニ當ルトキハ順次繰上ク)ニ於テ之ヲ支給ス
- 第二條 初メテ被服保續料ヲ給スルトキハ給與令第一條ノ被服料支給ノ月ヨリ起算シ六箇月ヲ經タル其ノ翌月ヨリ月割計算ヲ以テ前條支給期日ニ至リ之ヲ支給ス
- 第三條 第一條ノ支給期日前ニ免職轉職若クハ死亡シタルトキハ被服保續料ヲ支給セス
- 第四條 給與令第三條ノ被服料ヲ支給スル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ量定シ事由ヲ具シ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

附 則

第六條 此ノ細則ハ明治二十八年勅令第五號海軍監獄看守被服料給與令施行ノ日ヨリ施行ス

○陸達第二十三號

明治二十七年陸達第百二十五號第一項中第八條ノ下ニ

馬匹ノ飼ノ割註ヲ加フ

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年四月一日

〔參照〕

陸達第百二十五號(明治二十七年十月九日)抄錄

第一項

一 廣島縣下廣島市及宇品所在ノ特設各部常設部隊並該地ニ一時出張ノ者ニ係ル給與ハ陸軍戰時給與規則ニ依ルト雖モ同規則第八條第九條第十二條第十三條及第十四條ノ規定ハ當分ニテ施行セズ
後備隊補充隊ニ在テモ亦前項ニ同シ

○陸達第二十四號

明治二十七年陸達第二十三號陸軍省所管豫算事務順序中第二號樣式別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年四月二日

○海軍省達第三十二號

被服經理規程中左ノ通追加ス

明治二十八年四月二日

第一表在監人ノ欄ヘ左ノ通追加ス

海軍大臣伯爵西鄉從道

袴	青	淺黃色木綿筒袖製
衣	青	淺黃色木綿筒袖製丈三尺四寸袖付九寸袖口四寸八分行一尺六寸五分
衣	青	緒色木綿筒袖製以下同上
袴	青	淺黃色木綿筒袖製

精 細 裨 絳色木綿筒製

(第一表附屬被服裁斷入尺表第三表實與被服物品定備表中追加アリ略ス)

○海軍省達第三十三號

海軍戰時給與規則施行細則第十五條ノ次ヘ左ノ二條ヲ加ヘ第十六條ヲ第十八條トシ以下順次繰下ケ第二十二條中第十九條ヲ前條ト改ム

明治二十八年四月三日

海軍大臣 伯爵西郷從道

第十六條 戰地若クハ臨戰合圍地境ニアル下士卒ニ限リ海軍被服條例第二條及第一表ノ所持定數ノ外特ニ左ノ被服物品ヲ臨時交付スルコトヲ得但戰地若クハ臨戰合圍地境外ニ移ル時ハ之ヲ返納セシム

事業服

一著 帽日覆 一枚

フラネル襦袢 一枚

第十七條

戰地若クハ臨戰合圍地境ニアル准士官以上候補生ニシテ乘組艦船ノ破壞沈没其他公務上非常ノ災害ニ罹リ其被服ヲ亡失若クハ毀損シ其用ニ堪ヘサルニ至ラシメタルモノアルトキハ左ノ被服物品ノ内全ク其用ニ堪ヘサルモノニ限リ特ニ給與スルコトヲ得

通常軍服

一著 夏服 一著

軍帽 一頂

帽日覆

一枚

劍(長劍若クハ短劍) 一枚

外套

一枚

フラネル襦袢二枚

手袋

二雙

麻襟 二枚

短靴

一足

靴 下 二足

艦船艦長ハ前項被服物品ノ給與ヲ必要ト認ムルモノ生シタルトキハ其事由及品種數量(寸法)等ヲ詳記シ所屬司令長官ノ許可ヲ得テ佐世保鎮守府監督部ヘ交付方請求スヘシ

○陸達第二十五號

要塞司令部服務規則別紙ノ通定メラル

明治二十八年四月六日

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

要塞司令部服務規則

要塞司令官ノ任務

第一條 要塞司令官ハ平時專ラ防禦ノ計畫ニ任シ要塞内各堡壘砲臺ノ效力ヲ知悉シ且ツ豫メ左ノ諸件ニ通曉セサルヘカラス

其一 要塞内外ノ地形特ニ第一攻圍線トナルヘキ地域ノ形状

其二 軍用建築物ノ現況

其三 貯藏彈藥及糧食ノ數量

其四 要塞内ノ人口及諸職工竝ニ諸雜役ニ堪ヘキ人員

其五 要塞内及其附近ニ於ケル食料品竝ニ徵發物件ノ員數

第二條 海岸要塞ニ在テハ附近海岸ノ形状土質風候潮流海底ノ深淺航路ノ景況難易等

其三 要塞司令官ハ戰時實行スヘキ左ノ諸件ニ關シ豫メ其方法ヲ規畫スヘシ

其一 堡壘團及堡壘砲臺ノ戰時編制

其二 勳員前衛戍兵ノミヲ以テスル要塞ノ警急配備

其三 要塞ノ警戒及守備諸兵ノ服務法

其四 守備兵ノ宿營及給與衛生ノ設備

其五 堡壘砲臺ノ修築其他臨時ニ必要ト認メタル防禦工事ノ設計

其六 要塞ノ内部ニ所要ノ交通路ヲ開設シ又外部ニ於テ敵軍攻城ノ動作ヲ幫助スヘキ諸物排除ノ方法

其七 海岸要塞ニ在テハ沿岸ニ配置スル監視哨所ノ位置及此哨所ト望樓哨所トノ連絡法

其八 防禦工事ニ必要ナル職工、材料其他食料品ヲ要塞内ニ收集スルノ方法

其九 公共ノ保安ニ必要ナル衛生、警察、消防勤務等ノ編組

其十 外國人及要塞ノ保安ニ妨害アリト認ムル者ヲ防禦線外ニ退去セシムル方法

其十一 要塞合圍セラレタルトキハ其地域ヲ公告シ地方行政ヲ統轄スルノ處置法

其十二 其他防禦上必要ト認ムル諸件

第三條 要塞司令官ハ毎年二回三月ニ於テ堡壘砲臺兵器彈藥防禦諸材料其他建築物等ヲ閱視實檢ス之ヲ定期檢閲トス定期檢閲ノ實況ハ所屬長官ヲ經テ參謀總長ニ報告スヘシ

要塞司令官ハ定期檢閲ノ外尙前條諸件ニ就キ隨時巡視スヘキモノトス

第四條 要塞司令官ハ防禦工事及兵器ノ改修増減等必要ト認ムル事項ハ按ヲ具シ所屬長官ヲ經テ參謀總長ニ稟申スルコトヲ得但單ニ修理ニ止マルモノハ砲工兵各方面支署長ニ命シ處理セシムルモノトス

第五條 要塞演習ヲ行フトキハ要塞司令官之ヲ統監ス但野戰軍隊又ハ艦船ヲ要塞砲兵ニ混シ本司令官ヨリ上級古參ノ者之ヲ指揮スルトキハ此限ニ在ラス

第六條 要塞司令官ハ演習若クハ試驗ノ爲メ要塞内ニ於テ備砲ノ發火ヲ行フトキハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

要塞參謀及副官ノ任務

第七條 要塞參謀ハ要塞司令官ニ隸シ要塞防禦ノ調査ニ從事ス

第八條 要塞參謀ハ要塞周圍ノ地形及海岸要塞ニ在テハ海岸海面ノ景況及各堡壘砲臺竝ニ備砲諸

材料ノ實況ヲ知悉シ常ニ司令官ノ諮詢ニ應答スヘキヲ要ス

第九條 要塞副官ハ要塞司令官ニ隸シ司令部一切ノ庶務ニ服シ圖書及諸帳簿ノ保管ニ任ス

砲兵及工兵方面支署長ノ任務

第十條 砲工兵各方面支署長ハ要塞司令官ノ命ニ從ヒ要塞防禦ノ調査ニ從事ス

第十一條 砲工兵各方面支署長ハ砲臺及附屬營造物ノ建築修理兵器彈藥其他防禦用諸材料ノ交換修理増減等ニ關シテハ豫メ要塞司令官ニ報告シテ後實行スルモノトス

第十二條 工兵方面支署長ハ砲臺内ニ出入ノ許可ヲ得タルモノ、人名ハ其時々之ヲ要塞司令官ニ報告ス

第十三條 本規則ハ要塞アル島嶼ノ警備隊ニモ亦適用ス

○陸軍第二十六號

明治二十八年勅令第三十九號要塞司令部條例第二條ニ依リ東京灣及下ノ關ニ要塞司令部ヲ設置シ其要塞ノ等級ヲ左ノ通定ム

明治二十八年四月六日

陸軍大臣 伯露山縣有朋代理
陸軍次官 兒玉源太郎

一等 東京灣要塞
二等 下ノ關要塞

○海軍省達第二十四號

横須賀鎮守府海兵團定員職別表備考中第五項ヲ左ノ通改ム

明治二十八年四月六日

海軍大臣 伯露西鄉從道

軍樂手中ノ十二人以内ヲ以テ教員ニ充テ一等軍樂手二人二等軍樂手二人三等軍樂手二人ハ軍樂特科練習生トス

明治二十八年四月 陸軍省陸軍第二十六號 海軍省第三十四號

六一

○海軍省達第三十五號
雇員備人規則第三條表中左ノ通追加ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十八年四月八日
割烹ノ欄「海兵團」ノ下及賄夫ノ欄「兵學校」ノ下ニ「機關學校」ノ四字ヲ加フ

○陸達第二十七號

明治二十七年陸達第九十一號中左ノ一項ヲ追加セラレ

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

明治二十八年四月十一日

陸軍次官兒玉源太郎

七 一年志願兵ニシテ終末試験施行前戰役ニ從事シ實驗上士官ノ勤務ニ服セシムルヲ得ルモノ
ハ豫備見習士官ト爲ス

〔參照〕

明治二十七年八月陸達第九十一號ハ陸軍士官下士補充方變例ノ件ナリ

○陸達第二十八號

明治二十七年陸達第七十號臨時費支出及整理規程中左ノ通改正削除ス

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

明治二十八年四月十三日

陸軍次官兒玉源太郎

第二條第一項中「監督部」ヨリ「監督部長」ヨリ又海外ニ派遣スヘキ各部各隊金糧部ノ屬所要ノ金額ハ當該部隊長ヨリニ改メ左ノ但書ヲ加フ
但野戰監督長官部海外ニ在ル場合ニ於テ本文ノ部隊内地ニ在ルトキハ第二項ニ依ルヘシ
同條第二項但書削除

〔參照〕

陸達第七十號臨時費支出及整理規程(明治二十七年七月九日)抄録

第二條 各部各隊ニ於ケル金額ノ請求順序左ノ如シ

- 一 大本營管理部長ニ於テ所要ノ金額ハ野戰監督長官ニ請求シ各金糧部中央金糧部 師ハ除クニ於テ所要ノ金額ハ當該監督部ヨリ野戰監督長官ニ請求スヘシ
- 二 野戰監督長官ハ前項請求ノ有無ニ拘ラス送金ヲ要スルトキハ之ヲ陸軍省ニ請求スルモノトス
- 三 内地所在ノ各部各隊ニ於テ所要ノ金額ハ其部隊長ヨリ陸軍省ニ請求スヘシ 但守備隊留守官衛補充隊等ハ當該監督部ヨリ經由スヘシ
- 三 野戰軍ノ各部各隊ニ於テ所要ノ金額ハ其部隊長ヨリ當該監督部ニ請求スヘシ

○陸達第二十九號

明治二十三年陸達第七十九號工兵方面要塞勤務規則中左ノ通改正ス

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

明治二十八年四月二十日

陸軍次官兒玉源太郎

本則中「提理」ヲ總テ「本署長」ニ改ム
第二條中「調製」以下三十二字ヲ「處理」セシムヘキ修理工事概計調査書ヲ點檢シ而シテ之ヲ本署ニ呈出セシムルモノトス但シ急ヲ要スル場合ニ在テハ本署長ノ巡回ヲ待タスシテ之ヲ本署ニ呈出セシムルモ妨ケナシニ改ム
第三條削除以下逐條繰上フ
第四條中所屬要塞ノ下ニ「堡壘」ノ二字ヲ加フ
第六條中「要塞堡壘」ノ下ニ「砲臺」ノ二字ヲ加フ
第八條中「提理」ニ「之」ヲニ改ム
第九條中「提理及」ノ三字ヲ削ル

第十條中「支署所管ノ」ヲ「支署長ハ所屬ニ材料ハ」ヲ「改メ」要スルトキハ「下ニ」要塞司令官又ハ「七」字ヲ加ヘ「但シ」以下二十八字ヲ削ル

第十三條中「得ス」ノ下ニ「ト雖モ」ノ三字ヲ加フ

第十四條中「工兵方面條例第十條ニ準據シ」ヲ「要塞司令官ノ區處ニ從ヒ」ニ改ム

第十五條削除「第十六條」ヲ「第十四條」ニ改メ以下逐條繰上ク

〔參照〕

陸軍第七十九號工兵方面要塞勤務規則(明治二十三年四月二十五日)抄録

- 第二條 前條巡同ノ際工兵方面提理ハ要塞司令官ト防禦ニ關シ擔任ノ事項ヲ協議シ且要塞司令官ヨリ工兵方面支署長ニ命シ調整セシメタル概計調査書ヲ檢シテ之ニ意見ヲ附シ署名捺印スルモノトス
- 第三條 前條ノ事項審議査定セラレタル後陸軍大臣ハ之ヲ提理ニ下シ提理ハ支署長ニ命シ更ニ精査調査書ヲ製シテ之ヲ陸軍大臣ニ進呈スヘシ
- 第四條 支署長ハ所屬要塞砲臺等ノ防禦調査ニ關シテハ要塞司令官ノ指揮ヲ受クヘシ但シ其施行ニ至テハ提理ノ指揮ヲ受クルモノトス
- 第六條 支署長ハ要塞築造ノ建築修繕並ニ附屬營造物ノ建築修繕工事其他總テ工兵勤務ニ關スル事業ニ就キ提理又ハ要塞司令官ヨリ概計調査ヲ命セラレタルトキハ經費豫算書並ニ所要圖面ヲ製シ提理又ハ司令官ニ差出スヘシ
- 第八條 支署長ハ提理ヨリ精査調査書ヲ製スヘキ命ヲ受ケタルトキハ工事ノ仕法經費案及ヒ細圖ヲ製シ提理ニ差出スヘシ但シ砲兵勤務ニ關係アル工事ハ砲兵方面支署長ト協議シタル後調査書ニ連署スルモノトス
- 第九條 支署長ハ提理及要塞司令官ノ訓令ヲ受ケ砲兵方面支署長ト協議シ戰時ニ方リ構築スヘキ臨時築城ノ圖案ヲ製シ其構築ニ要スル器具材料並ニ人員時間等ヲ豫メ計算シ置クヲ要ス
- 第十條 支署所管ノ要塞築造砲臺及附屬營造物其他防禦用器具材料ハ常に完全ニ保存シ其負數ヲ明カニシ殊ニ電氣燈並ニ通信器ハ毎年數回實地ニ之ヲ使用シ以テ戰時ノ用ニ堪ルヤ否ヲ檢定シ其修理スヘキモノハ之ヲ修理シ且其利害便否ヲ考究シ若シ改良或ハ變更ヲ要スルトキハ提理ニ理由ヲ申告シ指揮ヲ受クヘシ但シ之ヲ使用スルニ當テハ其旨ヲ所屬要塞司令官ニ通報スヘシ
- 第十三條 工兵隊ヲ以テ工事ニ從事セシムルトキハ支署長ハ提理ノ命ヲ受ケ該隊長ニ工事ノ方案ヲ指示シ常ニ其方案ト相

○陸軍第二十號

本年勅令第四十八號ニ依リ國民軍ノ給與ニ關スル件左ノ通定ム

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

- 一 日清兩國間交戰中國國民軍ニ屬スル准士官以上及下士以下ニシテ現役、豫備、後備ノ役ニアラサル者ノ服裝及諸給與ハ豫備、後備役ニ在ル者ニ同シ
- 二 前項士官以上服裝品中帽ハ第二種帽トス
- 三 國民軍ニ附屬スル雇員ニシテ將校相當官ノ位置ニ在ル者ニハ被服料トシテ第一表ノ金額ヲ支給シ第二表ノ被服ヲ調辨セシム
- 四 國民軍ニ附屬スル雇員ニシテ下士ノ位置ニ在ル者ニハ被服料トシテ第二表ノ金額ヲ給シ第四表ノ被服ヲ調辨セシム
- 五 國民兵ノ被服ハ第五表ニ依リ現品ヲ給ス

第一表

名	稱	甲	乙
被服	料	貳拾五圓七	額
備考	甲額ハ初度一回之ヲ給シ爾後滿六箇月毎ニ乙額ヲ給シテ新調保綴セシム		

品目		調製員數		製式	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨 大黒形
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒包又ハ黒角卸トス
夏	夏衣袴	一	組	品質	白布 冬衣袴ニ同シ日履ハ帽ニ適合ノ裁縫トス
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス
外	外袴	一	枚	品質	黒又ハ紺絨 乘馬製トス
靴	靴	一	足	適宜	

品目		調製員數		製式	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 「シヤケツ」製「ボック」留ニシテ無章トス
夏	夏衣袴	一	組	品質	雲霧ノ類 冬衣袴ニ同シ
外	外袴	一	枚	品質	日履ハ帽ニ適合ノ裁縫トス 黒又ハ紺絨若クハ大絨 徒歩製 黒角製トス
靴	靴	一	足	適宜	

品目		調製員數		製式	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス
靴	靴	一	足	適宜	

品目		調製員數		製式	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 「シヤケツ」製「ボック」留ニシテ無章トス
夏	夏衣袴	一	組	品質	雲霧ノ類 冬衣袴ニ同シ
外	外袴	一	枚	品質	日履ハ帽ニ適合ノ裁縫トス 黒又ハ紺絨若クハ大絨 徒歩製 黒角製トス
靴	靴	一	足	適宜	

品目		給與員數		品目		給與員數	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨		
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス		
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス		
靴	靴	一	足	適宜			

品目		給與員數		品目		給與員數	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨		
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス		
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス		
靴	靴	一	足	適宜			

品目		給與員數		品目		給與員數	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨		
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス		
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス		
靴	靴	一	足	適宜			

品目		給與員數		品目		給與員數	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨		
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス		
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス		
靴	靴	一	足	適宜			

品目		給與員數		品目		給與員數	
冬	冬衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨		
夏	夏衣袴	一	組	品質	黒又ハ紺絨若クハ「セル」地ノ類 將校夏衣袴ニ同シ但無章トス		
外	外袴	一	枚	品質	白包卸又ハ白角卸トス		
靴	靴	一	足	適宜			

○會計検査院達第一號

臨時軍事費計算證明規程左ノ通定ム

明治二十八年四月二十四日

會計検査院長子爵渡邊昇

臨時軍事費計算證明規程

第一章 計算書

第一條 會計規則第五十二條第三項ニ據リ仕拂命令官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ支出計算書ハ明治二十六年^{十二}會計検査院達第二號支出證明規程第一章ノ各條ニ準據スヘシ

第二條 會計規則第九十八條ニ據リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ仕拂計算書ハ本章第三條以下ノ各條ニ依ルヘシ

第三條 主任出納官吏ハ別記第一號書式分任出納官吏及尙ホ其現金ノ分割交付ヲ受ケタル分任出納官吏ハ別記第二號書式ニ依リ其仕拂計算書ヲ調製スヘシ但分任出納官吏及現金ノ分割交付ヲ受ケタル分任出納官吏ノ仕拂ハ便宜ニ依リ之ヲ各其交付ヲナシタル出納官吏ノ計算ニ併算スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ別記書式第三號ニ依ルヘシ

第四條 左ノ事項ハ仕拂計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

- 一 紛失金若クハ缺損金アルトキハ其金額
- 二 出納官吏交替ノ場合ニ於テ現金ノ受授ヲナシタルトキハ其金額事由
- 三 右ノ外法律命令及計算ノ基ク所ヲ示サレハ明瞭ナラサルモノ其他特殊ノ事項ハ各其金額事由

第五條 既ニ提出セシ仕拂計算書中他ノ費途ニ屬スヘキモノヲ編入シタルコトヲ發見セシトキハ

述ニ其金額事由ヲ報告スヘシ

第二章 證憑書類

第六條 支出計算書ニ屬スル證憑書類ハ明治二十六年^{十二}會計検査院達第二號支出證明規程第二章ノ各條ニ準據シ仕拂計算書ニ屬スル證憑書類ハ其内地ニ於ケル仕拂ニ係ルモノハ同達第三號現金前渡金仕拂證明規程第二章ノ各條ニ準據シ戰地ニ於ケル仕拂ニ係ルモノハ本章第七條以下ノ各條ニ依ルヘシ

第七條 仕拂證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ領收證書其他事實ノ正確ヲ證スル書類トス

現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ相互現金ヲ受授スル場合ニ於テハ其領收證書ヲ證憑書類トシテ提出スヘシ但現金ノ分割交付ヲ受ケタル官吏ノ仕拂ヲ其交付ヲナシタル官吏ノ仕拂ニ併算スル場合ニ於テハ之レカ提出ヲ要セス

第八條 正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ於テハ主任官吏ノ仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケ證明スルコトヲ得

第九條 紛失金及缺損金アルトキハ其金額事由ヲ詳記シ當該上官ノ認定ヲ受ケタル書類ヲ以テ證明スヘシ

第十條 俸給其他給與ニ屬スル仕拂ニシテ任免黜陟其他ノ事故ニ依リ給額ニ異動ヲ生シタルモノ及聘任死亡等ノ事故ニ依リ支給ヲ止メタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ領收證書ニ付記シ若クハ報告ヲ要ス

第十一條 給與ニ關スル規定外ノ諸手當賞與贈與慰勞金等ハ領收證書ニ各其事由ヲ記載シ當該上官ノ認定ヲ受ケ之ヲ提出スヘシ

第十二條 旅費ノ領收證書若クハ其概算渡ニ對スル精算書ニハ發著地旅行ノ日數年月日往復里程等ヲ詳記スヘシ

第十三條 概算渡ニ對スル領收證書ハ其精算書ト共ニ之ヲ提出スヘシ

第十四條 物件購買ニ關スル證書ニハ每品ノ種類箇數斤量及單價ヲ掲ケ數箇ニ付價格ヲ定メタルモノハ其數箇ニ對スル價格ヲ示シ該物件所要ノ目的ヲ附記スヘシ但普通所用ノ物件ハ之レカ附記ヲ要セス

第十五條 戰地ニ於テ雇入レタル人夫舟車馬賃ニ關スル領收證書若クハ仕拂書ニハ各其所要ノ目的ヲ附記スヘシ

第十六條 外國貨幣ヲ以テ仕拂タルモノハ證書類ニ其交換相庭及換算金額ヲ附記スヘシ但仕拂計算書備考ニ交換相庭及換算金額ヲ記載シタルトキハ證書類毎ニ之レカ附記ヲ要セス

第十七條 誤拂過渡拂不足アルトキハ各證書類ニ其金額事由ヲ附記スヘシ若シ追徵追給ヲ爲ス能ハサルモノアルトキハ尙ホ其事由ヲ詳記スヘシ

第十八條 證書類ノ編纂ハ各自別冊トシ其金額枚數ヲ表記スヘシ但便宜合冊ト爲スモ妨ケナシ

第三條但書ノ場合ニ於ケル證書類ハ各別ニ編纂シ其表紙ニ當該官吏官氏名ヲ掲記捺印シ現金ヲ交付シタル官吏ノ證書類表紙ニハ其交付ヲ受ケタル官吏ノ取扱金額及其官氏名ヲ區分掲載スヘシ

第三章 下検査

第十九條 下検査官吏ニ於テ仕拂計算書類ヲ受ケタルトキハ速ニ其下検査ヲ完了シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第二十條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 計算書其他證書類ノ件名册數

二 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由及之レカ處分ニ關スル意見

第二十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ對スル審理書及之ニ對スル答辯書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

(別記)

(△印ハ朱書)

<p>△第一號</p> <p>臨時軍事費</p> <p>何年何月</p> <p>仕拂計算書</p>	<p>一 計算書ヲ受授スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ</p> <p>二 計算書ハ改換塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ之ニ捺印スヘシ</p> <p>三 證書類中検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名册數ヲ計算書ニ附記スヘシ</p>
<p>總 團 部 隊 名</p>	

備 考	元 受 高				摘 要
	前月越高	本 月 収	領 高	戻 入 高	
	0	0	0	0	0
					臨時軍事費
					戻入高内詳
					部隊官氏名ヨリ 0
					部隊官氏名ヨリ 0
					計 0
					分割交付高内詳
					部隊官氏名へ 0
					部隊官氏名へ 0
					計 0

仕 拂 高	返納高	残 高	備 考
0	0	0	0
			<p>本月残高ノ入金何圓ハ何算若干ニシテ其相違(平均相違)何圓ナリ</p> <p>仕拂高ノ入金何圓ハ何算若干ニシテ其相違(平均相違)何圓ナリ</p>
			<p>官氏名交付高ノ入金何圓ハ何算若干ニシテ其相違(平均相違)何圓ナリ</p> <p>官氏名口上金何圓ハ何算若干ニシテ其相違(平均相違)何圓ナリ</p>

軍用切符受拂内譯					元			
摘 要	受	拂	残	備 考	前	月	本	領
					越	高	收	高
前月越高	兩	兩	兩					
部隊官兵名ヨリ受	0				0		0	
部隊官兵名ヨリ受	0							
部隊官兵名ヨリ戻入	0							
本官仕拂		0						
部隊官兵名へ分割交付		0						
部隊官兵名へ分割交付		0						
部隊官兵名へ返納		0						
計	0	0	0					

受 高	摘 要	仕 拂 高			返納高	残 高
		仕拂精算高	分割交付高	計		
戻入高						
計						
0	0	0	0	0	0	0
	臨時軍事費					
	本月領收高内譯					
	部隊官兵名ヨリ	0				
	部隊官兵名ヨリ	0				
	計	0				
	戻入高内譯					
	部隊官兵名ヨリ	0				
	部隊官兵名ヨリ	0				
	計	0				
	分割交付高内譯					
	部隊官兵名へ	0				
	部隊官兵名へ	0				
	計	0				
	返納高内譯					
	部隊官兵名へ	0				
	部隊官兵名へ	0				
	計	0				

摘要	仕拂精算高		返納高	残高	備考
	仕	拂			
臨時軍事費	0	0	0		概算渡ノ未精算ニ因スルモノアルトキハ之ヲ殘高中ニ据置其金額ヲ區分説明スヘシ 仕拂精算高ノ内金何圓ノ何員何分ニシテ其相違(平均相違)勿論ナリ 官兵名ヨリ戻取高ノ内金何圓ノ何員何分ニシテ其相違(平均相違)勿論ナリ
本月領收高内訳					
金庫ヨリ	0				
部隊官兵名ヨリ	0				
部隊官兵名ヨリ	0				
計	0				
返納高内訳					
金庫へ	0				
部隊官兵名へ	0				
部隊官兵名へ	0				
計	0				

▲第三號

臨時軍事費

明治何年何月臨時軍事費仕拂計算書面之通相違無之候也

何年何月(自何年何月至何年何月)

分任出納官吏官氏名印

會計検査院長宛

何年何月何日

仕 拂 計 算 書

繼 國 部 隊 名

一 凡 例

一 計算書ヲ受授スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ

二 計算書ハ改竄塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横引シ之ニ捺印スヘシ

三 證憑書類中檢査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名册數ヲ計算書ニ附記スヘシ

切符受拂内譯				元 受 高		
受	拂	殘	備 考	前月越高	本月領收高	計
兩 0 0 0 0	兩 0 0 0 0	兩 0 0 0 0		0	0	0
0	0	0				

軍 用	
摘 要	
何年何月臨時軍事費仕拂計算書面之通 相違無之候也	前月越高 金庫ヨリ受 部隊官氏名ヨリ受 部隊官氏名ヨリ受 本月仕拂 金庫へ返納 部隊官氏名へ返納 計
主任(分任)出納官吏官氏名印 會計検査院長宛 何年何月何日	

○海軍省達第三十六號(關)
○海軍省達第三十七號(關)
○海軍省達第三十八號
戰時又ハ事變ニ際シ召集中ノ海軍豫備役後備役下士卒ニハ左ノ諸項ニ依リ行狀等級ヲ附シ善行章

明治二十八年四月 逓 海軍省第三十八號

ヲ授與スルコトヲ得

明治二十八年四月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

- 一 所轄長ハ召集後行狀方正職務勉勵ノ度ニ應シ一回若クハ數回ニ行狀等級ヲ附シ現役ヲ退クトキノ階級ニマテ進セシムルコトヲ得
- 二 所轄長ハ召集以來六箇月以上刑罰ニ觸レズ且現役ヲ退クトキ善行章ヲ所有セシ者ニハ行狀方正職務勉勵ノ度ニ應シ一回若クハ數回ニ善行章ヲ授與シ現役ヲ退クトキ所有セシ線數ニマテ進セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其都度事由ヲ所管長官ニ届出所管長官ハ之ヲ鎮守府ニ報告スヘシ
- 三 前二項ノ場合ニ於テ行狀ヲ降等シ善行章ヲ剝奪セシトキハ爾後其ノ昇等若クハ授與ハ第四項ニ據ル
- 四 第一項第二項ノ外善行章ヲ與奪シ行狀等級ヲ昇降スルニハ善行章條例ニ準據ス
- 五 第一項第二項ニ依リ現役ヲ退クトキト同等ノ行狀ニ進シ若クハ同數ノ善行章ヲ授與セシ後尙之ヲ昇等若クハ授與スルニハ現役中最後ニ昇降若クハ與奪セラレタル日ヨリ起算シ召集中ノ行狀等級線數ノ如何ニ關ラス總テ其召集中ノ日數ニ通算スルモノトス
- 六 初メテ善行章ヲ授與スルニ當リ其勤仕日數ヲ算スルニハ現役並ニ召集中ノ日數ヲ通算スルモノトス

○陸連第三十一號
陸軍戰時給與規則細則中左ノ通改正ス

陸軍大臣代理

明治二十八年五月一日

陸軍次官兒玉源太郎

- 第二條中「歸著ノ日」ノ下ニ「豫備後備ノ者ハ召集ノ割註及但書中歸著スル者ノ下ニ及歸著ノ途次傷疾疾病ニ依リ内地ノ某所ニ滞在スル者」ノ二十四字ヲ加ヘ本項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
甲地ニ在勤ノ者又ハ甲地ニ於テ任官シ及甲地ニ召集ノ者ニシテ乙地ノ各部各隊ニ屬シタルトキハ其部隊出發ノ日ヨリ給ス
- 第三條 本規則第七條ノ手當金ハ支給現時ノ等級ニ依ル爾後昇級スルモ之カ爲メ追給スルコトナシ手當金ハ出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免セラレタルトキハ半箇月分ヲ給シ請願ニ依リ免スル者ハ給セズ
- 本規則第七條第一項但書ノ手當金ヲ受ケタル者同項本文及第二項ノ手當金ヲ受ケル場合ニ在テハ尙ホ一回限り現時ノ俸給若クハ給料ノ半箇月分ヲ給ス
- 本規則第七條第一項及第二項ノ手當金ハ士官以上ニシテ職務俸乙額ヲ受クル者ト雖モ甲額ヲ以テ算出ス
- 第四條 敵ノ俘虜トナリ又ハ生死未詳ノ者百八十日ヲ經過スルモ歸投セサルトキハ俸給若クハ給料其他ノ給與ヲ停止シ爾後歸投スルトキハ其日ヨリ支給ス但百八十日以内ト雖モ死亡ノ實跡ヲ認ムルカ又ハ死亡ノ報告ヲ得タルトキハ其日限り之ヲ給セズ
- 第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
本規則第九條第二項ノ特種防塞被服ノ給與若クハ貸與ノ始期終期並ニ還納付與ノ區別ハ臨時定ムル所ニ依ルヘシ

第二十三條 豫備役後備役ノ者召集ノトキハ陸軍給與令第七十六條ニ依リ同令第三十七表ノ旅費

ヲ給シ召集地到着部隊編入マテ滞在セシムルトキハ同表ノ日當ヲ給ス解散歸郷ノトキ亦同シ

豫備後備役ノ者召集部隊編入後ハ准士官ヲ除ク以上ハ滞在十日間陸軍給與令第三十二表ノ

日當ヲ十一日後ハ其前日迄ハ第二表ノ日當ヲ給ス特務曹長下士兵卒ニシテ實際外泊セシムルト

キハ其間陸軍給與令第三十五表ニ依リ特務曹長ハ十日間同令第三ノ日當ヲ給シ宿舍及食料ヲ自辨セシ

甲地ニ召集シ乙地ノ部隊ニ編入シ又ハ甲乙轉職其他公務ニ依リ内地旅行ノ者ハ前條ニ準シ其部

隊ニ到着後ハ前項ニ同シ

第二十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但官ニ於テ糧食及宿舍ヲ給スルトキハ此限ニアラス

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

本規則第十三條ノ藥餌ヲ官給スルハ戰時編制ノ各部各隊及特ニ設置セル各部各隊ニ屬シタルト

キニ於ケル負傷若クハ疾病者ニ限ル但平時ニ復スルトキハ平時ノ規定ニ依ル

第二表中文官ノ横畫「雇員」ノ二字ヲ削リ備考第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

雇員ニシテ月額十二圓以上ノ者ハ下士ノ額ニ十二圓未滿ノ者ハ兵卒ノ額ニ依ル

〔參照〕

陸達第九十三號陸軍戰時給與規則(明治二十七年八月六日抄錄)

第二條 本規則第六條第一項ノ附給ハ在動地ヲ離ル、日ヨリ歸著ノ日マテ之ヲ給ス但轉職若クハ事故ニ依リ滞在動地外ニ

歸著スル者ハ其地ニ到着ノ日マテ之ヲ給ス

第三條 本規則第七條第一項但書ニ依リ手當金ヲ支給ラ受ケタル者同條第二項及第二項ノ手當金ヲ受ケル場合ニ在テハ尚

ホ一回限リ半額ヲ給ス

第四條 手當金ハ士官以上ノ職務俸ニ在リテハ甲額ヲ以テ算出ス

第二十三條 豫備後備ノ准士官以上召集ニ應シ留守官衛補充隊其他特設セル部隊ニ屬スル者ハ其翌日ヨリ陸軍給與令第八

表ノ宅料ヲ給ス

八表ノ宅料ヲ給ス

前二項ノ場合ニ在テハ陸軍給與令第三十七表ノ日當ヲ給セス

第二十四條 内地ニ於テ單獨旅行ノ者官有又ハ借入借入ノ舟車馬ニテ旅行セシムルトキハ陸軍給與令第三十二表ノ日當ノ

ミヲ給ス

○陸達第三十二號

明治二十八年年度中陸軍病院條例第五條ノ定額ハ一日金拾貳錢同條例第八條ノ定額ハ一日金貳錢五

厘トス又屯田兵移住給與規則第十六條中ノ徵收費額及明治二十五年陸達第二十六號ノ定額ハ一日

金參錢貳厘トシ七歳未滿ノ者ハ其半額トス

陸軍大臣代理 陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月三日

〔參照〕

陸達第二百二十三號陸軍病院條例(明治二十一年十一月二十九日抄錄)

第五條 第二條第三項ノ内公務ニ起因セサル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者ノ治療ニ關スル諸費ハ定額ヲ納メ

シメ糧食ハ本人ヨリ陸軍給與令第九表ノ定額ニ依リ之ヲ辨償セシム但下士兵卒及生徒ニ在テハ其治療ニ關スル諸費ニ限

リ病院ノ費用トス

第八條 藥局アラサル地方又ハ藥局アルモ止ムラ得サル場合ニ在テハ軍人軍屬ニ限リ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請

求シタルモノアルトキハ陸軍病院ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノ、他ハ其定額

ヲ納メシム

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報抄錄)

○陸達第三十三號

明治二十八年陸達第十六號初項中、將校同相當官ノ下ニ「竝ニ下士以下及文官雇員」下士以上及文官及通譯官ニ等ノ二千七字ヲ追加ス

明治二十八年五月四日

陸軍大臣代理
陸軍次官兒玉源太郎

〔參照〕

陸達第十六號(明治二十八年三月二十日)
將校同相當官協同疾病ニ依リ豫備病院要養病院ニ後送ヲ要スルモノアルトキハ其職務ヲ免スルコトナク選送シ而シテ本人全治退院後ノ之ニ取替ヘテ取替左ノ通定ム
一隊附本職ノ職務ニ在テハ在職ノ儘原隊ノ補充隊ニ復歸セシメ其補充隊アラサルモノ竝ニ特設部隊附本職ノモノニ在テハ病院所在地ノ師團司令部ノ管轄ト爲シ其旨報告スヘシ
二本職ノ備臨時ノ職務ヲ奉スルモノ前項ノ如クニ在テハ臨時職務ハ自然消滅トシ原所管ニ復歸セシメ其原所管ニ通報ノ上報告スヘシ

○海軍省達第三十九號(網)

○海軍省達第四十號

臨時軍事費整理規程別表臨時軍事費科目表中被服費ノ細別左ノ通改正ス
明治二十八年五月六日
海軍大臣伯爵西郷從道

目	細別	備	考
被服費	將校特別給與被服	將校相當官及候補生准士官ノ分共	
	下士卒被服		
	患者被服		

○海軍省達第四十一號

海軍機關學校附屬技手練習所技手生徒服制表中外套ノ部ニ左ノ一欄ヲ加フ
明治二十八年五月八日
海軍大臣伯爵西郷從道

種	備付被服	備
四 徒 被 服		
備 付 被 服	旅順口根嶺地其他臨時部隊ニ要スル分	

○陸達第三十四號

憲兵下士上等兵ハ今回ノ事件中ニ限り憲兵下士上等兵補充細則第一條第二項ノ年齢ニ拘ハラズ補充スルコトヲ得
但服役期限中定限年齢ヲ超過スルモノハ此限ニアラス

明治二十八年五月十日

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理
陸軍次官兒玉源太郎

〔參照〕

陸達第七十二號憲兵下士上等兵補充細則(明治二十二年十二月五日)抄録
第一條中
二 下士ハ滿二十三歳以上三十五歳迄上等兵ハ滿二十二歳以上三十歳迄

○海軍省達第四十二號(網)

○海軍省達第四十三號

捕獲清國水雷艇二艘ヲ帝國水雷艇ト定メラル
明治二十八年五月十七日
海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍第三十五號

明治二十七年陸軍第九十號第十九條第一項中「第十三條」ノ四字ヲ削除セラレ

陸軍大臣伯耆山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月十八日

〔參照〕

陸軍第九十號戰時及時變ノ際ニ於ケル將校乘馬取扱規則(明治二十七年八月三日)抄録
第十九條 陸軍大臣ハ審査委員ヲ編成シテ左ニ掲ケル検査及測定ヲ行ハシム

一 第十三條自馬ノ検査

(下略)

○陸軍第三十六號

今回ノ復員ニ際シ歸郷セシムヘキ下士以下ニハ左ノ通時服一著ヲ支給スヘシ

陸軍大臣伯耆山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月十八日

第一種 帽(ルモノハ第一種帽) 徴章付ノマ、

冬(夏)衣袴 徴章付ノ儘

襦袢袴下

靴 實際靴ヲ着用シアラサル者ハ草鞋

○陸軍第三十七號

戰時及時變ノ際ニ於ケル將校乘馬取扱規則第二十四條ニ據リ馬匹整理委員及審査委員ノ編制及事務執行細則別冊ノ通り定ム

陸軍大臣伯耆山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月十九日

(別冊)

馬匹整理委員及審査委員細則

第一條 此細則ニ於テ戰時及時變ノ際ニ於ル將校乘馬取扱規則ヲ本規則ト書シ又特設部ノ設立若ハ師團ノ動員ヲ令セラレタル時ヨリ其閉鎖若ハ復員完結迄ノ間ニ於テ該部若ハ該師團ヨリ上長官以上ニ其自馬廢絶等ニ屬セシテ代馬トシテ給與シタル馬匹ヲ代自馬、平時ニ於ル馬匹手當ノ代リトシテ給與シタル馬匹ヲ手當代馬、士官ニ其支給馬廢絶等ニ屬セシテ代馬トシテ支給シタル馬匹ヲ支給代馬、乘馬ノ職ニ就キタル士官ニ支給シタル馬匹ヲ假支給馬ト稱ス

其一 馬匹整理委員

第二條 馬匹整理委員ノ編成ハ左ノ如シ

但職員ハ總テ現役ノ者タルヘシ

委員長 各兵科上長官

一八

委員 乘馬本分タル各兵科士官

二八

委員 獸醫部士官

一八

委員 軍吏部士官

一八

馬匹整理委員ノ下ニ下士屬若干ヲ附屬セシムルコトヲ得

第三條 特設部若ハ師團ハ必要ニ應ジ馬匹整理委員數組ヲ編成シ若ハ各兵科ノ士官ヲ以テ委員長トシ又ハ委員ノ人員ヲ減スルコトヲ得

但馬匹整理委員數組ヲ編成スルトキハ高級故參ノ委員長ヲシテ之ヲ總轄セシム

第四條 馬匹整理委員ハ點檢若ハ受領スヘキ馬匹ノ集合場所及時日ヲ定メテ當該長官ニ報告ス該長官ハ之ヲ部下ニ達シ馬匹ヲ出場セシム

第五條 馬匹整理委員ハ特設部ノ閉鎖若ハ師團ノ復員ノ際陸軍乘馬飼養條例第二條及第三條ニ該ル者ノ自馬代自馬手當代馬支給馬支給代馬及假支給馬ヲ點檢シ將校馬匹整理名簿(第一號書式)

ヲ調製シ之ト共ニ馬匹ヲ本人ニ交付シ且將校馬匹交付員數表(第二號書式)ヲ調製シ關係ノ將校飼養馬匹事務取扱委員ニ送付ス該委員ハ各馬匹整理委員ヨリ送付ノ表ニ基キ本規則第十七條及第十八條ニ依リ自馬轉入員數表(第三號書式)及支給馬轉出轉入員數表(第四號書式)ヲ調製シ所管長官ヲ經テ陸軍大臣ニ進達ス

第六條 特設部ノ馬匹整理委員ハ本規則第十二條及第十五條ノ納付馬匹ヲ受領シ將校馬匹整理名簿ヲ調製シ同規則第十六條第一項ニ依リ馬匹ヲ點檢シ軍用ニ堪ユヘキモノニ在テハ應役馬匹員數表(第五號書式)ヲ調製シ當該長官ヲ經テ陸軍大臣ニ進達シ軍用ニ堪ヘサルモノニ在テハ該長官ノ指揮ヲ受ケテ賣却ス

第七條 特設部ノ馬匹整理委員ハ前條軍用ニ堪ユヘキ馬匹ハ將校馬匹整理名簿ヲ添ヘテ最寄師團ニ交付ス該師團ハ該馬匹ノ處分ニ關スル令達アル迄之ヲ適宜ノ場所ニ繋畜シ賣却ヲ要スル事故ヲ生ゼシモノハ賣却シ其他異動アル毎ニ馬名ヲ記シ陸軍大臣ニ報告ス

第八條 師團ノ馬匹整理委員ハ本規則第十二條及第十五條ノ納付馬匹ヲ受領シ將校馬匹整理名簿ヲ調製シ同規則第十六條第二項ニ依リ馬匹ヲ點檢シ師團長ノ指揮ヲ受ケテ其處分ヲ爲ス

第九條 馬匹整理委員ハ事務終了後將校馬匹整理概表(第一號及第七號書式)將校馬匹交付員數表(第八號書式)及將校馬匹賣却員數表(第九號書式)ヲ調製シ速ニ整理ノ結果ヲ當該長官ヲ經テ陸軍大臣ニ報告ス

第十條 本規則第八條但書ニ依リ馬匹ノ處分ヲ他ノ特設部若ハ師團ニ委託シタル特設部ハ將校馬匹整理委託員數表(第十號書式)ヲ調製シ陸軍大臣ニ進達ス該委託ヲ受ケタルモノ特設部ナルトキハ同規則第十六條第一項ニ依リ又師團ナルトキハ同條第二項ニ依リ處分ス

但報告等ハ總テ主務ニ屬スルモノト委託ヲ受ケタルモノトヲ區別ス

第十一條 將校同相當官ニシテ馬匹整理委員編成以前ニ於テ常置官衙へ轉職シタル者ノ牽來リタル馬匹ハ本人現屬所管ノ將校飼養馬匹事務取扱委員ニ於テ轉入將校馬匹整理名簿(第十一號書式)ヲ調製シ本人ニ交付ス

共ニ 審査委員

第十二條 審査委員ノ編成ハ左ノ如シ

- 委員長 騎(砲)(輜重)兵科上長官 一人
- 委員 騎(砲)(輜重)兵科士官 二人
- 委員 獸醫部士官 一人
- 委員 軍吏部士官 一人

審査委員ハ管區内ノ師團ニ照會シ書記トシテ下士若干ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 審査委員ハ四組ヲ編成ス其名稱及管區ハ左ノ如シ

- 第一區 審査委員 第一師管内
- 第二區 審査委員 第二及第七師管内
- 第三區 審査委員 第三及第四師管内
- 第四區 審査委員 第五及第六師管内

第十四條 必要ニ應シ審査委員ノ人員ヲ増減シ若ハ甲區ノ審査委員ヲシテ乙區ノ審査委員ヲ兼テシムルコトアルヘシ

第十五條 審査委員ハ陸軍大臣ニ隸ス

第十六條 審査委員ハ馬匹審査ノ場所及時日ヲ定メテ陸軍乘馬飼養條例第二條及第三條ニ該ル者ノ所管長官ニ通報ス該長官ハ之ヲ部下ニ達シ馬匹ヲ出場セシム

第十七條 委員ハ前條出場馬匹ト其名簿トヲ引合セタル上馬匹ノ審査ヲ行ヒ各委員各個ニ評價ヲ筆記シテ委員長ニ差出ス委員長ハ各委員ノ差出シタル評價ヲ平均シ其平均價格ヲ適當ト認ムル

トキハ直ニ之ヲ決定評價ト爲ス
委員長前項ノ平均價格ヲ適當ト認メサルトキハ更ニ評價ヲ行ハシム再度ノ評價ヲ尙ホ適當ト認
メサルトキハ委員長自ラ決定評價ヲ定ム

第十八條 前條ノ評價決定シタルトキハ左ノ諸項ニ依リ損耗額若ハ減亡額ヲ調査シ損耗額調定書
(第十二號書式)若ハ減亡額調定書(第十三號書式)ヲ調製シ自馬(代自馬手當代馬モ亦同シ)ニ對
スルモノハ本人ニ支給馬(支給代馬假支給馬モ亦同シ)ニ對スルモノハ將校飼養馬四事務取扱委
員ニ交付シ別ニ損耗減亡額調定報告表(第十四號書式)ニ通テ調製シ之ヲ所管廳ニ送付シ一ラ陸
軍大臣ニ進達ス

一 自馬(代自馬手當代馬モ亦同シ)ノ損耗額ハ陸軍給與令第六章第四十八條馬匹手當ノ金額ヨ
リ審査委員ノ決定シタル評價ヲ控除シタル差額ニ由テ成立ス

但決定評價ノ金額馬匹手當ノ金額以上ニ及フ馬匹ニ在テハ損耗額ナキモノト做ス

二 特設部若ハ師團ニ於テ買上タル自馬ノ損耗額ハ陸軍給與令第六章第四十八條馬匹手當ノ金
額ヨリ買上代價ヲ控除シタル差額ニ由テ成立ス

但買上代價ノ金額馬匹手當ノ金額以上ニ及フ馬匹ニ在テハ損耗額ナキモノト做ス

三 廢斃其他ノ事由ニ依リ審査委員ノ検査ニ出場セサル自馬(代自馬手當代馬モ亦同シ)ノ損耗
額ハ一頭五拾圓トス

四 支給馬(支給代馬假支給馬モ亦同シ)ノ損耗額ハ陸軍乘馬飼養條例取扱心得第一條馬代金ノ
如ク算出シタル金額ヨリ審査委員ノ決定シタル評價ヲ控除シタル差額ニ由テ成立ス

但決定評價ノ金額馬代金ノ如ク算出シタル金額以上ニ及フ馬匹ニ在テハ損耗額ナキモノ
ト做ス

五 本規則第十九條五ノ支給馬ノ減亡額ハ陸軍乘馬飼養條例取扱心得第一條馬代金ノ如ク算出
ト做ス

シタル金額ニ由テ成立ス

但該金額陸軍給與令第四十九條購買料ノ額ヨリ超過スルトキハ該超過額ヲ支給セス又馬
代金ノ如ク算出スル際殘月數ハ將校飼養馬四事務取扱委員ノ管理ヲ除キタル月ヨリ起算
ス

第十九條 特設部若ハ師團ニ於テ將校ノ自馬(代自馬手當代馬モ亦同シ)ヲ買上タルトキハ將校自
馬買上名簿(第十五號書式)ヲ調製シ閉鎖若ハ復員ノ際該將校ノ屬スヘキ所管ノ將校飼養馬四事
務取扱委員ニ送付ス

第二十條 將校飼養馬四事務取扱委員ハ審査委員馬匹検査ノ前日迄ニ左ノ名簿及表ヲ該委員ニ送
付ス

一 將校馬匹整理名簿

二 轉入將校馬匹整理名簿

三 將校自馬買上名簿

四 管理ヲ除カレタル支給馬價格表(第十六號書式)

第二十一條 上長官以上若ハ將校飼養馬四事務取扱委員ハ損耗額若ハ減亡額調定書ニ記載セル金
額ノ仕拂ヲ所管廳ニ請求ス

第二十二條 此規則執行ノ爲メニ要スル經費ハ臨時軍事費ヨリ支出ス
(第一號乃至第十六號書式略ス)

○海軍省達第四十四號
軍艦進水手續左ノ通定ム

明治二十八年五月十九日
軍艦進水手續

海軍大臣伯爵西鄉從道

第一條 新造軍艦ヲ進水セシメラル、トキハ海軍大臣本艦ノ前面ニ立テ進水命令書ヲ朗讀ス朗讀終リタルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ授ク
進水命令書ハ左ノ例ニ依ル

明治何年何月軍艦何々ノ構造ヲ始メ今ヤ艦體ノ成ルヲ告ク依テ茲ニ之ヲ進水セシム
明治 年 月 日

第二條 鎮守府司令長官進水命令書ヲ受ケタルトキハ直ニ造船部長ニ令シテ本艦ヲ進水セシム

第三條 軍艦ヲ船渠内ニ於テ製造シタルトキハ前條ノ手續ニ依リ船渠内ニ水ヲ入レ艦體ヲ浮泛セシム

第四條 第二條ノ場合ニ於テハ艦體ノ水面ニ向テ進行ヲ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ其奏樂終ルトキヲ以テ進水ヲ終ルモノトス

第五條 第三條ノ場合ニ於テハ船渠内ニ水ノ進入シ始ムルトキ奏樂ヲ爲シ艦體ノ浮泛スルニ至リテ進水ヲ終ルモノトス

○海軍省達第四十五號

明治十九年三月要第一〇二號新造艦船命名式ヲ廢ス

明治二十八年五月十九日

海軍大臣伯露西鄉從道

○陸達第三十八號

明治二十四年陸達第一百十一號本省及參謀本部監軍部各官衙諸學校舍玄關番以下定員表中監軍部ノ次へ左ノ通追加ス (追加略ス)

陸軍大臣伯露山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月二十一日

○陸達第三十九號

明治二十七年六月以來現役滿期ノ下士上等兵ニシテ滿期前再服役ノ手續ヲ了スルコトヲ得サル事情アル者ハ服役延期解除迄ニ再服役ヲ出願スルコトヲ得

但特設部隊ニ屬スル者ハ該部隊長ヨリ本屬部隊長ニ協議シ本屬部隊ナキ者ニ在テハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ承クヘシ

陸軍大臣伯露山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月二十四日

○海軍省達第四十六號

戰時海軍死亡者取扱規則左ノ通改ム

明治二十八年五月二十四日

海軍大臣伯露西鄉從道

戰時海軍死亡者取扱規則

第一條 戰時戰役ニ從事シ死亡シタル者又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ爲メニ死亡シタル者ハ此規則ニ依リ取扱フモノトス但此規則ニ規定ナキモノハ海軍葬式規則海軍生徒下士卒死亡者取扱規則ニ依ル

軍屬タル高等官ニ等以上及勅任待遇ノ者ハ將官ニ高等官三等四等五等ノ者ハ上長官ニ高等官六等以下及奏任待遇ノ者ハ士官ニ試補ハ准士官ニ判任官及判任待遇ノ者ハ下士ニ其他ハ卒ニ準ス軍人軍屬外ノ者モ亦同シ但海軍用船舶ノ船員ハ各其取扱フ所ノ身分ニ依ル

第二條 死體ハ海軍埋葬地共同墓地若クハ特ニ選定シタル土地ニ埋葬ス但場合ニ依リ火葬シ又ハ合葬シ又海上ニ在テハ水葬スルコトヲ得

死者ノ所屬長若クハ所屬先任士官ハ時宜ニ依リ其死體若クハ遺骨遺髮ノ處分ヲ海軍官廳ニ依托

シ又ハ死體ノ埋葬ヲ最寄ノ市區或ハ町村ノ長ニ依頼スルコトヲ得但之ヲ依頼セシトキハ別ニ依
托證明書ヲ交付シ其要費ヲ最近ノ鎮守府監督部ニ請求セシムヘシ
前二項ノ處分ヲ終了シタルトキハ之ヲ其遺族ニ通知スヘシ

第三條 死者ノ斂具ハ現場ノ實況ニ依リ便宜ニ任ス

第四條 墓標ハ木柱ヲ以テ之ヲ製シ其正面ニ(官)位勳氏名墓ト記シ側面ニハ族籍享年及死亡年月
日等ヲ記スヘシ其尺度ハ左ノ如シト雖モ合葬ノ場合又ハ地方ノ狀況ニ依リ材料ヲ變更シ若クハ
尺度ヲ伸縮スルコトヲ得

將官 高五尺 地上以 方一尺

上長官 高四尺五寸 下同シ 方九寸

士官及候補生 高四尺 方八寸

准士官 高三尺 方七寸

下士 高二尺五寸 方六寸

卒 高一尺 方五寸

第五條 所屬長若クハ先任士官ハ部下士官以上及候補生死亡シタルトキハ海軍大臣ニ准士官死亡
シタルトキハ軍務局長ニ下士卒死亡シタルトキハ本籍海兵團長ニ報告シ海兵團長ハ之ヲ軍務局
長ニ報告スヘシ

軍屬及其他ノモノノ死亡セシトキ其高等官及之ニ準スルモノハ海軍大臣ニ其他ノモノハ都テ軍務
局長ニ報告スヘシ但鎮守府所屬ニ係ルモノハ本人所屬鎮守府ニ報告シ鎮守府ハ海軍大臣ニ報告
シ若クハ軍務局長ニ通知スヘシ
前二項ノ報告ヲナスト同時ニ其遺族ニ通知スヘシ

第六條 死體若クハ遺骨遺髪ヲ戰地外ニ於テ處分スルトキハ左ノ諸項ニ依ルヘシ但第二條第二項
ノ海軍官廳ニ於ケル處分モ亦同シ

一 准士官以上及候補生ノ死體若クハ遺骨ハ其遺族ヲ召喚シ之ヲ引渡スヘシ但請求アルトキ
ハ其親戚故舊ニ引渡スコトヲ得

二 下士卒ノ死體ハ海軍生徒下士卒死亡者取扱規則ニ依リ處分スヘシ遺骨モ亦之ニ準ス

三 遺髪ハ都テ官費ヲ以テ之ヲ遺族ニ送附スヘシ但請求アルトキハ其親戚故舊ニ引渡スコト
ヲ得

第七條 第六條第一ニ係ル者ノ埋葬費ハ官費支辨ノ限リニアラス

第八條 海軍生徒下士卒死亡者取扱規則第二十九條ノ場合ニ在テハ同條規定以內ノ實費ヲ下付
ス

第九條 第四條ニ依リ木柱ヲ以テ建設シタル墓標ハ平時ニ復セシ後石材^{適宜ノ選}ヲ以テ改設ス
ルモノトス但石材ヲ得難キ地方ニ在テハ成ルヘク之ニ等シキ材料ヲ以テ改設スヘシ

第十條 海軍埋葬地外ニ埋葬シタル者ヲ平時ニ復セシ後前條ノ墓標改設前ニ於テ遺族若クハ親戚
故舊ヨリ自費改葬願出ツルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 下士卒及下士卒ニ準スル者ノ死體若クハ遺骨ヲ遺族若クハ親戚故舊ニ引渡シ又ハ水葬
シタルトキハ平時ニ復セシ後其名碑ヲ海軍埋葬地ニ官設スルモノトス前條ニ依リ改葬シタル者

モ亦同シ但時宜ニ依リ數名合同ト爲スコトアルヘシ又准士官以上候補生及准士官以上候補生ニ
準スル者ニモ必要アル場合ニハ本條ヲ適用スルコトアルヘシ

○海軍省達第四十七號

明治十八年^{十二月} 丙第六十六號陸海軍喇叭譜同目次同區分表中ニ左ノ追加ス (追加略ス)

明治二十八年五月二十五日

海軍大臣伯耆西郷從道

○陸軍第四十號
臨時陸軍檢疫手續左ノ通定ム

陸軍大臣伯爵大山巖代理
陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月二十七日

臨時陸軍檢疫手續

第一條 檢疫ノ實務ハ左ノ各科ニ於テ分擔スヘシ

- 船舶検査科
- 運搬科
 - 甲 未消毒 乙 既消毒
- 藥物消毒科
 - 甲 未消毒 乙 既消毒
- 熱汽消毒科
 - 甲 未消毒 乙 既消毒
- 燒却科
- 沐浴科
 - 甲 點檢所 乙 物品預所 丙 待合室
- 丁 浴室 戊 休息室 己 著衣室
- 庚 物品渡所
- 船舶消毒科
 - 附 檢疫所内消毒

停 留 舍

第二條 船舶検査科ニ於テ船舶ヲ検査スヘキ順序ハ左ノ如シ

- 一 明治二十八年陸軍省令第六號第十八ニ該當スヘキ船舶ニシテ戰地ヨリ臨時陸軍檢疫所アル港内ニ來著スルトキハ檢疫官其船舶ニ到リ該省令第二十一ノ明告書(第一號書式)ヲ受取リ尙必要ノ件ハ之ヲ船長及其明告書ニ連署ノ義務アル者ニ尋問シ船内ヲ巡視スヘシ
- 二 船内巡視ノ上傳染病患者若クハ死者アルカ又ハ消毒(船舶消毒物品消毒等ヲ總稱ス)ノ必要ヲ認ムルトキハ汽笛ヲ以テ各科ニ信號スヘシ
但シ患者ハ船舶検査主任醫官ニ於テ診察ノ上避病院ニ送ルモノト疑症室ニ送ルモノトヲ區分シ入院通知書ヲ作り病床日誌アル者ハ之ヲ添フヘシ
- 三 前號ノ患者、死者及ヒ消毒ヲ要スヘキ物品アルトキハ之ヲ運搬科甲號ニ其消毒スヘキ船内ノ部分ハ之ヲ船舶消毒科ニ移牒スヘシ
但消毒ヲ要スヘキ物品ニシテ患者ノ携帶品死者ノ遺物ニ係ルモノハ之ヲ調査シテ目錄ヲ添フヘシ
- 四 患者ノ携帶品死者ノ遺物中其貴重ナルモノハ船長(若クハ明治二十八年陸軍省令第六號第二十一ノ明告書ニ連署スヘキ義務アル者若クハ隊長)立會ノ上調査シ別ニ目錄ヲ作り捺印セシメ之ヲ檢疫所長ニ差出スヘシ但シ軍人軍屬ノ携帶品若クハ遺物ニシテ別ニ成規ニ據リ取扱フヘキモノハ此限ニ非ラス其消毒ヲ要スルモノハ其手續ヲナスコト勿論タルヘシ
- 五 消毒後船舶消毒科及ヒ他ノ各科ヨリ其完了ヲ通牒シ來ルトキハ更ニ船内ヲ巡視シ異狀ナキコトヲ認メタル上甲號檢疫證書(第二號書式)ヲ船長ニ交付シ進航ヲ許可スヘシ
- 六 檢疫停船、隔離碇泊ヲ命シタル船舶ハ時々之ヲ巡視スヘシ若シ明治二十八年陸軍省令第六號第三十ノ場合ニ在テ出航ヲ許ストキハ乙號檢疫證書(第三號書式)ヲ船長ニ交付スヘシ

第三條 運搬科ニ於テ患者、死者及消毒品ヲ運搬スル順序左ノ如シ

- 一 船内ノ患者ハ之ヲ避病院ニ其死者ハ之ヲ屍室ニ移シ其携帶品若クハ同室健康者ノ携帶品ニシテ消毒ヲ要スルモノハ其藥物消毒ニ付スヘキモノト熱汽消毒ニ付スヘキモノト及燒却スヘキモノトヲ区分シ各符號(藥若クハ熱若クハ燒及消毒済后先)ヲ付シ次ノ各項ニ示ス所ノ手續ヲナスヘシ
- 患者ノ携帶品(死者ノ遺物)ニシテ藥物消毒若クハ熱汽消毒ニ付スヘキ者ハ先ツ之ヲ未消毒倉庫ニ移シ後藥物消毒科熱汽消毒科ノ甲號ニ送付スヘシ其燒却ニ付スヘキモノハ直ニ燒却科ニ送付スヘシ
- 船内ニ患者若クハ死者アリテ之ト同室セシ健康者ノ携帶品ニシテ消毒ヲ要スヘキモノハ其種類ニ從ヒ消毒符ヲ附シ之ヲ熱汽消毒ノ假物置(即熱汽消毒科ノ甲號)若クハ藥物消毒室(即藥物消毒科ノ甲號)ニ交付スヘシ其燒却スヘキ携帶品ハ之ヲ前項ノ物品ト共ニ燒却科ニ送付スヘシ
- 二 患者ノ排泄物並ニ之ニ汚染シタル物品殊ニ燒却スヘキモノハ十分ノ消毒藥ヲ灌キ之ヲブリキ罐中ニ入レ運搬人夫ヲシテ送付セシム可シ若シ其物體大ニシテブリキ罐中ニ入ルハ能ハサルモノハ消毒藥ヲ灌キ繩ヲ以テ纏括スル等ノ方法ニ依リ傳染ノ虞ヲ避ケ運搬セシムヘシ
- 三 第一號ニ於テ区分シタル藥物消毒及ヒ熱汽消毒ニ付スヘキ物品ニシテ患者若クハ同室健康者ノ携帶品ニ係ルモノハ切符ヲ渡シ置キ消毒了ルノ後該切符引換ニ各本人ニ交付スヘシ
- 四 燒却ニ付スヘキ物品ヲ燒却科ニ送ルニハ左ノ燒却品傳票ヲ用ヒ通報ノ用ニ供スヘシ

赤紙(直ニ燒却ニ付スヘキモノ)

白紙(未消毒倉庫ニ送り一應所長ニ報告スヘキモノ)

第 號	檢疫官 認印
燒却品	所有主隊號姓名
一何々	私官 私有
一何々	何枚
一何々	何本
右本人承諾	
見積代價何圓何錢(不明)	

第 號	檢疫官 認印
燒却品	所有主隊號姓名
一何々	私官 私有
一何々	何枚
一何々	何本
右本人承諾	
見積代價何圓何錢(不明)	

- 五 前項ノ燒却傳票ヲ附シタル物品ニシテ本人不承諾ノモノハ直ニ燒却科ニ送ラスシテ之ヲ未消毒倉庫ニ送り其由檢疫所長ニ報告シ其指揮ヲ待ツヘシ
 - 六 消毒中頓ニ傳染病患者ヲ發生シ運搬ノ必要ヲ報シ來ルトキハ直ニ患者並ニ消毒スヘキ物品ノ運搬ヲナスヘシ
- 第四條 藥物消毒科ニ於テ病汚染若クハ其疑アル物品ニシテ熱汽消毒若クハ燒却ニ付ス可ラサ

ルモノ、藥物消毒ヲ施行スル順序左ノ如シ

- 一 藥物消毒ニ於テ藥物ノ溶解法用法分量等ハ別ニ定ムル所ノ消毒心得ニ據ル
- 二 假物置ヨリ送付シ來ルモノハ至急ノ消毒ヲ要スル物品ナルヲ以テ速ニ消毒ノ手續ヲ爲スヘシ
- 三 未消毒倉庫ニ受附ケタル物品ハ消毒室ノ警閉ヲ掛リ順次消毒ヲ施行シ了ルトキハ之ヲ運搬科乙號ニ通牒シテ既消毒倉庫ニ運搬セシムヘシ

第五條 熱汽消毒科ニ於テ病汚染若クハ其疑アル物品竝ニ健康者ノ著服ノ熱汽消毒ヲ施行スル順序左ノ如シ

- 一 熱汽消毒ニ於テ汽籠竝ニ消毒房ノ用法ハ別ニ定ムル所ノ消毒心得ニ據ル
- 二 熱汽消毒ニ付スヘキ物品ヲ受ケルトキハ甲號ニ於テ取リ纏メ之ヲ蒸籠ニ積ミ消毒房ニ輸入シ一定時間ヲ經テ消毒了ルトキハ鈴ヲ鳴シテ之ヲ乙號ニ報スヘシ
- 三 乙號ニ於テハ甲號ヨリ消毒済ノ報アルトキハ消毒房ヨリ蒸籠ヲ輸出シ其中ニ積ミタル物件ハ次ノ各項ニ示ス所ノ手續ヲナスヘシ

健康者ノ著服ハ之ヲ著衣室ニ送付ス

假物置ヨリ受ケタル物品ハ直チニ運搬科ノ乙號ニ通牒シテ之ヲ居先ニ運搬セシム

四 未消毒倉庫ニ受附ケタル物品ハ熱汽消毒ノ警閉ヲ掛リ順次消毒シテ運搬科ノ乙號ニ通牒シ之ヲ既消毒倉庫ニ運搬セシム

第六條 燒却科ニ於テ消毒ノ上再ヒ用ニ供スヘカラサル物品ヲ燒却スル順序左ノ如シ

- 一 運搬科甲號ヨリ運搬シ來ル燒却品ハ之ニ添付シタル傳票ト現品ト照合シタル後之ヲ燒却スヘシ

但照合ノ際傳票中本人不承諾ノモノ及傳票ナキモノヲ發見シタルトキハ之ヲ未消毒倉庫ニ回付シ其由ヲ檢疫所長ニ報告シテ指揮ヲ待ツヘシ

第七條 沐浴科ニ於テ健康者ヲ沐浴セシメ著服ヲ消毒スル順序左ノ如シ

- 一 軍隊ノ健康者ハ大約一個中隊ヲ一組トシ士官若クハ下士ノ指揮ニ依テ順次上陸セシメ點檢所ニ於テ番號ヲ附シタル指環及番號札ヲ交付スヘシ

軍人以外ノ者ニ在テハ檢疫ニ從事スル下士上等兵ヲシテ上陸其他ノ指揮ヲナサシム其他ノ手續前項ニ同シ

點檢所ニ於テ渡シタル番號指環ハ消毒ノ全經過ヲ了リ消毒所ヲ退出スルノ際之ヲ返付セシムヘシ

二 物品預所ニ於テ軍人ハ指環ノ番號ノ順ニ從ヒ順次武裝ヲ解キ之ヲ預クヘシ

軍人外ノ者ニ在テハ自カラ携帶品ニ別ニ備フル番號札ヲ附シ之ヲ預ケ置クヘシ

預リタル物品中藥物消毒ヲ要スヘキモノアルトキハ藥ノ符ヲ附シ直ニ之ヲ藥物消毒室ニ送ルヘシ

貴重品ハ物品預所ニ備フル所ノ各番號ヲ附シタル貴重品預匣ニ入ルヘシ

三 前號ノ手續ヲ了リタル者ハ待合室ニ入ルヘシ其待合室ニハ理髮所ヲ附スルヲ以テ斬髮ヲ望ムモノハ番號ノ順次ニ從ヒ理髮セシムヘシ

四 浴室ノ準備了ルトキハ鈴ヲ以テ待合所ニ報ス指環番號ノ順序ニ從ヒ一回七十八ヲ一組トシテ浴室ニ入ラシメ其入口ニ於テ手拭ヲ交付ス

五 入浴前脱シタル著服ハ番號札附ノ紐ヲ以テ自ラ之ヲ纏括シ置クヘシ入浴ノ時間ハ大約二十分時トス時間了ルトキハ鈴ヲ以テ之ヲ報ス

六 浴後ハ消毒シタル浴衣ヲ貸與スルヲ以テ之ヲ著シ休息室ニ入り著服ノ消毒了ルヲ待ツヘシ

七 著服ノ消毒了リ熱汽消毒科乙號ヨリ之ヲ著衣室ニ送付シ來リ其排列ヲ了ルトキハ鈴ヲ以テ之ヲ報スヘシ

八 休息室ニ在テ鈴ヲ開クトキハ著衣室ニ到リ指環番號ニ照合シ著服シ了ルトキハ順次物品渡所ニ到リ軍人ハ武裝ヲ整ヘ軍屬其他ノ者ハ預品ヲ受取リ最初點檢所ニ於テ受取リタル番號札ノ紐ヲ指環ニ貫キ纏メテ之ヲ掛員ニ渡シ退出スヘシ

九 貸付スル浴衣ハ一回毎ニ消毒シ時々洗濯シテ常ニ清潔ニ保タシメ且之ヲ浴室ニ排列スル等著衣室擔當者ニ於テ取扱フヘシ

第八條 船舶消毒科ニ於テ船舶並檢疫所内ノ消毒清潔法ヲ施行スル順序左ノ如シ

- 一 船舶若クハ檢疫所内各室ノ消毒ニ於テハ藥物消毒及清潔法ヲ施行スヘシ之ニ要スル藥物ノ溶解法、用法、分量、消毒用器具、並其使用法等ハ別ニ定ムル消毒心得ニ據ル
- 二 船舶檢査科ヨリ船舶消毒ノ必要ヲ報シ來ルトキ又檢疫所内ニ於テ患者發生シ消毒ノ必要ヲ報シ來ルトキハ直ニ之ニ應シ所定ノ消毒法ヲ施行スヘシ
- 三 船内ノ裝飾及檢疫所内ノ雜作物件ニシテ假令消毒ヲ行フモ再ヒ使用ノ目的ナキコトヲ認メタルモノハ燒却ノ手續ヲナスヘシ

第九條 停留舎ニ於テ明治二十八年陸軍省令第六號第二十四ニ該當スルモノヲ五日間宿泊セシメ其異狀ナキヲ認メ退舎セシムル順序左ノ如シ

- 一 停留舎ニ宿泊スヘキモノハ浴後消毒シタル浴衣ヲ貸與シ直ニ停留舎ニ到ラシム但シ點檢所ニ於テ與ヘタル番號ヲ彫リタル指環ハ五日間ノ後退舎スルノ際返付セシムヘシ
- 二 停留舎ニ於テハ毎朝擔任醫官患者ヲ診斷シ時々舍内ヲ巡視シテ宿泊者ノ狀況ニ注意スヘシ臨時發病殊ニ下痢症ヲ發シタル者アルトキハ速ニ醫官ノ診斷ヲ受ケシムヘシ傳染病若クハ其疑似症ニ罹リタル者アルトキハ速ニ避病院又ハ疑症室ニ送り舍内及諸器具ニハ成規ノ消毒法ヲ施行スヘシ
- 三 入舎後五日ヲ經異狀ナキヲ以テ退舎セシムル者ニハ既消毒倉庫ヨリ著服携帶品ヲ受取リ宿

泊者ノ指環番號ニ照シ之ヲ各自ニ交付シ指環ヲ納付セシメテ退舎ヲ許可ス此番號指環ハ著服携帶品ニ附シタル番號札ト共ニ纏メテ之ヲ檢疫所總務科ニ送付スヘシ

四 滿期退舎ノ者軍役人夫ナル時ハ陸軍省出張員ニ引渡スヘシ

五 入舎中貸與シタル消毒衣ハ毎回納付後之ヲ消毒シ且時々之ヲ洗濯スヘシ

六 入舎中傳染病患者發生シタルトキハ更ニ其當日ヨリ五日間入舎ヲ繼續シ最後ニ患者ヲ發シタル日ヨリ五日間ヲ經テ患者ナキニ至レハ退舎ヲ許ス但シ停留舎内ニ於テ續々多數ノ傳染病患者ヲ生シ傳播ノ恐アルトキハ停留舎宿泊者ノ一部ヲ他ニ移ス等臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

第十條 第二條第三號ニ示ス所ノ携帶品及遺物ハ檢疫所長ヨリ目錄ヲ添ヘ避病院長ニ交付シ成規ノ處分ヲ求ムヘシ

第十一條 前條ノ物品中既消毒倉庫ニ收容シタルモノヲ避病院入院患者ニ交付スル手續ハ檢疫所長避病院長合議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十二條 明治二十八年陸軍省令第六號第十八以外ノ患者ニシテ入浴消毒ヲ行フコト能ハサルモノハ消毒衣ニ著換ヘシメ其著服ト携帶品ハ一般ノ消毒法ニ從ヒ之ヲ施行スヘシ

第十三條 健康者ト雖モ負傷ノ爲メ起居ノ自由ヲサル者ハ之ヲ他ノ健康者ト區分シ特ニ擔架ヲ以テ送り入浴消毒ヲ行ハシムルヲ要ス

第十四條 小蒸汽船及舢舨ノ配置監督ハ總務科ノ擔任トス其配置後各科ニ屬スル舢舨ハ各科主任檢疫官ニ於テ取扱ヲ定ムヘシ其大要ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

- 一 小蒸汽船ハ舢舨ノ檢査、通信及舢舨ノ引舟ニ用ヒ舢舨ハ人員物品ノ運漕ニ用ユルモノトス
- 二 小蒸汽船ニハ檢疫ヲ受クヘキ者及其携帶品等ハ消毒濟ニ係ルモノト雖モ乘船若クハ搭載セシメサルヲ常トス
- 三 舢舨ハ未消毒ノ人員物品ヲ搭載スルモノト既消毒人員物品ヲ搭載スルモノトヲ區別シ混用セシム可ラス其未消毒人員物品ノ運漕ニ供シタル舢舨ハ其事業ヲ了リタル毎ニ清潔消毒法ヲ施

行スヘシ

- 四 解ハ小蒸汽船ヲ以テ引カル、場合ト否トヲ問ハス患者死者ヲ運搬スルモノハ晝間ハ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ紅色ノ提燈ニ檢疫ノ二字ヲ黒書シタルモノヲ用フヘシ
- 未消毒ノ健康者及物品ヲ運搬スルモノハ晝間ハ黃白旗夜間ハ前項ニ同シキ提燈ヲ用フヘシ
- 第十五條 兵站部ト臨時陸軍檢疫所トノ關係及ヒ物品受授ノ手續等ハ別ニ定ムル所ニ據ルヘシ
- 第十六條 檢疫所内何レノ場所ヲ問ハス發病者アリタルトキハ運搬科及船舶消毒科(室内消毒)ニ急報スヘシ
- 第十七條 下士卒ノ服務及休憩ハ喇叭ヲ以テ報道ス
喇叭ヲ服務ハ氣ヲ付 服務ノ報アルトキハ下士卒等兵各其部下ノ兵卒ヲ率井テ服務ノ用意ヲ爲シ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 第十八條 檢疫中各科分擔者ヲ呼フニハ某科某號ノ當番ト稱スヘシ分科分擔ノ下士卒ニハ胸部ニ各科號ノ記章ヲ佩ハシム
- 第十九條 檢疫所内各室ニハ消毒藥ヲ備ヘ置キ急時ニ臨ミ第一著ノ消毒法ヲ施行シ得ヘキ準備ヲナシ置クヘシ

第一號書式

何々丸船長 何 某
乘組 醫員 何 某

1	船種及噸數	
2	發航ノ地名日時及航路寄港ノ地名並其發著日時	
3	發航以來傳染病患者死者ノ有無(其發航ノ日時並人員)	
4	著港ノ際現在患者又ハ死者ノ有無(其人員)	
5	寄港ノ際上陸ノ地名並交通セル船名及其概要	

6	他港ニ於テ船舶檢査及消毒法隔絶泊若クハ檢疫停船ヲ受ケタル有無其日時場所	
7	替テ船中成列刺病患者吐瀉病ノ有無及其狀況	
8	乘員 將校及高等官 下士判任官卒 其他	
9	船員 船長運調師機關師事務員等 火夫水夫入夫其他	
10	飲料水ヲ汲入レタル地名	
11	食料薪炭ヲ積入レタル地名	
12	入港前海洋ニテ「ビルジ」腔ヲ洗滌シ來リシヤ否	
13	搭載獸畜ノ種類員數及搭載セシ地名	
14	積荷ノ種類及搭載セシ地名	
備考	(傳染病患者船中ニ發シタル際第一ノ處置ヲ施シタル景況及其發病原因ト信スル件等ハ必ス欄中ニ記載スヘシ)	

年月日

輸送指揮官 官 姓 名
監督將校 官 姓 名
隊附醫官 官 姓 名

(注意) 此明告書ハ檢疫官船舶ニ隨檢ノ際用紙ヲ交付シテ記入セシムル規定ナレトモ事務ノ便宜ヲ計リ預メ用紙ヲ各船舶ニ配付シ置ク見込ナリ

第二號書式 (甲號) 檢疫證書

九八明治二十八年陸軍省令第六號ニ據リ本年月日檢査ノ上消毒ヲ了ス依テ他ノ港灣ニ進航シ陸地又ハ船舶ト交通シ及乘船人員ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ許可ス

丸船長 何 某

年月日

第二號書式

(乙號) 檢疫證書

九八明治二十八年陸軍省令第六號ニ據リ本年月日検査ノ上消積ヲ施行ス検査ノ日ヨリ起算シ五月何月何日迄ノ間更ニ虎列刺患者ヲ發見セサル時ハ消積完了ノ效アルモノトス

年月日

何地検査所長 官姓 名
同 検査官 官姓 名
同 検査官 官姓 名

丸船長 何 某

何地検査所長 官姓 名
同 検査官 官姓 名
同 検査官 官姓 名

○海軍省達第四十八號

横須賀鎮守府造船部ニ於テ製造ノ丙號巡洋艦ヲ明石ト命名セラレ

明治二十八年五月二十七日

海軍大臣伯露西郷從道

○陸軍省達第四十一號

明治二十七年陸軍省第六十七號兵器彈藥取扱規則第二章第七條第二號中「並要塞備附」ノ五字ヲ削除シ第三號ノ次ニ左ノ二號ヲ追加ス

明治二十八年五月二十八日

陸軍大臣伯露大山巖代理

陸軍次官兒玉源太郎

- 一 要塞備附兵器彈藥ハ當該要塞司令官若クハ警備隊司令官之ヲ管理シ當該支署長保管ノ責ニ任ス
- 一 要塞備附兵器彈藥ニシテ要塞司令官若クハ警備隊司令官ヲ置カサルトキ及砲臺ノ未タ落成セサルトキハ當該本署長之ヲ管理シ當該支署長保管ノ責ニ任ス

(参照)

陸軍省第六十七號兵器彈藥取扱規則(明治二十七年七月三日)抄録

第二章 管理

- 第七條 兵器彈藥ハ平時之ヲ分テ本署支署軍隊學校ニ配備シ其管理保管ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 本署保管兵器彈藥ハ當該本署長之ヲ管理シ且保管ノ責ニ任ス
- 一 支署保管第一支隊及官衙所屬並要塞備附兵器彈藥ハ當該本署長之ヲ管理シ同支署長保管ノ責ニ任ス
- 一 支隊保管第二支隊兵器彈藥ハ當該師團長若クハ屯田兵司令官之ヲ管理シ同支署長保管ノ責ニ任ス
- 一 軍隊保管兵器彈藥ハ當該師團長若クハ屯田兵司令官之ヲ管理シ同支署長保管ノ責ニ任ス
- 一 學校保管兵器彈藥ハ陸軍省令ニ依リ之ヲ管理シ校長保管ノ責ニ任ス

○陸軍省達第四十二號

明治十八年達乙第五百十四號陸海軍喇叭譜同喇叭譜目次同喇叭譜所用區分表中別紙ノ通追加ス(別紙略ス)

陸軍大臣伯露大山巖代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月二十八日

○陸軍省達第四十三號

今般勅令第六十四號ヲ以テ過員其他ニ關スル件公布相成候ニ付テハ右ニ係ハル人事取扱方左ノ通定ム

陸軍大臣伯露大山巖代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月二十九日

- 一 將校同相當官ノ戰役間臨時職務ハ復員若クハ特設部隊ノ解散又ハ閉鎖ト共ニ自然消滅トシ本職アル者ハ其所管ニ復歸セシメ本職ナキ者ハ其團隊所在地若クハ特設部隊解散地ニ在テ命ヲ待タシムヘシ
- 一 本職ナキ者ニシテ復員ノ際官衙又ハ團隊附ヲ命セラレタル者ハ其所屬長官ニ於テ相當ノ業務

ヲ課シ其旨報告スヘシ

二 將校同相當官定員上其職一名ニ限ルモノニシテ過員ヲ生セシ場合ニ在テハ高級故參ノ者本務ニ復シ他ハ所屬長官適宜業務ヲ課シ其旨報告スヘシ

三 高等文官以下及准士官以下ニ在テ前兩項ニ相當スル者皆之ニ準シ取扱フヘシ

○陸軍第四十四號

臨時陸軍檢疫部ニ係ル給與方左ノ通定ム

明治二十八年五月二十九日

陸軍大臣伯爵大山巖代理
陸軍次官兒玉源太郎

一 臨時陸軍檢疫部ニ屬スル將校ニシテ檢疫ニ從事スル者ニハ洗代ヘトシテ夏服一名二組ツ、ヲ特ニ貸與スルコトヲ得

二 臨時陸軍檢疫所ニ要スル雇醫ニハ取締上別表ノ帽衣跨ヲ調製シ現品ヲ以テ支給スヘシ

(別表)

臨時陸軍檢疫部雇醫服制			
名	稱	品	質
帽	表 紺 絨	真 鍮 製 星 章	萌 黃 絨
	裏 適 宜		製 式 及 形 狀
夏	衣 白 布	袖 章 袖口ヨリ二寸ヲ上リ四分巾白内記線一條ヲ周環ニ付ス	製 式 及 形 狀
夏	袴 同	卸 銀色圓形徑五分五厘胸部ニ五箇ヲ付ス	製 式 及 形 狀
		將校夏衣ニ同シ	大黒形ニシテ前面ニ黒革眉庇ヲ付ス
		將校夏袴ニ同シ	

○陸軍第四十五號

本年陸軍第十四號別冊中工兵事務課擔任區分第二項朱書括弧中工兵隊ノ上ニ「東京防禦總督部要塞司令部」ノ十二字ヲ加フ

明治二十八年六月一日

陸軍大臣伯爵大山巖

○陸軍第四十六號

今般勅令第六十四號ヲ以テ過員其他ニ關スル件公布相成候ニ付テハ右過員ニ係ル乘馬ノ取扱方左ノ通定ム

明治二十八年六月三日

陸軍大臣伯爵大山巖

一 平時定員ニ超過スル乘馬本分ノ士官ニハ當該所管ニ於テ剩餘ノ馬匹ヲ貸與スヘシ

但剩餘馬匹ナキ所管ニ在テハ其供給方ヲ申請スヘシ

二 前項ノ馬匹ハ將校飼養馬匹事務取扱委員ノ管理ニ編入セス

○海軍省達第四十九號(關)

○海軍省達第五十號

捕獲清國軍艦滄雲ヲ帝國軍艦ト定メラル

明治二十八年六月五日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○陸軍第四十七號

來明治二十九年ニ於テ各師團步兵隊及各官廳附等步兵科下士ノ内二十名明治二十七年勅令第九十五號ニ基キ屯田兵條例ニ依リ服役ヲ許ス

明治二十八年六月七日

陸軍大臣伯爵大山巖

○陸軍第四十八號

本年陸軍第十一號別紙乙號日本郵船株式會社所有汽船乘込手續中左ノ通改正ス

明治二十八年六月八日

陸軍大臣伯爵大山巖

本籍府縣郡市町村番地
族 籍 氏 名

今般何々臨時陸軍檢疫所常用人夫志願ニ付御検査ノ上御採用被下度保證人連署此段願上候也
年 號 月 日

保證人住所
氏 名 印

何々臨時陸軍檢疫所常用人夫御請書
第二號(請書式)

今般何々臨時陸軍檢疫所常用人夫ニ御採用被下候ニ就テハ誓約並ニ臨時陸軍檢疫所常用人夫使用規則ノ條々堅ク相守リ聊モ違背仕間敷依テ保證人連署此段御請仕候也
年 號 月 日

本籍府縣郡市町村番地
族 籍 氏 名 印

保證人
氏 名 印

何々臨時陸軍檢疫所長氏 名殿

第三號(被服圖式略ス)
第四號(日給金額)

臨時陸軍檢疫所常用人夫給額表

特	等	級	日	給	金	額
	別	金	四	拾	六	錢 以上 壹 圓 迄

一	等	金	壹	拾	六	錢 以上 四 拾 五 錢 迄
二	等	金	壹	拾	五	錢 以 下

備考 當初ハ一般ニ二等ノ金額ヲ給シ其勉勵者ニハ一等ノ金額ヲ支給シ特別拔群ノ者ニハ特別ノ金額ヲ支給ス

○海軍省達第五十一號
練習ノ爲メ海軍兵學校及海軍機關學校生徒ノ乘組タル軍艦々長ハ該校長ト協議ノ上部下ノ士官若干名ヲ被服委員ト爲シ該生徒ノ被服物品等ニ關スル事ヲ掌理セシムルコトヲ得但之ニ關スル手續ハ雙方協議ノ上取定ムルモノトス
明治二十八年六月十五日
海軍大臣伯爵西郷從道

○會計検査院達第二號

物品出納證明規程左ノ通定ム

但物品出納證明規程ハ本規程施行ノ年度ヨリ廢止ス
明治二十八年六月十七日

會計検査院長子爵渡邊昇

物品出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ物品會計官吏ノ證明スヘキ物品出納計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 物品出納計算書ニハ器具機械備品消耗品動物其他物品ノ種類若クハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シテ每品之ヲ列記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ

第三條 物品出納證明上證書書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ但一項乃至三項ハ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書

- 二 消耗拂及生産ノ爲メ拂出ノ物品ニ對シテハ各其領收證書
- 三 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書
- 四 賣拂品ニ對シテハ品質數量代價賣拂ノ年月日及其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書
- 五 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質數量價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書
- 六 贈與拂ノ物品ニ對シテハ其事由ヲ詳記シタル證明書又ハ決議書
- 第四條 前條ノ證明書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證明書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證明書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ
- 一 證明書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ
 - 一 證明書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由
 - 二 現在品ノ内地運送中ノモノアルトキハ其數量及事由
- 第六條 常時出納ヲナサハル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ニシテ物品會計規則第十八條ニ據リ調書ヲ以テ證明スル場合ニ於テ前同ノ證明高ニ對シ増減異動アルモノハ其仕譯書ヲ添付スヘシ但其證明書類ハ前各條ノ例ニ依ル
- 第七條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 第八條 下検査書ハ計算書毎ニ區分編製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 計算書其他證明書類ノ件名册數
 - 二 計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ

- 難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由
- 第九條 物品出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ
- 第十條 一應ニ限り又ハ物品ノ種類ニ依リ特ニ要スル證明ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 附則
- 第十一條 本規程ハ明治二十八年年度ヨリ施行ス

(別記)

明治何年度

物品出納計算書

五	四	三	二	一
證明書類中検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名册數ヲ計算書ニ付記スヘシ	計算書ハ改換塗抹ヲ禁ス若シ誤脱文字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ	代算書ハ用紙ハ厚質沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴	計算書ノ用紙ハ厚質沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴	物品會計表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ
凡例				
計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ				
物品會計表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ				
ハ計算書表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ				
代算書ハ用紙ハ厚質沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴				
計算書ノ用紙ハ厚質沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴				
物品會計表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ				
ハ計算書表題何年度ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ				

名 廳

○會計検査院達第三號

作業及鐵道物品出納證明規程左ノ通定

但作業及鐵道物品出納證明程式ハ本規程施行ノ年度ヨリ廢止ス

明治二十八年六月十七日

會計検査院長子爵渡邊昇

作業及鐵道物品出納證明規程

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ物品會計官吏ノ證明スヘキ作業及鐵道物品出納計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 物品出納計算書ニハ生産品、材料素品、機械運轉用品、作業場用備品、器具機械等ニ大別シ更ニ物品ノ種類又ハ所用ノ目的ニ依リ適宜類別シ每品之ヲ別記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ

第三條 物品出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ但一項乃至三項ハ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

- 一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書
- 二 消耗拂及生産ノ爲メ拂出ノ物品ニ對シテハ各其領收證書
- 三 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書
- 四 賣拂品ニ對シテハ其買受人ノ領收證書又ハ當該官吏ノ仕譯書但其代價納付済ノ年度付記ヲ要ス
- 五 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ當該上官ノ認定アル品質、數量、價格及其亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル證明書其辨償ニ係ルモノハ尙其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書

第四條 前條ノ證憑書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲グル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量並代價ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證書僅少ナルモノハ計算書ニ掲グル品目ノ順次ニ從ヒ合算スルモ妨ケナシ

一 證憑書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目數量及代價ノ合計ヲ記載スヘシ

第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ

- 一 證憑書類中他ノ計算證明上提出済ノモノアルトキハ其事由
- 二 現在品ノ内地遞送中若クハ賣買契約済未渡品等アルトキハ其事由

第六條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書其他證憑書類ノ件名冊數
- 二 計算書ト物品出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由

第八條 物品出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附 則

第九條 本規程ハ明治二十八年年度ヨリ施行ス

(別記)

明治二十八年六月 逓 會計検査院第三號

本 外 之 部									
受 之 部				拂 之 部				現在之部	備 考
越高	買入	何々	計	消耗	賣拂	亡失 毀損	何々		

一三二

明治二十八年六月 逓 會計検査院第三號

固 定 資 本 之 部						
現 在 之 部						備 考
供 用 中		在 庫		計		
數量	價 格	數量	價 格	數量	價 格	

一三〇

○海軍省達第五十二號
造兵造船職工臨時給與規則第三條ニ左ノ一項ヲ追加シ本月一日ヨリ施行ス

資		品		目		單位
						呼稱
明治何年度作業(搬送)物品出納計算書面之通相應無之候也						
物品會計官吏官氏名印						
會計検査院長宛						
年 月 日						
消	耗	品	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
身元保證金						
現金	公債証券額面	土地登記簿額	保証人	氏名		
0	0	0				
(身元保證金ヲ要セサルトキハ其由ヲ記ス)						

明治二十八年六月十九日 海軍大臣伯爵西郷從道

傳染病ニ因リ隔離法施行ノ爲メ服業ヲ禁シタル間モ亦前項ニ依ル

〔参照〕

海軍省達第百二十八號造兵造船職工臨時給與規則(明治二十七年十二月二十六日)抄録
第三條 職工傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ服業シ能ハサル間ハ日給四分ノ三ヲ増給ス

○陸達第五十號
現役軍吏部下士志願者ハ本年ニ限り上等兵トナリタル後ノ服役期限ニ拘ハラズ六七兩月間ニ之ヲ選抜ス
明治二十八年六月二十一日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第五十一號
今同ノ事件ニ付臨時備役シタル看病人醫工若クハ從僕馬丁等ニシテ解備ノ際自服ナキ者ニハ現時著用ノ被服ヲ當該部隊ニ於テ徽章ヲ除去シ特ニ之ヲ下付スヘシ
明治二十八年六月二十一日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第五十二號
臺灣其他必要ノ地ニ派遣準備ノ爲メ憲兵將校以下養成ノ件左ノ通定メラル
明治二十八年六月二十二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

一 東京憲兵隊ニ於テ憲兵將校同准士官各五十名憲兵下士二百五十名憲兵上等兵千五百名ヲ養成ス
二 其養成ノ爲メ特ニ召募スル下士上等兵ノ現役期限ハ任命ノ日ヨリ三箇年トス

○陸達第五十三號
明治二十七年陸達第六十七號兵器彈藥取扱規則第八章第五十五條中當該本署長ヲ管理者ニ改メ

第四表兵器彈藥取扱區分表砲兵第一方面橫須賀支署保管ノ廳名畫内「砲兵第一方面橫須賀支署」ノ前ニ「東京灣要塞司令部」ノ八字及同表砲兵第二方面下ノ關支署保管ノ廳名畫内「歩兵第十二旅團司令部」ノ次ニ下ノ關要塞司令部ノ八字ヲ追加ス

明治二十八年六月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸達第六十七號兵器彈藥取扱規則(明治二十七年七月三日)抄録
第五十五條 要塞砲兵隊及對馬警備隊ニ於テ射擊砲臺演習等ノ如キ必要ノ場合ニ在テ常用砲臺外ノ備砲ヲ使用セントスルトキハ當該隊長先ツ砲臺ノ名稱砲種砲數、使用ノ目的及時日等ヲ詳記シ豫メ當該本署長ノ承諾ヲ經テ該砲臺履歷表ト共ニ當該支署ヨリ備用シ使用後一週日以内ニ砲臺履歷表ヲ編纂シ備砲ト共ニ支署ニ返納スルモノトス但シ使用中毀損ヲ生ゼシトキハ隊長其理由ヲ詳ニシ支署長ニ移稟スルモノトス
使用後ノ手入ハ總テ當該隊長ノ責任ニシテ其費用モ亦該隊ノ管理費用内ヲ以テ支辨スルモノトス故ニ支署長ハ手入不充分ト認ムルトキハ之レカ手入ヲ隊長ニ請求スルコトヲ得

○陸達第五十四號

明治二十九年十二月陸地測量部修技所生徒二十名召募ス

但シ採用手續ハ去二十五年三月本省令第四號ニ據ル

明治二十八年六月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

明治二十五年三月十日陸軍省令第四號ハ陸地測量部修技所生徒採用規則ナリ

○陸達第五十五號

營外居住下士兵卒並陸軍備人ニシテ海外ヨリ歸著シ若クハ内地屯在ノ特設部隊ヲ離レ常備軍隊若クハ官衙ニ屬スル者ニ支給スヘキ大小被服ノ代金及被服料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ給スヘシ

明治二十八年七月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 一 大小被服ノ代金及被服料ハ出發翌月ヨリ歸著前月マテノ月數ヲ扣除シ出發前給與ノ月ヨリ起算シ大被服ノ代金及被服料ハ十二箇月小被服ノ代金ハ四箇月ヲ經テ其乙額ヲ給ス此場合ニ在テハ所持ノ被服品中軍裝用トシテ特ニ加給シタル被服ハ其所屬軍隊若クハ官衙ニ還納セシムヘシ但單ニ往復ニ止マル者ニ在テハ派遣中ノ月數ヲ扣除セス
- 二 海外ニ於テ下士任官歸著ノ後常備軍隊若クハ官衙ニ屬シ被服代金ノ給與ヲ受クヘキ者ニ在テハ現品給與ノ被服品中第二種帽第一種衣袴外套及靴脚絆拍車各一著其儘著用セシメ其他ノ被服人ニ附與スハ總テ其所屬軍隊若クハ官衙ニ還納セシメ更ニ大小被服ノ甲額ヲ給スヘシ下士任官直ニ海外ニ出發シ歸著ノ後常備軍隊若クハ官衙ニ屬スル者モ亦之ニ準ス
- 三 内地ニ於テ下士任官直ニ特設部隊ニ轉シ若クハ特設部隊ニ於テ下士任官其被服ノ現品給與ヲ受ケタル者ニシテ常備軍隊若クハ官衙ニ屬シ被服代金ノ給與ヲ受クヘキ者ニ在テハ前項ノ例ニ依ルヘシ
- 四 陸軍備人トナリ直ニ海外ニ出發シ歸著ノ後常設官衙ニ屬シ被服料ノ給與ヲ受クヘキ者ニ在テハ其際甲額ヲ給シ現品給與ノ被服ハ總テ其所屬官衙ニ還納セシムヘシ内地ニ屯在スル特設部隊ニ於テ陸軍備人トナリ被服ノ現品給與ヲ受ケタル者常設官衙ニ屬シタルトキモ亦之ニ準ス

○陸達第五十六號

本年九月砲兵工科學舍生徒同學舍條例第二條ニ依リ兵卒ヨリ左ノ人員ヲ召募ス

明治二十八年七月 陸軍省陸達第五十五號 陸達第五十六號

但同學會生徒召集規則第二條ノ人名簿並ニ試験書類ハ今回ニ限り本年八月十日迄ニ同學會長ヘ到達スヘキ様發送スヘシ
入會期日ハ同學會ヨリ通知セシム

- 一 鞍工 四名
- 一 木工 四名
- 一 銃工 二十二名
- 一 鍛工 四名

明治二十八年七月五日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十七號
今回ニ限り大本營ニ隸屬スル各部團隊艦船等ノ准士官下士兵卒判任文官敬勳取扱手續ハ將校同相當官及高等文官ノ例ニ準スルコトニ定メラル
明治二十八年七月六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十八號
今回ニ限り大本營ニ隸屬スル各部團隊艦船等ニ屬シ出征員ニ加ハリタル者ノ敬勳取扱ハ現時所屬ノ如何ニ係ハラヌ總テ明治二十七年九月定メラレタル大本營ニ隸屬スル陸海軍將校同相當官及高等文官人事取扱規則ニ依ルコトニ定メラル
明治二十八年七月六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

- 海軍省達第五十三號(圖)
- 海軍省達第五十四號(圖)
- 海軍省達第五十五號

海軍監獄看守長看守ハ左ノ諸項ニ依リ禮式ヲ行フヘシ

明治二十八年七月十日

海軍大臣伯爵西郷從道

- 一 海軍監獄看守長及看守ハ各官等ニ應シ海軍敬禮式ニ準據シ敬禮若クハ答禮ヲ行フヘシ
- 二 門衛及見張所ニアルモノハ高等官ニハ起立シ其他ニハ其儘敬禮若クハ答禮ヲ行フヘシ
- 三 囚徒護送其他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行ハサルモ妨ケナシ

○陸軍第五十九號
憲兵隊編制表改正ニ付東京憲兵隊神奈川憲兵隊第一憲兵隊 宮城憲兵隊第二憲兵隊、愛知憲兵隊第三憲兵隊、大阪憲兵隊第四憲兵隊、廣島憲兵隊第五憲兵隊、熊本憲兵隊、長崎憲兵隊ヲ第六憲兵隊ト換稱ス
明治二十八年七月十二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十號
屯田兵配備表別紙ノ通定メラル
明治二十八年七月十三日 陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

(△印ハ朱書)

兵種	隊號	配置地名	大隊本部及獨立隊本部所在地名	三	十	年	三	十	一	年
第一大隊	雨	龍	龍	現役	五	中	現役	五	中	隊
第二大隊	空	知	川	現役	二	中	現役	二	中	隊
第三大隊	上	川	永	現役	四	中	現役	四	中	隊

兵	第四大隊	常	呂	呂	現役 中隊三個	現役 中隊三個
		別	常	呂	現役 中隊二個	現役 中隊二個
騎	兵	隊	空	知	知	知
砲	兵	隊	空	知	知	知
工	兵	隊	空	知	知	知
考備	一 朱書ハ其年新設ノモノヲ示ス					

○陸軍第六十一號

陸軍衛生部下士ニ士官適任證書付與規則左ノ通定メラル

明治二十八年七月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍衛生部下士官適任證書付與規則

第一條 陸軍衛生部下士ノ内醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀ヲ所持シ品行方正勤務精勵其成績秀
 拔ニシテ豫備後備衛生部下士官ニ適當ノ者ニハ現役滿期若クハ召集ヲ解除シタルトキ衛生部下官
 適任證書ヲ付與スルコトヲ得此場合ニハ所管軍醫部長ハ本人ノ考科表ニ該免狀ノ寫ヲ添ヘ其旨
 醫務局長ニ具申シ醫務局長ハ審査ノ上該證書ヲ付與シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

但適任證書ハ陸軍士官適任證書ノ雛形ニ準ス

第二條 士官適任證書ヲ所持スル者ニシテ豫備後備衛生部下士官タルヘキ品位ヲ傷フモノト認ムル
 トキ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ醫務局長
 其證書ヲ返還ヲ命ジ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第三條 士官適任證書ヲ所持スル者死亡又ハ傷痍疾病等ニ依リ兵役ヲ免シタル者アルトキハ醫務
 局長ヨリ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第四條 本規則ハ士官ノ戰時補充ニ缺員アル間之ヲ施行ス

○陸軍第六十二號

特務曹長ノ週番及衛戍巡察勤務中ハ佐尉官同様ノ懸章ヲ佩用セシム
 但各隊被服費金ノ内ヲ以テ調製備付スル儀ト心得ヘシ

明治二十八年七月十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第六十三號

明治二十七年陸軍第百二十三號及第四百一十一號ハ自今廢止ス

明治二十八年七月十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍第百二十三號(明治二十七年十月六日)

陸軍武官進級令第四條陸軍豫備後備武官進級令第五條ニ依リ自今准士官以下進級ノ停年ヲ半減ス

陸軍第百四十一號(明治二十七年十二月十六日)

陸軍武官進級令第四條及陸軍豫備後備武官進級令第五條ニ依リ自今士官以上進級ノ停年ヲ半減ス

○陸軍第六十四號

海外ニ派遣スル陸軍省雇員タル醫師藥劑師ニ被服給與方左ノ通定ム

明治二十八年七月十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 海外ニ派遣スル陸軍省雇員タル醫師藥劑師ニハ出發ノ際別表ノ被服ヲ調製シ現品ヲ以テ給ス
 現ニ派遣中ニシテ引續キ雇用ノモノ及病院船乗組ノモノモ亦同シ

二 前項ノ被服ハ季節ニ應ジ左ノ員數ヲ給シ爾後實際ノ必要ニ從ヒ之ヲ換給ス

- 一 帽
- 一 冬衣袴
- 一 日履

- 一 組
- 一 箇

〔參照〕
 海軍省達第四百四十三號海軍臨時給與規則施行細則(明治二十七年八月二十日)抄録
 第一條 戰地派遣又ハ既ニ派遣中ノ者ニシテ戒嚴解除又ハ平定後歸著セサルトキハ給與停止ノ日マテ規則第三條ニ依リ増
 俸ヲ給ス
 第四條 戰備完成ノ各部隊艦艇ノ軍人軍屬ニシテ戰地若クハ臨戰合圍地境ニ發航セス又ハ戰地若クハ臨戰合圍地境外ニ
 在ル間ハ其完成ノ日ヨリ給與停止ノ日マテ規則第六條ニ依リ同第二條増俸ノ半額ヲ給ス但規則施行前完成ノモノニ在リ
 テハ施行ノ日ヨリ給與ヲ始ム
 第五條 戰地若クハ臨戰合圍地境ニ派遣スル傭船借入船徴發船ニ乗組ヲ命シタル者ニハ乗船ノ日ヨリ退船又ハ給與停止ノ
 日マテ規則第二條ノ増俸ヲ給ス

○陸軍第六十六號
 明治二十八年陸軍第五十號左ノ通り改正ス

明治二十八年七月三十一日

現役軍吏部下士志願者ハ本年ニ限り入營年ヲ問ハス又上等兵トナリタル後ノ服役期限ニ拘ハラヌ
 六月ヨリ八月迄ノ間ニ於テ之ヲ選拔ス

〔參照〕

陸軍第五十號(明治二十八年六月二十一日)
 現役軍吏部下士志願者ハ本年ニ限り上等兵トナリタル後ノ服役期限ニ拘ハラヌ六七兩月間ニ之ヲ選拔ス

○陸軍第六十七號

陸軍電信配達夫ニハ被服ヲ給ス其製式及給與員數ハ陸軍電信工夫ト同一トス但法被ノ襟章ハ「陸
 軍電信配達夫」ト染抜クヘシ

明治二十八年七月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第六十一號(綱)
 ○海軍省達第六十二號(綱)

○海軍省達第六十三號(綱)
 ○海軍省達第六十四號(綱)
 ○海軍省達第六十五號

通常物品出納命令官會計官吏ヲ左ノ通り改正ス
 明治二十八年七月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

職名	品名	出納命令官	會計官吏
本省、軍令部、技術會議、衛生會議、東京軍法會議	軍用器具物品	經理局第三課長	×經理局第三課屬
本 省	建築用材料	經理局第三課長	×經理局第三課屬
軍 令 部	普通圖書	文庫主管	×書記
	軍港要港防禦材料、艦船繫留用品、防火用品及附屬船艇用品	知 港 事	×知港事廳屬員
	艦艇用品	造 船 部 長	×造船材料倉庫主管
	船附屬物品、艦艇取外物品、工業上シタル不用物品	造 船 部 長	×艦材圖場在勤書記
	艦材、圍場、艦材	造 船 部 長	×艦材圖場在勤書記
	測器修理用材料、器具機械及測器保管運搬用品	測 器 庫 主 管	×測器庫屬員
	兵器保管運搬用品	武 庫 主 管	×武庫屬員
	兵器保管運搬用品	水 雷 庫 主 管	×水雷庫屬員
	造兵用材料、器具機械及兵器保管運搬用品	兵 器 工 場 主 管	×兵器工場屬員
	病院患者用物品及治療品保管運搬用品	病 院 長	×病院附軍醫

衛生會	大 學 校	兵 學 校	機 關 學 校	造 兵 廠	水 路 部	砲 術 練 習 所	水 雷 砲 練 習 所	新 原 採 炭 所
參考用治療器具機械物品	應用器具物品、學校用品及患者用物品	應用器具物品、學校用品、患者用物品及附屬船艦用物品	應用器具物品、學校用品、患者用物品及附屬船艦用物品	造兵用材料、器具、機械、鑄造器具、物品、試驗機、鑄造用器具、患者用物品及兵器保管運搬用物品、工業上生シタル不潔納物品	應用器具物品、測量用物品、圖誌製造用物品	應用器具物品、學校用品、患者用物品及附屬船艦用物品	應用器具物品、學校用品、患者用物品及附屬船艦用物品	應用器具物品、採炭用器具、機械物品及採掘石炭
監 獄	校	校	校	廠	部	所	所	所
長	長	長	長	長	長	長	長	長
×議	主	主	主	倉庫主	會計課	主	主	×書
員	計	計	計	管	長	計	計	記
監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師	監 獄 科 技 師

×印ヲ附シタル會計官吏ニハ辭令書ヲ附與ス

○陸達第六十八號

明治二十七年要塞砲兵第一聯隊及同第四聯隊第一大隊動員以來補助員トシテ同隊ニ附屬セシ後備歩兵卒ハ出師準備上要塞砲兵必要ノ人員ニ限リ砲兵ニ轉科セシムルヲ得ルコトニ定メラル

明治二十八年八月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第六十九號

後備歩兵聯隊ノ軍旗ハ聯隊ヲ編成セサルノ間ハ師團長之ヲ保管シ又聯隊ヲ編成スルトキハ同師團長之ヲ其聯隊へ交付スルコトニ定メラル

明治二十八年八月六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第七十號

臺灣總督府條例左ノ通り定メラル

明治二十八年八月六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

臺灣總督府條例

- 第一條 臺灣全島鎮定ニ至ル迄臺灣總督ノ下ニ軍事官衙ヲ組織スルコト別表ノ如シ
- 第二條 參謀長ハ總督ヲ輔佐シ總督府内各局ノ業務ヲ監視ス各局長ハ總督ニ具申スヘキ件ニ就テハ必ス先ツ參謀長ノ承認ヲ經ヘキモノトス
- 參謀長ハ幕僚ノ事務整理ニ關シ總督ニ對シ其責ニ任ス
- 參謀及副官ハ參謀長ノ指揮ヲ受ケ各自擔任ノ事務ニ服シ其責ニ任ス
- 新參ノ陸軍佐官副官ハ專ラ總督府全體ノ給養ヲ掌ル軍吏ハ此副官ノ指揮ヲ受ケ會計經理ノ事務ヲ掌ル陸海軍尉官副官ノ内各一名ハ總督ニ專屬シ通常庶務ヲ分擔セス唯事務繁劇ナル時爲シ得レハ之ヲ幫助ス
- 第三條 各局長ハ各自擔任ノ局務整理ニ關シ總督ニ對シ其責ニ任ス

明治二十八年八月 遼

陸軍省陸達第六十八號

陸達第六十九號

陸達第七十號

○海軍省達第六十七號
機關日誌摘要報告及水雷艇機關日誌摘要報告中左ノ通追加ス但現存スル分ハ記入使用スヘシ(追加略ス)

明治二十八年八月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第六十八號

海軍戰利品取扱手續左ノ通定ム

明治二十八年八月八日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍戰利品取扱手續

- 第一條 今回ノ戰役ニ於ケル戰利品ニシテ海軍兵備品若クハ通常物品トシテ使用ノ見込アルモノハ各其用途ヲ定メ見積代價ヲ付シ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ可シ
 - 第二條 使用ノ見込ナキ戰利品ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ賣却其他便宜ノ處分ヲ爲スヘシ
 - 第三條 戰利品ハ成ル可ク他ノ物品ト混セサル様區畫ヲ設ケ保管スヘシ
 - 第四條 兵備品若クハ通常物品トシテ物品會計官吏ノ保管ニ屬シタルトキハ別ニ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ但之カ出納及證明ニ關シテハ各其規程ニ依ルヘシ
 - 第五條 戰利品中兵器ハ第三條及第四條ニ依ラス軍務局ノ通牒ヲ以テ記帳整理ヲ爲シ其取扱方ハ海軍兵器出納規程ニ準スルモノトス
 - 第六條 戰利品中造船用ノ材料物品及器具機械ノ出納ハ海軍艦船取外物品出納手續ニ依ルヘシ
- 海軍省達第六十九號
- 勳四等旭日章及瑞寶章以下並ニ功六級金鷄勳章以下ノ勳章授與式左ノ通定ム
- 明治二十八年八月八日
- 海軍大臣侯爵西郷從道
- 海軍軍人ニ勳四等旭日章及瑞寶章以下並ニ功六級金鷄勳章以下ノ勳章ヲ授與スルニハ左ノ諸項ニ依ル

- 第一 准士官以上ニ授與セラル、勳章並ニ功六級功七級金鷄勳章ハ左ノ例ニ依リ奉授ス
東京若クハ大本營所在地ニアルモノハ海軍大臣奉授シ其他ノモノニアリテハ海軍大臣ヨリ各所管長官ニ送附シ奉授セシム
- 軍港内ニアル鎮守府司令長官部下ノモノニハ該司令長官奉授シ軍港外ニアルモノニハ各所管長官ニ送附シ奉授セシム
- 艦隊司令長官部下ノモノニシテ該官ト同港内ニアルトキハ該司令長官奉授シ同港内ニアラサルモノニハ艦隊司令官若クハ艦隊長又ハ艇隊司令ニ送附シ奉授セシム艦隊司令官其部下ノモノニ奉授セシムルモ亦之ニ準ス
- 第二 下士以下ニ授與セラル、旭日章及瑞寶章ハ左ノ例ニ依リ奉授ス
東京ニアルモノハ海軍大臣ヨリ所管長官ニ付シ奉授セシム其他ノモノニアリテハ各所管長官ニ送附シ所管長官ハ各所管長官ニ付シ奉授セシム
- 第三 海軍大臣奉授ノ式場ハ海軍省ニ設ク其式場ニハ人事課長大臣秘書官其他帶勤者四名以上班列スルモノトス但大本營所在地ニアリテハ便宜ノ處ニ之ヲ設ク
- 第四 鎮守府司令長官奉授ノ式場ハ府内便宜ノ處ニ設ケ其式場ニハ參謀長參謀祕書其他帶勤者四名以上班列スルモノトス
- 第五 艦隊司令長官司令官艦隊長艇隊司令ノ奉授ハ艦船艇ノ甲板上ニ於テシ奉授ノ節ハ總員整列ヲ行フヘシ
- 第六 團隊所長ノ奉授ハ團隊所ノ内便宜ノ處ニ於テシ奉授ノ節ハ總員整列ヲ行フヘシ
- 第七 式場ニ班列スル帶勤者ハ受章者ト同官等以上ノ者ニ限ル又四名以上ヲ得サルトキハ缺クモ妨ケナシ
- 第八 前諸項ニ掲ケサル奉授ノ式場ハ適宜之ヲ撰定シ班列者ハ其部下ヨリ撰定スヘシ

第九 金鷄勳章敘賜條例第八條ニ依リ勳章ヲ授與スルトキモ其式ハ前諸項ニ依ルヘシ
第十 金鷄勳章授與式ニハ奉授者 前項ノ場合 部下ノモノニシテ受章者ト同等以上ノ金鷄勳章
ヲ有スルモノニハ成ルヘク其式場ニ班列セシムルモノトス

○海軍省達第七十號

明治二十七年五月達第六十八號恩給請求ニ要スル書式中別紙第九書式ヲ追加ス

明治二十八年八月九日

海軍大臣侯爵西郷從道

(別紙)

第九書式

恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ若クハ戰時召集ニ應ジ
滿一年以上服役シタル者其恩給增加ヲ更ニ請求ノトキ

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某 儀

何年何月何日(豫備)後備(被仰付)被命(退職)免除恩給下賜相成居候處何年何月何日(現役ニ就キ)何々ノ役
ニ付召集ヲ命セラレ(爾來服役何年何月何日)何々ニ依リ(豫備)後備(退職)免官(免役)被仰付(召集)
ヲ解カレ候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ更ニ相當ノ恩給增加下賜相成居候處(豫備)後備(退職)免官(免役)被仰付(召集)
何府何市區何町何番地(華族(平民))
何府何市區何町何番地(寄留)
何縣何郡何村何番地(寄留)

職位勳爵 氏 名

海軍大臣爵氏名殿

奉ハ舊所管長官ニ宛テ

附屬スヘキ證據書類

履歷書(出身以來再ヒ現役ヲ離レ若クハ召集ヲ解
カレタルトキマテノ全文ヲ記載スヘシ)

○陸達第七十一號

明治二十七年陸達第百二十八號第四項ヲ左ノ通改メ同表式甲乙トモ朱書記註「十二月」ノ上ニ「三月
六月九月」ノ六字ヲ追加ス

但陸軍報告例第十四表及明治二十七年陸達第百二十八號乙表式人員表ハ本年ニ限リ九月盡日調
ヲ八月盡日調ニ繰上ケ陸軍報告例第二十八表ノ人員表ハ定期ノ外八月盡日調ヲ以テ共ニ報告ス
ヘシ

明治二十八年八月十日

陸軍大臣侯爵大山 巖

四豫備後備下士兵卒ノ人員ハ召集セラレタル者ト否トニ係ラス總人員ヲ陸軍報告例第十四表及第
二十八表ニ據リ報告スヘシ但召集中ノ人員ハ之ヲ朱書シ其旨ヲ備考ニ記スヘシ

(參照)

陸達第百二十八號(明治二十七年十月九日)抄録

戰時各部隊人員數報告取扱左ノ通定ス

四勳員ヲ行フタル師管在籍ノ豫備後備下士卒ニシテ召集ニ應セサル者ノ人員(殘員)ハ留守官衙ニ於テ陸軍報告例第十四表及

第二十八表ニ依リ報告スヘシ但特ニ戰時要員ニ充テサル者ハ之ヲ朱書シ備考ニ其旨ヲ記スヘシ

○陸達第七十二號

陸軍勳章授與式左ノ通改正ス

明治二十八年八月十一日

陸軍大臣侯爵大山 巖

陸軍勳章授與式

第一條 陸軍軍人ニ勳章ヲ授與スルハ本式ノ定ムル所ニ依ル但特別ノ規定アルモノハ此限ニアラ
ス

第二條 勳章授與式ニ列スル者ノ服裝ハ皆正装トス但授與式ノ爲メ整列スル軍隊ニ在テハ第四條
ノ規定ニ依ル

第三條 隊附將校ニ勳章ヲ授與スルトキハ軍隊整列ノ前ニ於テ當該師團長之ヲ授與ス其式概ネ左

ノ如シ

- 一 師團長ハ隊列ノ前面適宜ノ地ニ占位シ陪列ノ將校同等級ノ勳章ヲ師團長ノ前面兩側ニ對向並列シ受章者ハ肩刀シテ師團長ノ前ニ進ミ敬禮ヲ行ヒタル後刀ヲ收ム
- 二 師團長ハ副官ノ捧クル勳記勳章ヲ執リ之ヲ授與シ受章者ハ之ヲ拜受シ適宜ノ地ニ退キ其勳章ヲ佩帶ス
- 三 授與終レハ陪列ノ將校ハ隊列ニ復シ受章者ハ肩刀シテ師團長ノ左方ニ列シ整列ノ軍隊ハ分列式ヲ行フ

第四條 授與式ノ爲メ整列スル軍隊及其服裝ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 聯隊長並獨立大隊長ニハ部下聯(大)隊皆正裝整列シ步兵聯隊ニ在テハ軍旗ヲ樹ツ
- 二 大隊長聯(大)隊附少佐(大尉)中隊長聯(大)隊副官及聯(大)隊附中少尉ニハ所屬聯(大)隊皆整列シ大(中)隊長ニハ其部下大(中)隊ノ正裝ヲナシ其他ハ總テ將校以下皆軍裝トス

將校並准士官ハ背蓋ヲ負ハス脚絆ヲ著セス其馬具裝ハ鞍籠旅籠野營外袋ヲ附著セス又下士以下ニ在テハ水筒ヲ携帶セス背蓋ニ定規ノ入組品ヲ取メス工具環備靴飯盒ヲ附著セサル等ヲ得以下皆同シト

第五條 師團長ト所在ヲ異ニスル團隊長ノ勳章ハ所管師團長ヲ經テ直ニ本人ニ送付ス其部下將校ノ爲メニハ該團隊長ヲシテ所管師團長ニ代リ之ヲ授與セシム其式前諸條ノ例ニ準ス

第六條 軍隊ノ司令官タル將官並團隊長ニシテ特別ノ規定ニ依リ勳章ヲ授與セラレタル者ハ將官ニ在テハ其地所在ノ部下軍隊觀兵式ヲ行ヒ其他ニ在テハ第四條ニ規定スル軍隊分列式ヲ行フ

第七條 隊附准士官下士兵卒ニ勳章ヲ授與スルトキハ其隊長第三條ノ例ニ準シ所屬大隊(聯隊附)ニ在テハ其一大隊(整列)ノ前ニ於テス但服裝ハ軍裝ニシテ陪列者ヲ置カス又分列式ヲ行フトキ受章者ハ本隊ニ復歸ス

第八條 聯(大)隊ヲ爲サ、ル分遣隊等ニ在テハ該隊長ヲシテ前諸條ノ例ニ準シテ之ヲ行ハシム

第九條 校團隊附憲兵隊附將校以下並各隊附將校相當官ニ在テハ隊外將校以下ノ例ニ準ス

第十條 隊外將校並在職セサル將校ニ勳章ヲ授與スルトキハ陸軍省ニ於テ陸軍大臣之ヲ授與ス其式概ネ左ノ如シ

- 一 大臣ハ式場ノ中央上席ニ占位シ陪列ノ將校同等級ノ勳章ヲ大臣ノ前面兩側ニ對向並列シ受章者ハ大臣ノ前ニ進ミ敬禮ヲ行フ
- 二 大臣ハ副官ノ捧クル勳記勳章ヲ執リ之ヲ授與シ受章者ハ之ヲ拜受シテ後退去ス

第十一條 東京ニ在ラサル隊外將校及一般ノ隊外准士官下士兵卒ニ在テハ其所管長官前條ニ照シテ之ヲ授與ス但所管長官ト所在ヲ異ニスル官衙ノ長官ニ在テハ所管長官ヲ經テ直ニ本人ニ送付ス其部下ノ爲メニハ該官衙ノ長官ヲシテ所管長官ニ代リ之ヲ授與セシム其在職若クハ在隊セサル將校以下ニ在テハ直ニ本人ニ送附ス

第十二條 准士官下士兵卒ニシテ勳六等功五級以上ノ勳章ヲ受クル者ノ授與式ハ將校ノ例ニ準ス第十三條 戰地ニ在テ勳章ヲ授與スルハ概ネ前諸條ノ例ヲ適用シ左ノ區別ニ從ヒ授與式ヲ行フ但服裝ハ總テ軍裝トシ整列軍隊ハ受章者ノ所在地ニ現在スルモノヲ以テ適宜ニ之ヲ取捨スヘシ

- 一 隊附將校ニ在テハ該地所在ノ所屬高級團隊長
- 二 隊外將校ニ在テハ左ノ如シ

甲 大本營員並大本營直轄ノ各特設部ハ參謀總長

乙 軍司令部附並軍所屬ノ各特設部ハ軍司令官

丙 師旅團司令部附並師團所屬ノ各部並各特設部ハ師團長

此ノ如ク規定スト雖モ各長官ノ所在地外ニアル者ハ各其直屬長官ヲシテ授與セシム

三 准士官以下ハ隊附ニ在テハ該地所在ノ該隊長隊外ニ在テハ該地所在ノ直屬長官ヲシテ授與

○陸軍第七十三號
陸軍禮式中左ノ通過加セラル

陸軍大臣侯爵大山 巖

明治二十八年八月十一日
第五十五條中「勳一等」ノ下ニ「功一級」ヲ「勳六等」ノ下ニ「功五級」ヲ「勳八等」ノ下ニ「功七級」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第四號陸軍禮式(明治二十年一月十九日)抄錄

第五十五條 歩哨ハ衛戍ノ歩哨ナルト其他ノ歩哨ナルトニ論ナク 兩陛下及左ニ列祀スルモノニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

一 大皇太后皇太后陛下皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃陛下其他ノ皇族並外國ノ皇帝皇后陛下皇族

一 軍旗

一 陸軍大臣參謀總長監軍及將官上長官士官

一 大勳位及勳一等ヨリ勳六等ニ至ル各種ヲ除ク勳章佩用者

一 下士

一 勳七等及勳八等ノ各種勳章佩用者

○陸軍第七十四號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

陸軍大臣侯爵大山 巖

明治二十八年八月十一日

第十四條 勳章及從軍記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用ス然レトモ大勳位勳一等及功一級ニ在テ菊花大綬章旭日大綬章勳一等瑞寶章又ハ功一級章ハ正裝及禮裝ニハ佩用シ軍裝及通常禮裝ニハ其副章ノミヲ佩用スヘシ但略裝ハ勿論軍裝ト雖モ場合ニ依リ之ヲ佩用セサルコトヲ得

〔參照〕

陸軍省令乙第四百四十四號陸軍服裝規則(明治十九年十月二十五日)抄錄

第十四條 勳章及從軍記章ハ何レノ服裝ニ在テモ之ヲ佩用ス然レトモ大勳位及勳一等ニ在テハ菊花大綬章又ハ旭日大

綬章ハ正裝及禮裝ニハ佩用シ軍裝及通常禮裝ニハ菊花章又ハ旭日重光章ノミヲ佩用スヘシ但略裝ハ勿論軍裝ト雖トモ場合ニ依リ之ヲ佩用セサルコトヲ得

○陸軍第七十五號

陸軍武官進級令第四條陸軍豫備後備武官進級令第五條ニ依リ自今臺灣出征ノ將校同相當官以下進級停年ヲ半減ス

明治二十八年八月十六日

陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第七十一號(關)

○海軍省達第七十二號(關)

○海軍省達第七十三號(關)

○海軍省達第七十四號(關)

○海軍省達第七十五號(關)

○海軍省達第七十六號(關)

○海軍省達第七十七號(關)

○海軍省達第七十八號

英國ニ於テ製造中ノ甲號及乙號甲鐵戰艦並ニ吳鎮守府ニ於テ製造中ノ甲號報知艦左ノ通命名セラル

海軍大臣侯爵西鄉從道

明治二十八年八月十六日

甲號甲鐵戰艦

乙號甲鐵戰艦

甲號報知艦

富 士 島 古
宮 古

○海軍省達第七十九號

自今海軍兵曹水兵等ノ小銃射擊獎勵ノ爲メ優等者ニハ別圖ノ賞牌ヲ與ヘシメラル
明治二十八年八月十八日 海軍大臣侯爵西郷從道

(別圖ハ海軍省告示第十七號ニ同シ)

○陸達第七十六號

陸軍被服工長學舎學生 縫工科八名 本年十二月ニ於テ入舎セシメ候條左ノ検査格例ニ依リ検査ノ上
縫靴工科ヲ區分シ其書類ヲ取纏メ來ル十月十五日マテニ陸軍省經理局長ニ送付スヘシ
明治二十八年八月十九日 陸軍大臣侯爵大山 巖

明治二十八年陸軍被服工長學舎學生召募検査格例

陸軍現役兵卒ニシテ學生タルヲ志願シ得ヘキ者ハ行狀方正身體強壯ニシテ明治二十七年十二月入
營ノ者トス其試験科目ハ左ノ如シ

- 一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)
- 二 作文 往復文(真片假名)
但作文ヲ以テ作字ノ巧拙ヲ検査ス
- 三 算術 四則分數比例

○海軍省達第八十號(圖)

○海軍省達第八十一號

大勳位菊花章頸飾及金鷄勳章ヲ佩フル者ニ對スル海軍番兵ノ敬禮ハ左ノ式ニ依ルヘシ
明治二十八年八月二十日 海軍大臣侯爵西郷從道

内閣令第一二號

大勳位菊花章頸飾及金鷄勳章ヲ佩フル者ニ對スル海軍番兵ノ敬禮ハ左ノ式ニ依ルヘシ
明治二十八年八月十七日 海軍大臣侯爵西郷從道
内閣總理大臣侯爵伊藤博文

海軍番兵敬禮式

- 大勳位菊花章頸飾
- 功一級乃至功三級金鷄勳章
- 右捧銃シテ敬禮ヲ行フ
- 功四級功五級金鷄勳章
- 右肩銃シテ敬禮ヲ行フ
- 功六級功七級金鷄勳章
- 右建銃ノ儘姿勢ヲ正シテ敬禮ヲ行フ
- 右ノ外ハ明治二十一年十一月三十日訓令第一九號ニ依ル

○陸達第七十七號

臺灣總督府へ參謀トシテ佐官一名副官トシテ尉官一名ヲ更ニ配屬セラル

明治二十八年八月二十九日 陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第八十二號(圖)

○海軍省達第八十三號(圖)

○海軍省達第八十四號(圖)

○海軍省達第八十五號(圖)

○海軍省達第八十六號

艦船造修試験検査規則第四十六條第四十七條第四十八條及第五十二條左ノ通改正ス

明治二十八年八月三十日

海軍大臣侯爵西郷從道

第四十六條 第一種軍艦及水雷艦ハ外舷烟筒檣桁及塗粧ヲ要スル砲其他附屬船舟トモ其全體ヲ鼠色トシ烟筒ノ頭部ハ其直徑ノ大直徑ノ三分一マテノ深サヲ黑色トス但烟筒二本以上ヲ有シ其直徑各異ナルトキハ總テ最大直徑ノ黑色部ト同一ノ深サニナスヘシ

第四十七條 第三種軍艦及第四種第五種船ニ在テハ檣桁其他「ハムモックネツチング」ノ覆ヒ以上ハ總テ黄色トシ「ハムモックネツチング」ノ覆ヒ以下ニ於テ外部ニ附著シアルモノハ總テ外舷色ト同シクス但烟筒ノ頭部ハ前條ニ依リ黑色トナスヘシ

第四十八條 第三種軍艦及其他外舷ノ塗色左ノ通區別ス

第三種軍艦ニ搭載スル船舟

御召小蒸氣船端舟及司令長官乘用小蒸氣船端舟

團隊校附屬ノ端舟

右白色

第三種軍艦

團隊校附屬ノ汽船

知港事屬附屬ノ汽船端舟

第四種第五種船中ノ外舷塗裝ヲ要スルモノ

右黑色

第五十二條 同形軍艦ハ先ニ竣工シタルモノヲ除キ竣工ノ順序ニ依リ外舷線ノ色ヲ左ノ通變更シ之ヲ同形軍艦ノ識別線トシ之ヲ塗裝シタルトキハ其旨所管鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ但先ニ竣工シタルモノハ外舷線ヲ用ヒテ識別線トス又第一種軍艦ト第二種軍艦ト同形ナ

ルトキハ識別線ヲ要セス

赤

青

黒複線

赤複線

青複線

複線ノ幅ハ二千噸以上ノ艦ニ在テハ百「ミリメートル」ノモノニ條ヲ百「ミリメートル」ヲ隔テ二百「ミリメートル」トシ二千噸未満ノ艦ニ在テハ八十「ミリメートル」ノモノニ條ヲ八十「ミリメートル」ヲ隔テ二百四十「ミリメートル」トナシテ施スモノトス

〔参照〕

海軍省造第六號艦船造修試験検査規則(明治二十七年二月二日)抄録

第四十六條 艦船ノ檣桁其他「ハムモックネツチング」ノ覆ヒ以上ハ都テ黄色トシ烟筒ノ頭部ハ其直徑ノ大直徑ノ三分一マテノ深サヲ黑色トス但烟筒二本以上ヲ有シ其直徑各異ナルトキハ總テ最大直徑ノ黑色部ト同一ノ深サニナスヘシ又「ハムモックネツチング」ノ覆ヒ以下ニ於テ外部ニ附著シアルモノハ總テ外舷色ト同シクスヘシ

第四十七條 艦船外舷ノ著色ハ左ノ通區別ス

第一種軍艦及ロ之ニ搭載スル船舟

第三種軍艦ニ搭載スル船舟

御召小蒸氣船端舟及司令長官乘用小蒸氣船端舟

團隊校附屬ノ端舟

右白色

第三種軍艦

團隊校附屬ノ汽船

知港事屬所屬ノ汽船、端舟

第四種及第五種船中ノ外舷塗裝ヲ要スルモノ

右黑色

第四十八條 水雷艇ハ先ニ被服ヲハ其全體及ロ之ニ屬スル船中トモ風色トス
 第五十二條 同形軍艦ハ先ニ被服工シタルモノヲ除キ都テ竣工ノ順序ニ依リ外被線ノ色ヲ赤黄、淡黄ニ區別シ之ヲ同形軍艦ノ識別線トシ其旨所管鎮守府司令長官ヨリ海軍大臣ニ報告スヘシ但先ニ竣工シタルモノハ外被線ヲ用ヒテ識別線トス又五隻以上ノ同形艦ノ識別線ノ色ハ必要ニ際シ鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ又第一種軍艦ト第三種軍艦ト同形ナルトキハ識別線ヲ要セス

○陸軍第三十四號ノ二(五月分)
 陸軍戰時給與規則細則左ノ通改正ス

陸軍大臣伯爵山縣有朋代理

陸軍次官兒玉源太郎

明治二十八年五月十日

第一條中同第六條第一項及第二項増給ヲ受クル期間ヲ「出戰若クハ戰備ノ姿勢ヲ完成シタル日ヨリ復員若クハ解散終了ノ前日マテ又ハ同第六條第二項ノ期間」ニ改ム

〔参照〕

陸軍第九十三號陸軍戰時給與規則細則(明治二十七年八月六日)抄録
 第一條 本規則第四條ノ職務ハ同第六條第一項及第二項増給ヲ受クル期間之ヲ給ス其區別左ノ如シ
 一 平時乙額ヲ受クル者ニ在テハ總テ甲額ノ二等級ヲ給ス
 二 豫備後備ノ者ニ在テハ總テ甲額ノ二等級ヲ給ス
 三 平時心得勤加給俸ヲ受クル者ニシテ其職ヲ免セラレシテ戰時ノ職ニ就キタルトキニハ引續キ心得勤加給俸ヲ給ス

○海軍省達第八十七號
 海軍兵學校規則中左ノ通追加改正ス

明治二十八年八月三十一日

海軍大臣侯爵西郷從道

第三十一條中「第一圖ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加ヘ「第二圖ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加フ
 第三十二條中「第一項ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加ヘ「第二項ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加フ
 第五十二條ヲ左ノ通改ム
 第五十二條 本則第三十一條ニ掲クル賞牌及綬ノ製式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ佩用スルモノニアラス綬ノミ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス

第一圖



中央ノ櫻花ハ鍍金地質其他共銀



地質文字共銀



第三期生徒賞牌ノ綬

地質赤色絹真田織

第二期生徒賞牌ノ綬

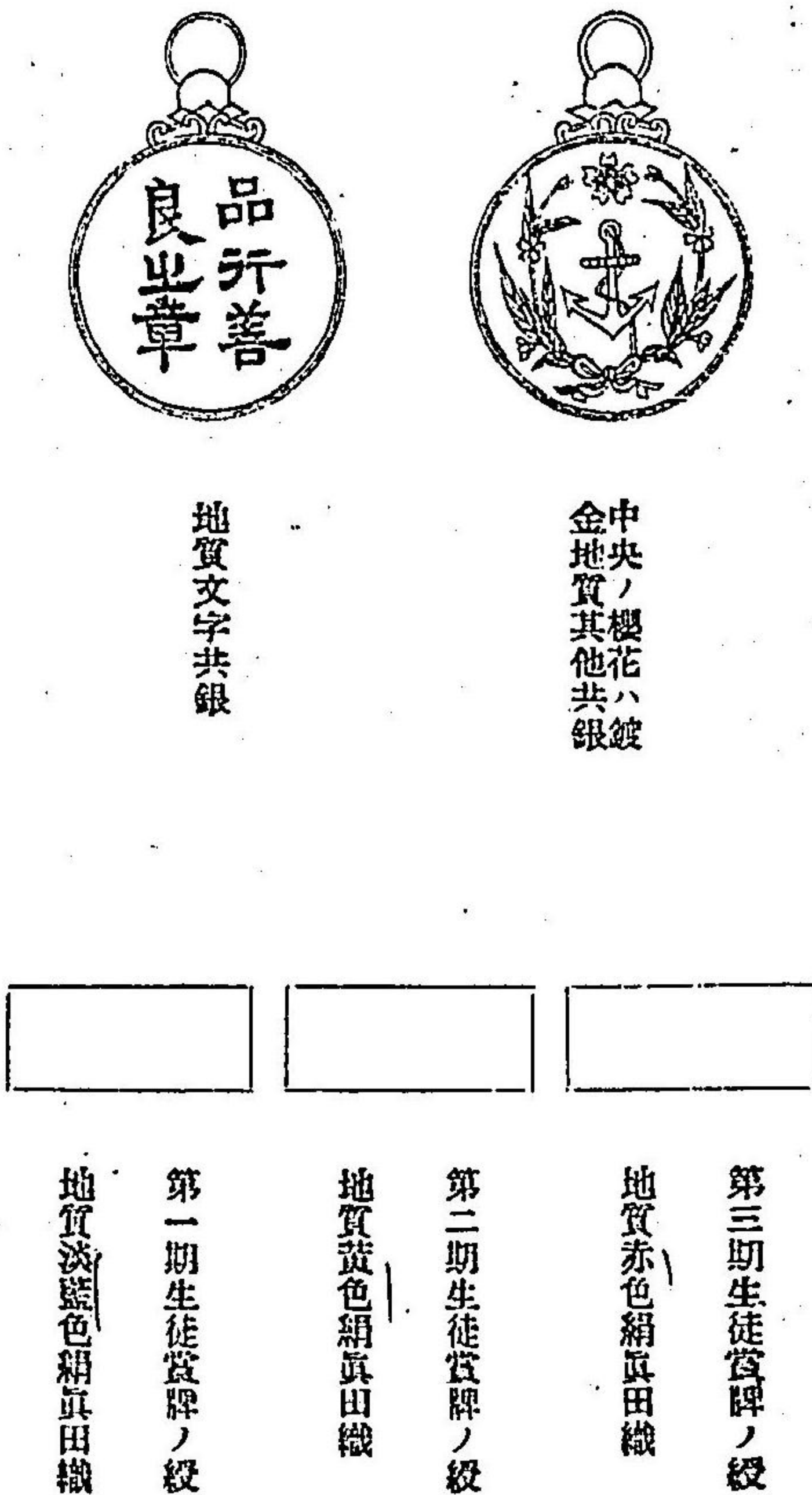
地質黃色絹真田織

第一期生徒賞牌ノ綬

地質淡藍色絹真田織

(原圖三分二縮寫)

第二一圖



〔参照〕

海軍省達第四百四十八號海軍兵學校規則(明治二十六年十二月三十日)抄録
 第三十一條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第五十二條第一圖ノ賞牌ヲ與フ
 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第五十二條第二圖ノ賞牌ヲ與フ
 第三十二條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験若クハ終末大試験ニ落第スルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲罰令ニ關ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス
 第五十二條 本則第三十一條ニ掲グル賞牌ノ制式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス

○海軍省達第八十八號

海軍機關學校規則中左ノ通追加改正ス

明治二十八年八月三十一日

海軍大臣侯爵西郷從道

第三十二條中第一圖ノ賞牌ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加ヘ「第二圖ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加フ
 第三十三條中第一項ノ賞牌ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加ヘ「第二項ノ賞牌」ノ下ニ「及綬」ノ二字ヲ加フ
 第六十一條ヲ左ノ通改ム

第六十一條 本則第三十二條ニ掲グル賞牌及綬ノ製式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ佩用スルモノニアラス綬ノミ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス

〔参照〕

海軍省達第四百四十九號海軍機關學校規則(明治二十六年十二月三十日)抄録
 第三十二條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第六十一條第一圖ノ賞牌ヲ與フ
 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第六十一條第二圖ノ賞牌ヲ與フ
 第三十三條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験又ハ終末大試験ニ落第スルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲罰令ニ關ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス
 第六十一條 第三十二條ニ掲グル賞牌ノ制式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ常衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス

○陸達第七十八號

臨時憲兵補充部條例左ノ通定メラル

明治二十八年九月一日

陸軍大臣侯爵大山 巖

臨時憲兵補充部條例
 第一條 憲兵司令部ニ臨時憲兵補充部ヲ置ク其編制別表ノ如シ
 第二條 臨時憲兵補充部長ハ憲兵司令官ノ指揮監督ヲ承ケ臺灣竝ニ占領地派遣ノ憲兵及之ニ屬ス

- 償ニ係ルモノハ尙其種類員數及辨償金額ノ仕譯書
- 五 損傷汚染交換渡又ハ廢棄賣棄ニ係ル交換渡ニ對シテハ當該上官ノ認定アル種類員數及其交換ヲ要スル事實ヲ詳記シタル證明書及受取人ノ領收證書
- 六 煮潰及燒却拂ニ對シテハ當該上官ノ認定アル煮潰燒却ヲ要スル事實ヲ詳記シタル證明書及監督官吏ノ認定アル立會官吏ノ調書
- 第四條 前條ノ證明書類ハ受拂ニ大別シ計算書ニ掲クル品目毎ニ其區畫ノ順次ニ依リ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量ノ合計及證明書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證明書僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順次ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナシ
- 一 證明書中數種ノ品目混合セルモノアルトキハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目ノ數量合計ヲ記載スヘシ
- 第五條 左ノ事項ハ計算書ノ備考ニ記載スヘシ
 - 一 證明書類中他ノ計算證明上提出濟ノモノアルトキハ其事由
 - 二 現在品ノ内地運送中ノモノアルトキハ其數量及事由
- 第六條 下検査官吏ハ計算書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 第七條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 計算書其他證明書類ノ件名冊數
 - 二 計算書ト印紙類出納簿トノ符合及其現在品ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
 - 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由
- 第八條 印紙類出納ノ證明ニ關スル審理書及之ニ對スル報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附則
第九條 本規程ハ明治二十八年九月ヨリ施行ス
(別記)

<p>明治何年度</p> <p>印紙類出納計算書</p>	
<p>備考</p>	<p>○北海道廳ニ於テハ受ノ部製造ヲ受入トシ拂ノ部何處何府縣何領事館ヲ何郡區役所トシ煮潰高ヲ燒却高トスヘシ</p>
<p>部</p>	<p>計</p>
<p style="text-align: right;">(第一號)</p> <p style="text-align: center;">明治何年度</p> <p style="text-align: center;">印紙類出納計算書</p> <p style="text-align: center;">名 廳</p> <p style="text-align: center;">一 凡例</p> <p style="text-align: center;">二 計算書ハ授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ</p> <p style="text-align: center;">三 印紙類會計官吏交替ニ依リ一會計年度ヲ通セサルモノアルトキハ計算書表題何年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ</p> <p style="text-align: center;">四 計算書ノ用紙ハ厚質製沙引美濃紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺一寸ノ綴代ヲ明クハシ</p> <p style="text-align: center;">五 計算書ハ改描塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等ニテ訂正ヲ要スルトキハ二線ヲ横畫シ主任官吏之ニ捺印スヘシ</p> <p style="text-align: center;">六 證明書類中検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其件名冊數ヲ計算書ニ附記スヘシ</p>	

(第二號)

明治何年度
印紙類出納計算書

一 凡印紙類之授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 二 凡印紙類之授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 三 凡印紙類之授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 四 凡印紙類之授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 五 凡印紙類之授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ

名 廳

部		拂										之		部		現 在	
買	入	計		代		代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代
		大	七	計	代												

品目		受之			
		完全	超過	計	何者
		ノ分	ノ分	ノ分	ノ分
		枚	枚	枚	枚
領券印紙					
五	厘				
壹	錢				
貳	錢				
參	錢				
肆	錢				
何	々				
何	錢				
何	錢				
身元保證立					
現	金	0			
公	債	0			
預	金	0			
土	地	0			
建	物	0			
保	險				
人	氏				
名	名				
身	元				
保	證				
金	額				
ト	キ				
ハ	其				
事	由				
ヲ	示				
ス	ベ				
シ					

明治何年度印紙類出納計算書面ノ通相違無之候也

印紙類會計官吏官氏名印

會計検査院長宛

年 月 日

(第三號)

明治何年度

印紙類出納計算書

五 四 三 二 一

計紙類會計官吏官氏名印

凡例

一 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

二 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

三 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

四 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

五 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

備考

一 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

二 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

三 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

四 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

五 計紙類會計官吏官氏名印ハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スベシ

之部

損傷

計

枚

枚

明治二十八年九月 達 會計検査院第四號

一七三

(第二號)

明治何年度

郵便切手類出納計算書

一 凡郵便切手類授受スルモノハ其年月日ヲ各自該表紙ニ記載スヘシ
 二 郵便切手類會計年度ニ依リ會計年度ヲ通セサルモノアルト
 三 郵便切手類會計年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
 四 郵便切手類會計年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ
 五 郵便切手類會計年度ノ次ニ其取扱ニ係ル年月日ヲ記載スヘシ

名

部		高		備考	
本納	戻	計	計	計	計
枚	枚	枚	枚	枚	枚

○二等郵便電信局海外郵便及電信局小笠原島郵便局及郵便電信支局ニテハ
 本書式中不用ノ欄ハ便宜削除スヘシ

之		部		之	
戻		交換		下	
計	計	計	計	計	計
枚	枚	枚	枚	枚	枚

第三條ノ末ニ左ノ一項ヲ加フ
本規則第七條第一項手當金ノ支給ヲ受ケタル者ニシテ支給後一箇年ヲ經過シ再ヒ出發スルトキ
免官非職解雇者ニシテ再ヒ任官又ハ復ハ更ニ同項ニ依リ之ヲ給ス同條第三項ノ支給ヲ受ケタル
職シ若クハ雇員トナリ出發スル者トモハ更ニ同項ニ依リ之ヲ給ス同條第三項ノ支給ヲ受ケタル
者召集ヲ解キ再ヒ召集ニ應シ就職スル者支給ノ時期モ亦同シ

〔參照〕

陸軍第九十三號陸軍戰時給與規則(明治二十七年八月六日)抄錄

第三條 本規則第七條ノ手當金ハ支給現時ノ等級ニ依ル爾後昇級スルモ之カ爲メ追給スルコトナシ

手當金ハ出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免セラレタルトキハ半箇月分ヲ給シ請願ニ依リ免スル者ハ給セス

本規則第七條第一項但書ノ手當金ヲ受ケタル者同項本文及第二項ノ手當金ヲ受ケル場合ニ在テハ尙ホ一回限り現時ノ俸

給若クハ給料ノ半箇月分ヲ給ス

本規則第七條第一項及第二項ノ手當金ハ士官以上ニシテ職務停乙額ヲ受ケル者ト雖モ甲額ヲ以テ算出ス

○陸軍第八十三號

今般臨時召募ノ士官候補生ニ限リ年齡十八年以上二十六年以下ニ定メラル

明治二十八年九月十一日

陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第九十號(兩)

○海軍省達第九十一號(兩)

○海軍省達第九十二號(兩)

○海軍省達第九十三號(兩)

○海軍省達第九十四號

艦船造修試驗檢査規則中左ノ通改正ス

明治二十八年九月十六日

海軍大臣侯爵西郷從道

第三十七條但書

但艦船備附船ノ引換ニシテ其船種若クハ寸法ヲ變更スルトキハ第二十一條ニ掲グル圖面其他
ノ書類ヲ添付スヘシ

第四十條但書中「及海軍大臣ニ報告スヘキモノ」ノ十二字ヲ削除ス

第四十四條 鎮守府ニ於テ軍艦水雷艇ノ修理等ニ著手シタルトキハ著手ト同時ニ竣工豫定期日ヲ

海軍大臣ニ報告シ其期日ニ異動ヲ生シタルトキハ其工事竣工シタルトキハ其都度直ニ海軍大臣

ニ報告スヘシ且一箇月間ニ施行シタル軍艦水雷艇修理等ノ工事ヲ一廉毎ニ記載シ第六號様式ニ

依リ翌月始メ軍務局ニ報告スヘシ海軍部外ノ製造所ヘ依托シタルモノモ本條ノ規定ニ依ル

第四十五條 艦船備付ノ船ヲ引換ノ爲メ製造スルトキハ其艦船ノ修理費ヲ以テ支辨シ第二十四

條乃至第三十條ヲ適用シ其船種若クハ寸法ヲ變更シタルモノニ在テハ尙ホ第三十一條第三十二

條ヲ適用ス但團隊校應付屬ノ船舟ニ在テハ修理費ヲ以テ引換製造スルコトヲ得ス總テ第二章ノ

手續ニ依ルヘシ

第八十七條 前諸章中船體機關等ノ改造新設廢却改色艦船備附船舟ノ引換其他試運轉ノ結果等ニ

依リ在來艦船ノ要目表ノ項目ニ異動ヲ生シタルトキハ鎮守府各主務廳ヨリ艦長豫備艦部長水雷

艇所屬長若クハ其船所屬長ニ報告シ明細表ニ異動ヲ生シタルトキハ鎮守府ヨリ軍務局ニ報告

スヘシ

〔參照〕

海軍省達第六號艦船造修試驗檢査規則(明治二十七年二月二日)抄錄

第三十七條 鎮守府司令長官所管艦船ノ修理等ヲ必要ト認メ又ハ其具申要求ヲ受ケ之ヲ至當ト認メタルトキハ豫算定額ノ

範圍内ニ於テ其緩急ヲ量リ修理或ハ引換ニ係ルモノハ直ニ工事ニ著手スヘシ其工事改造新設及艦船備附船舟ノ引換或ハ

一般裝置ノ變換ニ係ルモノハ其理由書ニ主務廳長ノ意見書工事方案ニ著手スヘシ其工事日及一廉毎ニ順次番號ヲ附シ

入費概算書ヲ添ヘ又修理或ハ引換ト雖モ其工事二箇年度以上ニ涉ルモノハ各年度ニ要スル入費概算及竣工期限ヲ定メ海

軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但在役艦艇ノ修理等ニシテ其工事一週日以上ニ涉ルモノニ著手シタルトキハ著手ト同時ニ竣工

豫定期日ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十條 鎮守府司令長官ハ所管艦船ノ檢査及修理等ヲ他ノ鎮守府司令長官ニ要求スルコトヲ得其要求ヲ受ケタル鎮守

府司令長官ハ其艦船未タ本管領守府ノ調査ヲ經サルモノナルトキハ之ヲ調査セシメ其方案竣工期限入費概算ヲ本管領守府司令長官ニ報告シ其承諾ヲ得テ工事ニ着手スヘシ但第三十七條ニ依リ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘキモノ及海軍大臣ニ報告スヘキモノハ都テ要求ヲ受ケタル領守府ニ於テ其手續ヲナスヘシ又其工事急務ヲ要スルモノナルトキハ修理或ハ引換ニ限リ入費概算ノ承諾ヲ求メ其方案等ハ工事着手ノ後報告スルコトヲ得

第四十四條 領守府ハ一箇月間ニ施行シタル軍艦及水雷艇修理等ノ工事ヲ一廉毎ニ記載シ第六號様式ニ依リ翌月始メ軍務局ニ報告スヘシ海軍部外ノ製造所ニ依リタルモノ亦同シ

第四十五條 艦船備付ノ船舟ヲ引換ノ爲メ新造スルトキハ造船及修理費中ノ艦船ノ修理費ヲ以テ支辨シ前條ノ外第二章中第二十八條乃至第三十條ヲ適用シ第三十二條及第三十三條ニ於ケル在來船舟ノ要目表及明細表中異動ノ項目ヲ艦船長及軍務經理兩局ニ報告スヘシ其船舟ノ種類若クハ寸法ヲ變更シ又ハ國隊校艦附屬ノ船舟ヲ引換フルトキハ修理費ヲ以テ支辨スルコトヲ得ス總テ第二章ノ手續ニ依ルヘシ

第八十七條 領守府ハ前條章中船體機關等ノ改造、新設、廢却、改色其他試運轉ノ結果等ニ因リ第四號明細表ノ項目ニ異動ヲ生スルトキハ其時々軍務局ニ報告スヘシ

○陸軍第八十四號

對馬警備隊附下士ハ明治二十九年四月一日以後總テ營内ニ居住セシム其該島ニ本籍ヲ有スル者及看護手縫工靴工ハ行狀方正勤務勉勵技藝熟達ノ者ニ限リ外泊セシムルコトヲ得

但明治二十四年陸軍第九十二號ハ廢止ニ屬スト雖モ從來營外ニ居住セシメアル者ニ限リ現役滿期ニ至ル迄之ヲ繼續ス

明治二十八年九月二十日

陸軍大臣侯爵大山 巖

〔參照〕

陸軍第九十二號(明治二十四年六月二十五日)抄録
對馬警備隊附下士工曹長同一二等軍曹砲兵監護工長下長ニシテ該島ニ本籍ヲ有セサル者ハ營外ニ居住セシメ其本籍ヲ有スル者及其他ノ隊附下士火工兵看護手縫工靴工ハ行狀方正勤務勉勵技藝熟達ノ者ニ限リ外泊セシムルコトヲ得

○陸軍第八十五號

遼東半島ニ派遣準備ノ爲メ憲兵將校以下養成ノ件左ノ通定メラル

明治二十八年九月二十二日

陸軍大臣侯爵大山 巖

一 東京憲兵隊ニ於テ憲兵將校二十六名憲兵下士八十名憲兵上等兵五百名ヲ養成ス

二 其將校ハ各兵科現役豫備後備將校ヨリ選任ス

但豫備後備將校ハ憲兵科志願ノ者ヨリ選拔シ之ヲ召集シ實際派遣ノトキ選任ス

三 養成ノ爲メ特ニ召募スル下士上等兵ノ現役期限ハ任命ノ日ヨリ三箇年トス

○陸軍第八十六號

明治二十八年陸軍第七十號臺灣總督府條例別表備考ヘ左ノ一項ヲ追加セラル

明治二十八年九月二十四日

陸軍大臣侯爵大山 巖

(一七) 民政局事務官及ヒ各部判任文官ハ當分ノ内雇員ヲ以テ充ツルコトヲ得

○陸軍第八十七號

明治二十一年陸軍第二百六號士官以下命課及配附轉換等取扱中隊附ノ部第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十八年九月二十八日

陸軍大臣侯爵大山 巖

一 上等伍長ハ某憲兵隊上等伍長ニ補セラル可キヲ以テ其隊中ノ分隊ニ配附又ハ之ヲ甲乙轉換スルハ隊長ニ於テ可シ

○海軍省達第九十五號

停年計算規則第四條第五項ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治二十八年九月二十八日

海軍大臣侯爵西鄉從道

但修理ノ爲メ本管ニ歸投スル能ハサルトキハ其竣工ノ日ヨリ歸著當日マテノ日數

〔參照〕

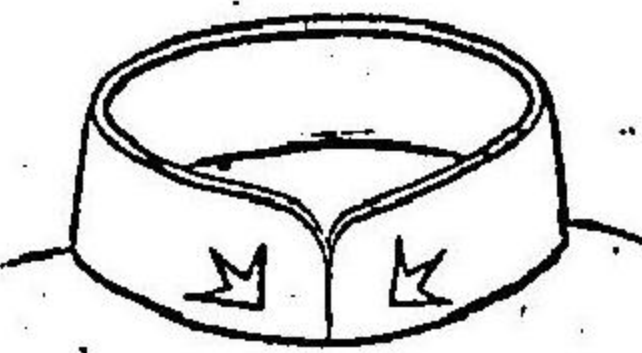
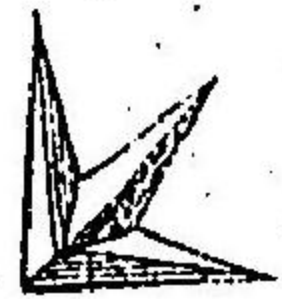
海軍省達第七十三號停年計算規則(明治二十四年八月十九日)抄録
第四條 左ニ掲クル日數ハ海上勤務ニ算入ス
五 在役艦ニシテ役務ヲ解カレ本管ニ歸投スルトキハ其歸著當日マテノ日數

○陸軍第八十八號

屯田兵將校以下衣ノ襟部ニ附著スヘキ徽章左ノ通り定ム
明治二十八年九月三十日

陸軍大臣侯爵大山 巖

品質 金銀鍍銀色
角頂ヨリ尖頭ニ至ル五分



○陸軍第八十九號

陸軍將校服制及陸軍下士以下服制中屯田兵服制改正相成候處右ハ漸ヲ以テ改正可致儀ト心得ヘシ
明治二十八年九月三十日

陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第九十六號(關)

○海軍省達第九十七號(關)

○海軍省達第九十八號

海軍參謀將校タル者ハ海軍軍令部局長局員及參謀ノ職名參謀長參謀ヲ帶フル者ノ外左ノ如ク定メラル

海軍省軍務局第一課長

各國公使館附海軍將校

明治二十八年九月三十日

海軍大臣侯爵西鄉從道

○海軍省達第九十九號
海軍參謀將校タル職員ニ關スル件ヲ廢セラル
明治二十八年九月三十日

海軍大臣侯爵西鄉從道

〔參照〕

海軍省達第九十四號(明治二十六年十一月二十日)

海軍參謀將校タル職員左ノ通定メラル

海軍軍令部局長局員

鎮守府參謀長參謀

艦隊參謀長參謀

各國公使館附海軍將校

○海軍省達第百號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス
明治二十八年九月三十日

海軍大臣侯爵西鄉從道

第十九條中「半靴」ノ下ニ「靴」モ靴墨ヲ

第二十一條 將官現及參謀佐尉官ハ飾緒ヲ佩アルモノニシテ將官ハ正服ニノミ之ヲ用ヒ其他ハ總テノ制服ニ用フルモノトス但通常軍服ニ限り同制式ノ白茶色絹絲製ノモノヲ用フルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第六十五號海軍服裝規則(明治二十七年四月二十五日)抄錄

第十九條 准士官以上制服ヲ著用スルトキハ革製ノ短靴ヲ用フモ革製ノ短靴ヲ用フヘシ但軍服及通常軍服ニハ他ノ革製短靴半靴

夏服ヲ著用シ若クハ通常軍服ニ夏袴ヲ著用スルトキハ白靴ヲ用フルコトヲ得

第二十一條 參謀將校及傳令使ハ飾緒ヲ制服ニ佩アルモノトス但通常軍服ニ限り同制式ノ絹絲製參謀將校及傳令使ハ白茶色ノモノヲ用フルコトヲ得

○海軍省達第百一號

海軍少藥劑官候補生實務練習規則左ノ通定ム

海軍大臣侯爵西郷從道

明治二十八年九月三十日

海軍少藥劑官候補生實務練習規則

第一條 新ニ採用シタル少藥劑官候補生ニハ一箇年以上海軍大學校及鎮守府病院ニ於テ其本官ノ實務ヲ練習セシム

第二條 實務練習科目ハ左ノ如シ

一 飲食物試驗實習

右ハ四箇月以上海軍大學校ニ於テ練習セシム

一 藥室治療品ノ出納

二 治療品検査

三 藥室整備

四 調劑事務

五 在庫治療品ノ出納

六 治療品準備供給

七 治療品貯藏ノ方法

右ハ八箇月以上鎮守府病院ニ於テ練習セシム

前記科目ノ外鎮守府病院ニ於テハ海軍ノ諸法則ヲ研究セシムヘシ

第三條 實務練習ノ順序ハ鎮守府病院ヲ先ニシ若クハ鎮守府病院ノ科目ヲ終ラサルモ半途ニシテ

海軍大學校ニ移ス等ノコトハ專ラ練習上ノ便宜ニ從フヘシ

第四條 海軍大學校長ハ軍醫科教官鎮守府病院長ハ藥劑官ヲシテ實務練習ノ指導者タラシメ海軍

高等武官候補生規則第十二條ニ準據シ其ノ成績ヲ報告スヘシ

○海軍省達第百二號

海軍少主計候補生實務練習規則第三條中「各練習ノ成績ヲ徵シ」ノ九字ヲ削除シ「自己ノ意見ヲ附シ

海軍大臣ニノ十三字ヲ「其成績ヲ」ニ改ム

明治二十八年九月二十日

海軍大臣侯爵西郷從道

〔參照〕

海軍省達第七號海軍少主計候補生實務練習規則(明治二十八年二月二十一日)抄錄

第三條 鎮守府監督部長ハ部員又ハ司計部主管、衣糧庫主管、艦營用品庫主管、海兵團長ハ副長、主計長、艦長ハ主計長ヲシテ實務練習ノ指導者タラシメ各練習ノ成績ヲ徵シ海軍高等武官候補生規則第十二條ニ準據シ自己ノ意見ヲ附シ海軍大臣ニ報告スヘシ

○陸達第九十號
豫備後備將校補充條例第十六條第二項ニ依リ士官適任證書ヲ所持スル豫備後備ノ准士官下士ヲ勤務演習ニ召集シタルトキハ豫備ノ准士官下士ハ豫備見習士官後備ノ准士官下士ハ後備見習士官ト爲ス

明治二十八年十月二日

陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第百三號
雇員傭人規則中監護ヲ守衛ニ改ム

明治二十八年十月二日

海軍大臣侯爵西郷從道

○陸達第九十一號
明治二十三年陸達第二百七號中「師團司令部」ノ下ニ「第七師管ニ在テハ屯田兵司令部」ノ割註ヲ加ヘ但書ヲ削除ス
明治二十八年十月三日
陸軍大臣侯爵大山 巖

〔参照〕

陸達第二百七號(明治二十三年十一月十七日)
陸軍士官以上ニシテ豫備後備ニ入ル者及依職停職トナリタル者ノ考科表ハ其際調製官ヨリ本籍所管ノ師團司令部(下士ニシテ豫備後備ニ入ル者ノ考科表ハ本籍所管ノ大隊區司令部へ送附シ各司令部ニ於テ保存ス可シ但北海道徴兵令未行地ニ在テハ士官以上及下士共屯田兵司令部へ送附シ司令部ニ於テ保存ス可シ

○陸達第九十二號

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ願出ルモノ取扱方左ノ通心得ヘシ

明治二十八年十月五日

陸軍大臣侯爵大山 巖

明治二十八年勅令第四百十號ニ依リ入院治療ヲ受ケント欲スルモノハ其願書ニ陸軍醫官又ハ地方醫師ノ診斷證書ヲ添ヘ最寄衛戍地ノ陸軍病院ニ願出テ病院長ハ其書類ヲ當該軍醫部長ニ出シ審査

ヲ經タル後衛戍司令官又ハ師團長ノ認可ヲ得テ之ヲ許可ス其入院中ノ諸費ハ該病院ニ於テ支辨スルモノトス

○陸軍第九十三號
陸軍砲臺監守採用候補補充條例第三條ニ依リ來ル十一月十日迄ニ申出ヘシ

但同條例第一條年限ヲ算スルハ來ル二十九年一月一日調ヲ以テス

明治二十八年十月七日

陸軍大臣侯爵大山 巖

〔參照〕

勅令第七十四號陸軍砲臺監守補充條例(明治二十三年八月十六日官報)抄錄

第一條 砲臺監守ノ補充ハ現役砲工兵科曹長同一等軍曹中志願者ニシテ其入隊ノ日任職シタル者ハ其任官ノ日ヨリ起算シ七箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

第三條 志願者アルトキハ隊長若クハ直屬長官ハ志願者中第一條ニ適當スル者ヲ撰ビ其人名簿ニ考科表ヲ添ヘ順序ヲ經テ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ呈シ同官ハ之ヲ審査シテ陸軍大臣ニ呈ス

○陸軍第九十四號(關)

○陸軍第九十五號

士官候補生及下士生徒増募ノ結果ニ依リ其修學期限左ノ通短縮スルコトニ定メラル

明治二十八年十月九日

陸軍大臣侯爵大山 巖

士官候補生修學期

一 明治二十六年十二月入隊、二十七年十二月士官學校へ入校、二十七年六月幼年學校卒業ノセシ士官候補生ハ二十九年五月士官學校ヲ卒業セシム

一 明治二十七年十二月入隊、二十八年七月士官學校へ入校、二十八年六月幼年學校卒業ノ上入隊同セシ士官候補生ハ二十九年十一月士官學校ヲ卒業セシム

一 明治二十八年十二月及二十九年三月入隊、二十九年七月士官學校へ入校、二十九年六月幼年學校卒業ノ上入隊同九月士官學校へ入校セシ士官候補生トモ

士官學校へ入校セシム、セシムヘキ士官候補生ハ三十年十一月士官學校ヲ卒業セシム

教導團及要塞砲兵幹部練習所生徒修學期

一 明治二十八年四月入團セシ教導團歩兵、騎兵、輜重兵科生徒及同五月入團セシ同騎兵、輜重兵科生徒ハ二十九年六月卒業セシム

明治二十八年五月及六月入團セシ教導團砲兵、工兵科生徒ハ二十九年八月卒業セシム

明治二十八年四月入所セシ要塞砲兵幹部練習所生徒ハ二十九年八月卒業セシム

一 明治二十九年七月入團セシムヘキ教導團歩兵、騎兵、輜重兵科生徒ハ三十年八月卒業セシム

明治二十九年九月入團及入所セシムヘキ教導團砲兵、工兵科生徒及要塞砲兵幹部練習所生徒ハ三十年十一月卒業セシム

○陸軍第九十六號

威海衛駐劄陸軍部隊給與規則細則左ノ通相定メ明治二十八年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十八年十月九日

陸軍大臣侯爵大山 巖

威海衛駐劄陸軍部隊給與規則細則

第一條 本規則第五條ノ手當金ハ支給現時ノ等級ニ依ル爾後昇級スルモ之カ爲メ追給スルコトナシ
手當金ハ出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ派遣ヲ免セラレタルトキハ半箇月分ヲ給ス又本人ノ事故ニ依リ免スル者ハ之ヲ給セス
前項官ノ都合ニ依リ免セラレタルモノ一箇年以内ニ於テ更ニ派遣ヲ命セラレ出發スルトキハ更ニ半箇月分ノ手當金ヲ給ス
手當金ノ支給ヲ受ケタル者免官、非職トナリ再ヒ任官又ハ復職シ前支給後一箇年以内ニ於テ再ヒ出發スル者ニハ再給セス

第二條 本規則第六條ノ増給ハ部隊出發ノ日ヨリ當該衛戍地ニ歸著ノ日迄之ヲ給ス但單獨往復ノ者ハ其所在地出發ノ日ヨリ内地在勤地ニ到着ノ日迄之ヲ給ス
 請願ニ依リ歸朝ノ途次某所ニ滞在スル者ハ其滞在地ニ到着ノ日ハ他道ニ迂回スル者ハ他道ニ入ルノ日迄増給ヲ給ス
 休職停職ト爲リ歸朝スル者ハ駐劄地出發ノ翌日ヨリ増給ヲ止ム
 第三條 部隊編成ノ際營内居住ノ者營外居住ノ職ニ轉シ又ハ營外居住ノ者營内居住ノ職ニ轉スルモ諸加俸ハ舊ニ依ル
 豫備後備ノ特務曹長下士以下ニシテ召集ニ應シタル者ハ總テ營内居住トス
 第四條 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ノ俸給若クハ給料ハ増給ヲ受クルノ期間減スルコトナ
 第五條 謹慎、入營倉拘禁、留置等ノ者ニシテ陸軍給與令細則並懲罰令ノ規定ニ依リ俸給若クハ給料ヲ停止スル間ハ増給ノ支給ヲ止メ減額スル間ハ増給ノ半額ヲ給ス
 第六條 軍人軍屬ノ俸給若クハ給料其他金錢ノ給與ハ其所屬部隊ニ於テ支給スルヲ例トス但陸軍病院ニ入院中支給日ニ當ルトキ若クハ支給日日前死亡ノ者ハ該病院ニ於テ之ヲ給スルコトヲ得
 前項但書ノ場合ニ在テハ當該病院ヨリ所屬部隊ニ之ヲ通報スルモノトス但軍隊手牒ヲ所持スル者ハ其手牒ニ之ヲ記載シ別ニ通報ヲ要セス
 第七條 軍人營内居住ノ軍屬ニシテ俸給若クハ給料及宅料等ノ全額又ハ其幾分ヲ留守宅ニ於テ受領セントスルモノハ金額及受領人ヲ定メ其請求書ニ受領人ノ現住地名番地及氏名ヲ記載セル印鑑ヲ添へ所屬部隊ヲ經テ當該師團監督部若クハ經理局第三課ニ出スヘシ
 第八條 前條請求ノ金額ハ師團監督部又ハ經理局第三課ニ於テ毎月支給日受領人ニ對シ仕拂ヲ

爲スモノトス但受領人ノ現住地甲師團監督部所管地外ニシテ乙師團監督部若クハ經理局第三課ニ於テ支給スルヲ便トスルトキハ甲乙監督部又ハ經理局第三課互ニ其仕拂方ヲ依囑スルコトヲ得此場合ニ在テハ依囑シタル應自リ本人所屬部隊ニ通報シ置クモノトス
 第九條 第七條ノ軍人軍屬ニシテ免官、免役、轉職、死亡、處罰等ノ事故ニ依リ俸給等ノ停止又ハ減却ヲ要スルトキハ本人所屬ノ部隊ハ直ニ之ヲ其俸給等ノ支給ヲ爲スヘキ師團監督部若クハ經理局第三課ニ通報スヘシ
 第十條 本規則第七條第一項ノ食料ハ附表第一表ノ定額ニ依ル又馬匹ノ飼料實費ノ用途金額ハ該地所在ノ最高等司令官之ヲ定ム
 前項ノ食料及飼料ハ時宜ニ依リ現品ヲ以テ給ス其定量ハ附表第二表ヲ基準トス
 第十一條 本規則第七條第二項ノ糧食並馬糧ノ定量ハ附表第二表ヲ基準トス同條第四項ノ糧食モ亦同シ但時宜ニ依リ部隊ニ時價相當ノ代金ヲ交付シ實費支辨セシムルコトヲ得其用途金額ハ該地所在ノ最高等司令官之ヲ定ム
 第十二條 糧食及飼料ノ給與ハ前二條ノ如シト雖攜帶口糧及攜帶馬糧ヲ給スル場合ニ在テハ食料、飼料、通常兵餉、通常馬糧ヲ給セス
 第十三條 特別ノ狀況ニ依リ其地所在ノ最高等司令官ニ於テ必要ト認ムルトキハ附表第二表ノ定量ヲ増加シ又ハ臨時飲食物、酒、烟草ヲ加給スルコトヲ得
 第十四條 本規則第七條第一項ノ家具ハ附表第三表ニ又駐劄部隊ニ要スル陣具ハ附表第四表ニ依ル
 第十五條 前條ノ家具及陣具ノ補充ハ所屬司令部ヲ經テ當該師團司令部ニ請求スヘシ
 第十六條 特務曹長、下士以下ノ被服補充ハ實際ノ所要ニ應シ所屬司令部ヲ經テ追送補充ヲ管理スル部隊ニ請求スヘシ

第十七條 追送補充ヲ管理スル部隊ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケ現品ヲ送付スルトキハ師團司令部ニ申出當該監督部ヲ經テ其手續ヲ爲スヘシ

第十八條 本規則第九條ノ特種ノ被服ニ係ル給與ノ始期終期並還納付與ノ區別ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十九條 軍人軍屬外ノ者ト雖陸軍病院ニ入ルトキハ所要ノ病衣類ヲ貸與スルコトヲ得

第二十條 本規則第十一條第二項ノ馬匹手當ハ内地ニ歸著後支給スヘシト雖駐劄地ニ於テ休職停職豫備後備トナリ歸朝スルモノ又ハ歸朝後上長官ノ職務心得勸ヲ繼續セサルモノニハ之ヲ給セス

第二十一條 本規則第十三條第一項但書中單獨者ニシテ陸軍給與令第三十二表ノ旅費ヲ受ケタル者一地ニ引續キ滞在十日ニ滿ツルトキハ同表ノ日當ヲ止メ其翌日ヨリ附表第五表ノ金額ヲ給ス

本規則第十三條第二項馬匹ノ旅費ハ汽車料、船舶料若クハ滞在中廢借料ハ現仕拂高飼料ハ陸軍給與令第三十二表ヲ目途トス

第二十二條 内地ニ於テ單獨旅行ノ者官有又ハ借入備入ノ舟車馬ニテ旅行セシムルトキハ陸軍給與令第三十二表ノ日當ノミヲ給ス但官ニ於テ糧食及宿舍ヲ給スルトキハ此限ニアラス

第二十三條 常設部隊ノ職ヲ免セラレ又ハ新任官シ駐劄部隊ニ屬シタルモノニシテ再々常設部隊ノ職ヲ命セラレ其在職地ト舊在職地若クハ新任官セシ地ト異ナルトキハ其際新舊任地間ノ移轉料ヲ給ス

附則 第二十四條 雇員ノ給料ハ月額參拾圓ヲ最上限トス但醫師又ハ技術者ハ此限ニアラス

備役者 雇員以下給料支給規則備給表ニ掲クルモノ及明治ノ給料モ亦前項ニ準シ日給トス但特別ノ役務ヲ爲サシムルモノハ此限ニアラス

第二十五條 雇員又ハ備役者 備員以下給料支給規則備給表ニ掲クルモノ及ニシテ本規則第五條ノ場合ニ在テハ手當トシテ其給料一箇月分ヲ給ス但日給ノ者ハ三十日ヲ以テ一箇月トス

前項手當金支給ノ方法ハ本規則第一條ノ例ニ準ス

第二十六條 前條ノ者ニハ駐劄地ニ出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄給料五分ノ一ヲ増給ス其支給ノ方法ハ本規則第二條ノ例ニ準ス

第二十七條 雇員及備役者ノ糧食ハ本規則第七條第二項及本規則第十一條及第十二條ノ例ニ準ス

第二十八條 雇員及備役者ニシテ被服ノ定制アルモノハ出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄實際ノ所要ニ應シ現品ヲ給ス此場合ニ在テハ定額交付ノ被服料ハ出發ノ翌月ヨリ歸著ノ前月迄之ヲ停止ス

前項被服ノ補充ハ本規則第十六條及第十七條ノ例ニ準ス

第二十九條 雇員及備役者ノ旅費ハ陸軍給與令第八十六條ニ依リ本規則第十三條及本規則第二十一條、第二十二條ノ例ニ準ス

第三十條 雇員及備役者ニシテ傷病者ノ藥餌官給及死亡者ニ係ル諸費官費支辨ハ本規則第十四條第十五條ノ例ニ準ス

第三十一條 本規則第四條乃至第九條ハ雇員備役者 備員以下給料支給規則備給表ニ掲クルモノ及ニモ之ヲ適用ス

第三十二條 本規則ニ明文ナキモノハ陸軍給與令細則及備員以下給料支給規則ノ條項ヲ適用ス

第一表

武	官	文	官	日	額
同將	官	高等官	二等以上	金	貳圓
相	官	高等官	二等以上	金	貳圓
長	官	同三等以下	五等以上	金	壹圓五拾錢
上	官	同三等以下	五等以上	金	壹圓五拾錢

兵	卒	金	貳	拾	四	錢
備	考					
一	特務曹長及在職中准士官タル曹長ハ准士官ノ額ニ依ル					
二	職員ニシテ給料一箇月六拾圓以上ハ准士官ニ拾貳圓以上ハ下士ニ拾貳圓未満及傭役者ハ兵卒ニ準ス					

○海軍省達第四百四號

艦隊需用品定額表中左ノ追加ス (追加略ス)
但數量表ハ經理局ヨリ送付セシム

明治二十八年十月九日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四百五號(關)

臨時軍事費整理規程別表臨時軍事費科目中「一時賜金」ノ目ノ次位ニ從軍記章費ノ一目ヲ追加ス

明治二十八年十月十三日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四百七號

劉公島ニ於テ捕獲シタル清國水雷艇一隻ヲ帝國水雷艇ト定メラル

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四百八號

一當分ノ内五等水兵及五等機關兵海兵團ノ學科ヲ終了シタルトキハ鎮守府司令長官ハ練習艦ノ外所管警備艦若クハ艦隊編入中ノ該所管軍艦ニ移シ教育セシムルコトヲ得其艦隊ノ軍艦ニ移ストキハ艦隊司令長官ニ協議スヘシ
二前項ニ依リ五等水兵若クハ五等機關兵ヲ乘艦セシムルトキハ其人員ノ數ニ應シ本艦定員中ノ卒ヲ減スルコトヲ得

三艦長ハ教育主任者ヲ定メ可成各其教育規則ニ準據シ教育セシムヘシ

四五等水兵五等機關兵各其學期ヲ終了シタルトキハ艦長ハ試験ヲ行ヒ及第者ハ四等水兵若クハ四等機關兵ニ進級セシメ其成績ヲ添ヘ海兵團ヘ送還スヘシ但學期内ト雖モ其學科ヲ終リタルトキ亦同シ

五前項ニ依リ進級セシメタルモノヲ以テ直ニ其艦定員ノ缺員ヲ補充スルコトヲ得

明治二十八年十月十五日

海軍大臣侯爵西郷從道

○海軍省達第四百九號

備人被服規則及服制表中左ノ通改正ス

海軍大臣侯爵西郷從道

明治二十八年十月十七日

- 一 備人被服規則及服制表中「監護」ヲ「守衛」ニ改ム
- 一 服制表守衛ノ欄帽地質及製式中「銅製」ノ下ノ「圓形」ニ縁及白銅鍍製鍔ヲ打出シ徑一寸二分トスニ改ム
- 一 同表兵器丁巳下ノ欄帽地質及製式「監護」ニ同シ「トアル」ヲ「前章」ハ銅製ノ圓形ニ縁及海字ヲ打出シ徑一寸二分トス其他守衛ニ同シニ改ム
- 一 同表使丁給仕ノ欄帽地質及製式「監護」ニ同シ「トアル」ヲ「兵器丁巳下」ニ同シニ改ム
- 一 同表圖式中左ノ如ク追加ス

守衛前章



一 同表圖式中「前章」ノ上ニ「兵器丁、定夫、晴夫」ノ七字ヲ加フ

○海軍省達第四百十號(關)

明治二十八年十月 海軍省第四百九號

○陸軍第九十七號

明治二十八年陸軍第十二號陸軍電信工夫被服給與員數表別表ノ通改正ス

明治二十八年十月十八日

陸軍大臣侯爵大山 巖

(別表)

陸軍電信工夫被服製式及給與表

品目	品名	製式	員數	給與區分
幅	地質黒絨 前底及腰紐黒革 圓徑一寸トス	テ圓形内ニ電ノ一字ヲ置ク	一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス但モノトス
法	單製地質紺木綿 給與地質表紺木綿裏淺黃木綿 襟章ハ總テ白染抜トス		一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス
外	地質紺絨 背章ハ臺地紺絨章紺トス		一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス
腹	給與地質表紺木綿裏淺黃木綿		一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス
股	單製地質紺木綿 給與地質表紺木綿裏淺黃木綿		一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス但モノトス
襦	地質紺小絨		一箇	初度一箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス
足	地質表紺木綿裏適宜		二箇	初度二箇ヲ給シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ之ヲ給ス

備考 幅法被服引及外套ノ背章ハ附圖ノ如シ

○陸軍第九十八號

明治二十七年勅令第九十五號ニ基キ屯田兵條例ニ依リ服役志願ノ下士並屯田各兵科現役下士補充細則第六條ニ依リ屯田兵ニ轉センコトヲ志願スル下士ノ願書類屯田兵司令部ヘ送附スヘキ期日本

年ニ限リ明治二十九年一月三十一日迄延期ス

明治二十八年十月十八日

陸軍大臣侯爵大山 巖

○海軍省達第百十一號

海軍武官待命休職條例左ノ通改正ス

明治二十八年十月二十日

海軍大臣侯爵西郷從道

- 第一條 高等武官ノ待命及休職者ハ直ニ海軍大臣ニ隸シ准士官ノ待命及休職者ハ軍務局長ノ所轄トス又鎮守府所在地ニ滞在スルモノハ該司令長官ノ監督ヲ受クルモノトス
- 第二條 待命及休職者ハ滞在在地ヲ指定スルモノ、外東京府下ニ滞在スヘシ但海軍大臣ノ許可ヲ受ケ鎮守府所在地ニ滞在スルコトヲ得
- 第三條 待命及休職者傷痍疾病旅行及轉居其他戶籍上ノ異動等ニ關スルコトハ一般ノ定規ニ依ルヘシ但海軍部内ノ文官ニ專任シタル休職者ハ家族ノ異動ヲ報告スルノ外本條ニ依ルコトナシ
- 第四條 本省及鎮守府ニハ待命者名簿ヲ備ヘ置クモノトス
- 第五條 待命者ニシテ東京ニ滞在スルモノハ本省ヘ鎮守府所在地ニ滞在スルモノハ鎮守府ヘ毎月一回出頭シ待命者名簿ヘ捺印スヘシ
- 第六條 待命者若クハ旅行中ノモノハ全快屆若クハ歸著屆ヲナスノ際出頭捺印スヘシ
- 第七條 待命者休職者ニシテ補職ノ辭令ヲ受ケタルトキハ速ニ出發シ其旨届出ヘシ

○海軍省達第百十二號

海軍各廳處務通則中左ノ通改正追加ス

明治二十八年十月二十日

海軍大臣侯爵西郷從道

第二十一條 官吏病氣ニ依リ出勤スル能ハサルトキハ各廳長ニ届出ヘシ日數延テ一週日ヲ超ユル

トキハ醫證ヲ添へ各廳長ハ直ニ大臣ニ勅委任官ハ各廳長ヲ經テ大臣ニ届出判任官ハ該長ニ届出
 尙穩サルトキハ三週間毎ニ届出ヘシ但出勤スルトキハ其官届出ヘシ
 前項判任官ノ缺勤一週日ヲ超ユルトキハ其廳長ヨリ准士官ハ軍務局ニ文官ハ人事課ニ通知スヘ
 シ其出勤ノトキ亦同シ
 第二十二條ニ左ノ二項ヲ加フ
 前項勅委任官ノ旅行ハ順序ヲ經テ其發著ヲ大臣ニ届出ヘシ又判任官ノ旅行ハ其發著ヲ廳長ヨリ
 准士官ハ軍務局ニ文官ハ人事課ニ通知スヘシ
 本條ハ海軍下士ニ適用セス

〔參照〕

海軍省要第一八五號海軍各職處務規則(明治十九年三月二十七日)抄録
 第二十一條 官吏病氣ニ依リ出勤スル能ハサルトキハ各廳長ニ届出ヘシ日數延テ一週間ヲ超ユルトキハ醫證ヲ添へ勅委任
 官ハ各廳長ヲ經テ大臣ニ届出判任官ハ該長ニ届出尙穩サルトキハ三週間毎ニ届出ヘシ但各廳長ハ直ニ大臣ニ届出ヘシ
 第二十二條 官吏病氣ニ依リ出勤スル能ハサルトキハ各廳長ヲ經テ大臣ニ届出ヘシ判任官ハ該長ニ届出該長之ヲ許否スヘシ若シ延期ヲ要スル
 長ハ直ニ大臣ニ届出勅委任官ハ各廳長ヲ經テ大臣ニ届出ヘシ判任官ハ該長ニ届出該長之ヲ許否スヘシ若シ延期ヲ要スル
 トキハ更ニ三週日以内ヲ限リ前手續ニヨリ事故ナレハ追願シ病氣ナレハ醫證ヲ添へ届出ヘシ
 日數ハ豫定シテ願出ルモノトス若シ途中已ニ得サル事故或ハ病氣ニテ該日數ヲ超フルトキハ其事由ヲ届出ヘシ

○海軍省達第百十三號

海軍軍人増俸規則左ノ通定ム

明治二十八年十月二十日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍軍人増俸規則

第一條 軍人ノ増俸ハ總テ拔擢ヲ以テス
 第二條 増俸ハ超級ノ増俸ヲ爲スコトナク又左ニ掲クル資格ヲ有スル者ニアラサレハ増俸スルコ
 トナシ

一、高等武官及准士官ニ在テハ任官又ハ増俸ノ日ヨリ一箇年ヲ過キタル者

二、一等下士ニ在テハ任官又ハ増俸ノ日ヨリ實役停年最下期限ノ四分ノ一ヲ過キタル者

三、二等及三等下士ニ在テハ實役停年最下期限ノ半ヲ過キタル者

第三條 待命休職停職及收禁處刑中ハ増俸スルコトナシ又該日數ハ増俸資格年數ニ算入スルコト
 ヲ得ス

第四條 每級人員ハ左ノ制限ヲ超ヘサルヲ例トス

一、大佐同相當官及少尉同相當官ニ一級俸ヲ給スルハ各其人員ノ二分ノ一、大尉及同相當官ニ

一級俸二級俸及三級俸ヲ給スルハ每級各其人員ノ四分ノ一トス

二、准士官ニ一級俸二級俸三級俸及四級俸ヲ給スルハ每級各其人員ノ五分ノ一トス

三、一等下士ニ一等級二等級及三等級ノ俸給ヲ給スルハ每級各其人員ノ四分ノ一、二等下士及

三等下士ニ一等級ノ俸給ヲ給スルハ各其人員ノ二分ノ一トシ其人員ハ各鎮守府ニ區分ス

第五條 第二條ノ資格ヲ具ヘタル後猶ホ同條ノ年限ヲ過キ且職務勉勵功勞顯著ナル者ハ前條ノ制

限ニ拘ハラステ増俸スルコトアルヘシ

前項ニ依リ下士ヲ増俸セシムルトキハ豫メ狀ヲ具シテ海軍大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六條 准士官以上ノ増俸ハ毎年六月十二月ニ於テ左ノ諸項ニ依リ之ヲ具狀ス可シ

一、海軍大臣ニ直屬スル者ハ海軍次官其拔擢スヘキ者ヲ選ミ之ヲ海軍大臣ニ具狀ス

二、海軍省各局長ハ其部下課長ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ海軍大臣ニ具狀ス、各局各課長ハ其部下

ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ其局長ニ具狀シ局長ハ之ヲ取捨シテ海軍大臣ニ進達ス

三、衛生會議、技術會議、大學校、兵學校機關學校、造兵廠及鎮守府監督部ニ在テハ其長各部下ノ

拔擢スヘキ者ヲ選ミ海軍大臣ニ具狀ス

四、鎮守府及艦隊ニ在テハ司令長官ニ直屬スル者ハ司令長官其拔擢スヘキ者ヲ選ミ之ヲ海軍大

臣ニ具狀ス、艦隊所長參謀長其他各部ノ長ハ其部下ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ司令長官ニ具狀シ司令長官ハ之ヲ取捨シテ海軍大臣ニ進達ス

五、軍令部長ニ直屬スル者ハ部長其拔擢スヘキ者ヲ選ミ之ヲ海軍大臣ニ移牒ス、軍令部各局長及水路部長ハ各其部下ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ軍令部長ニ具狀シ部長ハ之ヲ取捨シテ海軍大臣ニ移牒ス

第七條 下士ノ増俸ハ毎年六月十二月ニ於テ左ノ諸項ニ依リ之ヲ行フ

- 一、衛生會議、兵學校、機關學校及鎮守府監督部ニ在テハ各長其部下ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ其在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒ス
- 二、鎮守府及艦隊ニ在テハ艦隊所長參謀長其他各部ノ長ハ其部下ノ拔擢スヘキ者ヲ選ミ各其司令長官ニ具狀ス
- 三、艦隊司令長官ハ部下ノ増俸ヲ要スル人員ヲ各等級ニ區分シ其在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ通知ス
- 四、鎮守府司令長官ハ前諸項ニ依リ増俸ヲ要スル人員ヲ調査シ第四條ノ制限ニ照シ増俸セシムヘキ割合ヲ定メ其艦隊ニ屬スル者ハ之ヲ艦隊司令長官ニ通知ス
- 五、前項ニ依リ定メタル割合ノ範圍内ニ於テ鎮守府司令長官ハ其部下及本條第一項ニ掲クル者ノ増俸ヲ行ヒ艦隊司令長官ハ其部下ニ屬スル者ノ増俸ヲ行フ

附則

第八條 海軍高等武官増俸規則及海軍准士官下士増俸規則ハ本達發布ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍第九十九號(附)

○陸軍部百號

明治二十八年勅令第四百十六號ニ據リ本年十一月一日ヨリ似島檢疫所ヲ第五師團司令部ニ彥島檢

疫所ヲ第六師團司令部ノ管理ニ屬シ右兩所ニ於テ檢疫ヲ行ハシム

前項檢疫事務施行ニ就テハ明治二十八年陸軍省令第六號臨時陸軍檢疫部檢疫規則第一章第一條乃至第三條同第十三條第十四條第三章及第四章ノ各條ヲ適用ス

明治二十八年十月二十三日

陸軍大臣 侯爵 大山 巖

○海軍省達第四百十四號

艦船發著報告例左ノ通定ム

明治二十八年十月二十五日

海軍大臣 侯爵 西郷 從道

艦船發著報告例

- 第一條 艦船内國ノ電信料或ハ郵便料ヲ以テ處辨シ得ル地ニ發著スルトキハ其艦船ヨリ電信電信ハ郵便以下同シキヲ以テ海軍省及所管長官司令官艦下ノ艦船ニアニ報告スヘシニ報告スヘシ
- 第二條 外國航海ノ艦船海外電信料或ハ郵便料ヲ以テ處辨スヘキ地ニ發著スルトキハ其艦船ヨリ電信ヲ以テ海軍省ニ報告シ海軍省ヨリ電信ヲ以テ之ヲ其所管長官ニ通達シ司令官艦下ノ艦船ナルトキハ所管長官ヨリ電信ヲ以テ之ヲ司令官ニ通達スルモノトス但司令官若クハ司令官モ亦海外ニアルトキハ其艦船ヨリ直ニ司令官若クハ司令官ニ電信ヲ以テ報告シ司令官ハ内國ニア官ニモ亦報告ス此場合ニ於テハ海軍省ヨリ所管長官ニ通達スルヲ要セス但郵便ヲ以テ本條ノ報告ヲナス場合ニハ第一條ノ例ニ依ル
- 第三條 外國航海ノ艦船初メテ本邦ヲ發シ若クハ初メテ本邦ニ歸著スルトキハ第一條ニ依ルノ外尙ホ乗組下士卒在籍ノ各海兵團ニモ通知スヘシ但鎮守府司令長官艦下ノ艦船ナルトキハ其鎮守府所屬ノ海兵團ニハ艦船ヨリノ通知ヲ要セス鎮守府ヨリ通達スルモノトス
- 第四條 艦船乗組ノ下士卒入院シアルニ當リ該艦船内國ノ電信料或ハ郵便料ヲ以テ處辨シ得ル地

ニ發著スルトキハ其發著ヲ該病院ニ通知スヘシ

第五條 艦船二隻以上同時ニ發著シ或ハ所管長官司令官若クハ前任艦長ノ所在地ニ發著スルトキハ海軍省又ハ所管長官若クハ司令官ニ對スル報告ハ同所管所屬中ノ前任將佐尉官ヨリ海兵團若クハ病院ニ對スル通知ハ各艦船ヨリ之ヲ爲ス

第六條 海軍省又ハ所管長官若クハ司令官ニ對スル出發報告ニハ其航向地名ヲ記スヘシ又發著報告ノ電信文ハ左ノ例ニ據ル但非常ノ際若クハ電信局ナキ地ヨリ發信スルトキハ必要ニ應シ其時刻地名等ヲ記スルヲ要ス

(例)

出艦ノトキ

何港(或ハ何地方)ニ向ケ行ク(英文 Arrive for — (署名) 署名)

封令出艦(英文 Leave, Sealed order 署名)

著港ノトキ

著(英文 Arrived, 署名)

著港後直ニ出艦スヘキ豫定ノトキ

著何時何港(或ハ何地)ニ向ケ行ク(英文 Arrived, Leave for — (署名) 署名)

第七條 艦隊等附屬ノ艦船發著報告ハ司令官所屬ノ艦船ト同一ノ例ニ依ル

第八條 水雷艇ハ左ノ區域外ニ出艦スルトキハ本例ニ依リ報告通知スヘシ

横須賀 劍崎ト洲崎トノ結合線以外

吳 宮島瀬戸 那沙美瀬戸

大野瀬戸 早瀬ノ瀬戸

隱戸ノ瀬戸

佐世保 軍港外

竹敷 大口灣外

第九條 本例ニ依リ艦船發著報告ヲ海軍省ニ於テ受ケタルトキハ直ニ海軍軍令部ニ通知ス

第十條 戰時若クハ事變中ニ於ケル艦船發著報告ハ臨時ノ命令ヲ以テ規定スルコトアルヘシ

○海軍省第百十五號

海軍軍人軍屬身上報告例左ノ通定ム

明治二十八年十月二十五日

海軍大臣 侯爵西郷從道

海軍軍人軍屬身上報告例

第一條 初メテ高等武官若クハ判任以上ノ文官ニ任セラレ又ハ各候補生ヲ命セラレタル者ハ官旨又ハ辭令書ト共ニ送附スル履歷野紙ニ其本貫族籍其他所要ノ事項ヲ記入シ人事課ニ差出シ爾後本貫族籍住所變換其他戶籍上ニ異動アルトキハ同課ニ報告スヘシ其改姓名ノ報告ハ所轄廳ヲ經由スルヲ要ス但文官ハ家族ノ異動ヲ報告スルニ及ハス

第二條 初メテ准士官ニ任セラレタルモノ、履歷ハ本籍海兵團ヨリ軍務局ニ移シ爾後戶籍上ニ異動アルトキハ第一項ニ準シ本人ヨリ軍務局ニ報告スヘシ

第三條 賞罰其他兵籍上ノ異動ニ關スル件ハ其所轄長ヨリ高等武官各候補生及文官ハ人事課ニ准士官ハ軍務局ニ通知スヘシ但内閣若クハ海軍省等ノ令書ニ依ルモノハ通知ヲ要セス

第四條 公務旅行ノ發著ハ其所轄長ヨリ高等武官各候補生及文官ハ人事課ニ准士官ハ軍務局ニ通知スヘシ

第五條 豫備役後備役ニアル者發病又ハ全治ノトキハ高等武官ハ人事課ニ准士官ハ軍務局ニ報告スヘシ

第六條 豫備役後備役ニ在ル者旅行スルトキハ出發ノ際其豫定日數及出發ノ日ヲ高等武官ハ人事課ニ准士官ハ軍務局ニ届出ヘシ歸著ノトキ亦同シ

第七條 下士卒ノ進級増俸轉乘轉勤入退院死亡逃亡賞罰其他兵籍上ノ異動ニ係ルモノハ總テ其所

轉長ヨリ本籍海兵團ニ通知スヘシ但懲罰ニ限リ一箇月ツ、取纏メ翌月頭ニ通知スヘシ
第八條 下士卒入院若クハ在監中其所轉變換スルトキハ其都度舊所轉長ヨリ病院若クハ監獄ニ通知スヘシ

第九條 下士卒ノ身上ニ關スル報告通知ニハ其官職姓名ノ上ニ入籍番號ヲ記入スヘシ
○海軍省達第百十六號
海軍下士卒身上取扱規則左ノ通定ム

明治二十八年十月二十五日

海軍大臣侯爵西郷從道

海軍下士卒身上取扱規則

第一條 下士卒ニ轉勤ヲ命シ或ハ退院若クハ出監等ニ依リ歸投セシムルトキハ出發セシムル艦團隊廳ニ於テ行路ヲ指定シ其旨到著スヘキ艦團隊廳ニ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テ四人以上同一ノ地ニ發向スルトキハ行軍ノ心得ヲ以テ旅行セシメ其中ノ高級者ヲシテ之ガ取締ヲナサシメ同一ノ行路ヲ取ラシムヘシ

第二條 入院若クハ在監ノ下士卒退院若クハ出監スルニ當リ乘組艦船遠隔ノ地ニアリ或ハ特別ノ場合ニ於テ其所在不分明ナルトキハ之ヲ本籍海兵團ニ送附スヘシ
事故ノ爲メ退院若クハ出監ノ當日發程スル能ハサルトキハ一時其地ノ海兵團ニ入團セシムヘシ

第三條 父母ノ重病ヲ看護セシムル爲メ親族若クハ近隣戸主二名以上連署ノ願書ニ市町村長又ハ區長ノ證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ下士卒ノ歸省ヲ願出ルトキハ艦團隊長及各廳長ハ役務ニ差支ナキ限リハ往復ヲ除キ十四日以内ノ歸省ヲ許可スルコトヲ得

第四條 傷痍疾病ニ依リ現役ヲ免シタル下士卒單身歸郷スル能ハサルトキハ護送人ヲ附スルモノトス

第五條 鎮守府司令長官ハ部下海兵團在籍ノ下士中級位級勳資格ヲ有スル者ニシテ其級位級勳ヲ

至當ト認ムルトキハ級位者ニ在テハ其都度級勳者ニ在テハ毎年四月盡日マデニ資格ヲ有スルモノハ其年一月十五日限リ十月盡日マデニ資格ヲ有スルモノハ其年七月十五日限リ其履歴ヲ軍務局ニ送附スヘシ但他所管長官各廳長ノ部下ニ在ルトキハ豫メ該長ト協議ヲ遂グルヲ要ス
前項ニ依リ履歴ヲ送附シタル後級位級勳以前ニ於テ轉免黜陟其他兵籍上ノ異動アルトキハ在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ハ其都度之ヲ軍務局ニ通知スヘシ

○海軍省達第百十七號

海軍通常物品會計規程別冊ノ通改定ス

明治二十八年十月二十六日

海軍大臣侯爵西郷從道

(別冊)

海軍通常物品會計規程

第一條 海軍通常物品トハ海軍兵備品ヲ除キタル各種ノ物品ヲ總稱ス

第二條 海軍通常物品ノ類別ハ第一號乙表ニ據ル

第三條 備品ノ定數及消耗品ノ年額ハ供給ヲ掌ル各廳長之ヲ定メ所管長官ノ認可ヲ經テ施行シ所管長官之ヲ認可シタルトキハ海軍大臣ニ届出ヘシ海軍大臣ニ直屬スル廳長ハ直ニ之ヲ定メ海軍大臣ニ届出ルモノトス

器具機械ノ定數ハ各廳長之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
造船造兵火藥建築ノ各材料切手類帳簿木印學術其他試驗用物品及授業ノ製作物品等ハ定數ヲ定メサルモ妨ケナシ

第四條 定數外臨時物品ヲ要スルトキ若クハ定數ヲ増減セントスルトキハ各廳長ハ所管長官ノ認可ヲ經テ施行シ所管長官之ヲ認可シタルトキハ海軍大臣ニ届出ヘシ海軍大臣ニ直屬スル廳長ハ直ニ之ヲ施行シ海軍大臣ニ届出ルモノトス

第五條 物品出納命令官ハ物品會計官吏ヲシテ毎年一回 遠隔ノ地ニ供用中ノ器具又ハ備品ノ使用ニ適スルヤ否ヤヲ調査セシメ使用ニ適セサルモノハ引換交付スルモノトス但臨時引換ヲ要スルトキハ物品會計官吏ハ出納命令官ノ認可ヲ得テ引換交付スルコトヲ得

第六條 物品ヲ要求スル者ハ第二號物品受領票ニ式ノ如ク記載シ出納命令官ニ送付スヘシ

出納命令官前項ノ物品受領票ヲ調査シ交付スヘキモノト思惟スルトキハ檢印ノ上物品會計官吏ニ附ス物品會計官吏ハ現品ヲ支出シ要求者ヲシテ物品受領票ニ捺印セシメ之ヲ引換ニ交付スヘシ

第七條 物品會計官吏ハ保管物品缺乏シ又ハ支出ノ命令アル物品ヲ有セサルトキハ品名 數量及事由ヲ詳記シ出納命令官ノ調査ヲ經テ購買ノ手續ヲ爲スモノトス

第八條 物品會計官吏物品ヲ受入ントスルトキハ第三號物品納票ニ出納命令官ノ檢印ヲ受クヘシ

第九條 生産品又ハ他應ヨリ讓受品其他ノ物品ヲ受入ル、トキハ概ネ前條ノ手續ニ據ルヘシ但本條ニ據リ難キトキハ適宜ノ認票ヲ以テ代用スルコトヲ得

第十條 不用ニ屬スル物品、工業上生シタル殘屑、其他複生物ハ共用品取扱主任其他ニ於テ第四號物品還納票ニ式ノ如ク記載シ現品ト共ニ物品會計官吏ニ送付スヘシ物品會計官吏ハ出納命令官ノ檢印ヲ得タル後還納者ニ受領證ヲ交付シテ現品ヲ受入レ記帳サルモノハ見積代價ヲ付シノ手續ヲ爲スヘシ

物品會計官吏ハ物品ノ還納ヲ受タルトキハ之ヲ調査シ毀損等アルトキハ其事由ヲ證明セシメ出納命令官ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 將來使用ノ見込ナク離權スヘキモノト思惟スル物品ハ物品會計官吏其品名 數量及離權スヘキ事由ヲ記シ出納命令官ノ認可ヲ經テ賣却若クハ棄却ノ手續ヲ爲スヘシ

物品賣却若クハ棄却セシメタルトキハ第九號物品離權票ニ出納命令官ノ檢印ヲ得タル後、棄

却ノ場合ニ於テハ物品會計官吏記名捺印シ棄却ノ手續ヲ爲シ賣却ノ場合ニ於テハ買受人ヲシテ記名捺印セシメ代價納入ノ後現品ヲ交付スヘシ

第十二條 物品會計官吏ノ保管ニ屬スル物品ヲ臨時借用セントスル者ハ第五號物品借用票ニ式ノ如ク記載シ出納命令官ニ送付スヘシ出納命令官ハ之ヲ調査シ至當ト認メタルトキハ檢印シテ物品會計官吏ニ附ス物品會計官吏ハ物品借用票ヲ引換ニ現品ヲ貸與スヘシ

物品借用ノ期限ハ三箇月以上ニ渉ルコトヲ得ス又借用ノ物品ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十三條 甲應ノ物品ヲ乙應ニ於テ必要トスルトキハ出納命令官ハ甲乙兩應合意上其保管轉換ヲ爲サシムルコトヲ得不用ニ屬シタル兵備品ニシテ通常物品トシテ使用ニ適スルモノ亦同シ但器具機械及造兵材料ノ保管轉換ハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

艦船取外物品ハ工場用器具機械及艦船造修用ニ限り保管ノ轉換ヲ爲スコトヲ得

第十四條 保管ノ轉換ヲ爲スニハ甲應物品會計官吏ハ第七號物品送付票ト共ニ現品ヲ乙應物品會計官吏ニ送付シ乙應物品會計官吏之ヲ受ケタルトキハ物品受領票ヲ甲應物品會計官吏ニ送付スヘシ

第十五條 經年其他ノ爲メ自然汚損若クハ減耗シタル物品アルトキハ專用者又ハ共用品取扱主任ヨリ汚損品ニアリテハ第六號物品修理要求票ニ減耗品ニアリテハ第八號物品亡失毀損報告票ニ式ノ如ク記載シ物品會計官吏ニ送付シ物品會計官吏ハ之ヲ出納命令官ニ報告スヘシ物品會計官吏ノ直接保管ニ係ルモノハ該官吏直ニ之ヲ出納命令官ニ報告スルモノトス

前項ニ掲ケタル事由ニアラスシテ物品ヲ亡失損毀シタルトキハ物品ノ保管者ヨリ其顛末ヲ詳記シタル理由書ヲ調製シ前項ノ順序ニヨリ報告スヘシ

傳染病患者等ノ爲汚穢ニ屬シタル物品ニシテ醫官ニ於テ燒却スヘキモノト認定シタルトキハ其物品所用處ニ於テ臨機ノ處分ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ其物品ノ保管者ヨリ顛末ヲ詳記セ

明治三十八年十月 海軍省第百十七號